

医家芸術 2020 年 後期号

64 巻 通巻 639 号

目 次

◇医家随想

怖い新型コロナウイルス

感染と男性の平均寿命

浜名 新 …………… 2

あなたは必ず死ぬ

豊泉 清 …………… 11

小さな恩返し

八潮 弘三郎 …………… 14

記備談語ー16・17ー

佐藤 玄祥 …………… 47

“I feel Coke”

和田 秀敏 …………… 86

タイムマシーンに乗れるか

橋本 英明 …………… 88

式場隆三郎著『二笑亭綺譚』

新装版の刊行

一木村莊八の“幻”の挿絵が

媒介するもの

山田 真理子 …………… 90

◇特集

『私の好きな1冊の本』

フロイト中山元訳

『人はなぜ戦争をするのか、

エロスとタナトス』

中野 弘一 …………… 95

◇愛知で医芸コンサートを開催

安井 廣迪 …………… 98

医芸俳壇 ……………101

医芸歌壇 ……………101

クラブ通信 ……………103

表紙の言葉 …………… 97

原稿募集のお知らせ ……105

医家随想



怖い新型コロナウイルス

感染と男性の平均寿命

浜名 新

2019年12月中国、湖北省武漢から発現した、新型コロナウイルス、COVID-19は、2020年年初から武漢を巻き込んで蔓延し、その後、瞬く間に、世界の各地に流行した。2020年、11月17日ジョンズ・ホプキンス大の集計では、世界で5507万4994人の感染陽性者、132万8068人の死亡者を生じさせた年として、同時に、世界の経済

を最高に落ち込ませた年として、世界的に記憶されよう。

コロナウイルス感染症のおさらいです。ネット上での情報を参照しました。

コロナウイルス感染症には4種類あるそうです。遺伝子の変異がおこなわれると、より重症化しやすいそうです。

*なぜ…風邪の原因の10%から15%を占め、4種類のヒトコロナウイルス、毎年発生、死亡まれ、

*SARS（重症急性呼吸器症候群）…SARSコロナウイルス、2002〜3年に発生、致死率9.4%、収束、2類感染症。

*MERS（中東呼吸器症候群）…MERSコロナウイルス、2012から、致死率34%。2類感染症。

*現在、世界に流行している新型コロナウイルス（COVID-19）…SARS-COV-2。2019年から、世界中に流行、致死率3.3%指定感染症、

症状は、*軽症例…通常の風邪症状、のどの痛み、咳、鼻水、だるさ、熱、5日から7日続き、軽快する。味覚・臭覚障害を訴える事例もあります。

*重症例…5日から7日通常の風邪症状、10日目頃から、呼吸苦、咳、37.5度前後の発熱で入院が必要になります。症例によりICU管理、酸素吸入、人工呼吸器、体外式膜型人工肺（ECMO）を使用。

死亡する頻度の高い群は、70歳以上の高齢者で、持病（基礎疾患）を有す症例のようです。新型コロナウイルスは、重症肺炎を併発しやすく、そ

その他、血管の血栓症などを併発させるそうです。

感染者の国別では、アメリカ(120万人以上・死亡24万人以上)、インド(887万人以上・死亡13万以上)、ブラジル(587万人以上・死亡16万以上)、フランス(204万以上・死亡4万以上)、ロシア(195万人以上・死亡3万人以上)、スペイン(149万人以上・死亡4万人以上)、英国(139万人以上・死亡5万人以上)、アルゼンチン(131万以上・死亡3万人以上)、イタリア(120万人以上・死亡4万人以上)、世界全体では5507万人以上・死亡132万8068人、2020年11月17日、ジョンズ・ホプキンス大の集計参照)

2020年11月17日、東京新聞朝刊、日本での感染者は12万1956人で、死亡者は1933人で、「ダイヤモンド・プリンセス号」感染者7

12名・死亡13名

経時的に、検査を受ける人が増えると、感染者数が増える関係があるようで、その割には、死亡者数の数値は抑えられているようです。

日本ではPCR検査数自体は少なく、PCR検査の処理能力が不十分なためか、クラスター(感染集団)を見つけ、*誰にうつした可能性があるか、*誰からうつされた可能性があるか、両面から検討しているのが、日本のやり方ようです。PCR検査処理能力の規模拡張がなされつつありますが・・・。

2020年2月から5月にかけて、第1波の流行と考えれば、7月・8月・9月・10月は、第2波として、11月からは第3波として、東京中心ではあるが、北海道、大阪、愛知、福岡、沖縄、横浜、千葉、埼玉など全国的に再流行し、感染者数の増加、感染経路の不明の割合は50%以上と増

加しているようです。

日本では国内流行のさきがけとして、横浜港に係累した「ダイヤモンド・プリンセス号」の、乗客・乗員の感染者、712名が生じ、その対応が大々的に報じられました。

この航行中、2020年1月25日、香港で下船した乗客が、1月23日から咳、30日に発熱、2月1日に「新型コロナウイルス陽性」を確認。そのため、日本政府は、2月3日、横浜港に入港クルーズ船に対し、その乗員・乗客の下船を許可しなかった。2月3日から2日間、全乗員・乗客の健康診断が検疫官によりおこなわれ、症状のある人、及びその濃厚接触者から新型コロナウイルスの検査実施のために、咽頭ぬぐい液が採取されました。

2月5日に、COVID-19陽性者が確認されたことから、クルーズ船に対して同日午前7時より14日

間の検疫が開始された、また、一定のエリアを非清潔区域と、清潔区域に分類し、清潔区域にウイルスを含まないようにすること、または、いかにウイルスを広げないようできるか、空間を使って対策を検討する「ゾーニング」が導入されました。この時点で、クルーズ船には乗客2666人、乗員1045人、合計3711人が乗船していました。

感染者は、日本の各地の病院、ホテル、国立の収容施設などに、一定期間隔離された。重症者は感染症を標榜している病院に搬入され、治療が開始され、酸素吸入、特殊薬剤、人工呼吸器、さらに重症呼吸不全患者は、体外式膜型人工肺（ECMO）が装着され、呼吸不全の改善に向けて治療が行なわれ、薬石の効無く亡くなられた人は13名でした。

当初から、感染症に対する病床、人工呼吸器、エクモ人工肺（体外式膜型

人工肺）などが逼迫し、同時に又、医師、看護師、医療工学士などの医療従事者たちの感染防御の防御服、感染防御用のフェイスマスク、医療用マスク、手袋など不足がちで、完全使い切りというわけにはいかなかったようです。

医療従事者たちの治療・ケアに対する使命感、献身的な奉仕の実践の寄与により、重症患者が救われ、亡くなった人は少数に留まったようです。

経時的にコロナ関連の主な事象を拾うと、

*2020年1月16日国内感染者確認、

*2月4日、「ダイヤモンド・プリンセス号」で乗客・乗員10人の感染判明。後に、感染者712人（死亡13人）。

*2月13日国内初の死者。

*3月11日世界保健機構（WHO）、

パンデミック（世界的流行）と認定。

*3月24日東京5輪・パラリンピックの1年延期。

*4月7日「緊急事態宣言7都府県に発令」（4月7日―5月25日）、そして、16日に、緊急事態宣言を全国に拡大、5月4日に緊急事態宣言を延長、5月25日に緊急事態宣言を全面解除、

*6月1日学校再開、6月19日全都道府県をまたぐ移動を解禁、7月10日5000人規模のイベント開催承認、

*7月20日国内死者が1000人を超える。

*7月22日、「GO TO トラベル キャンペーン開始、10月1日から東京解除される。同時に、GO TO イート、始まる。

*10月1日、すべての国からビジネス関係者、留学生、技能実習生など中長期滞在者の入国を解禁する。

政府の戦略は、経済の立ち直りと、感染の抑制を両立させて、日本を元気にさせようとの戦略である。

各世帯の個人に、特別低額給付金一律10万円を支給（2020年8月末が締切日とか）。経営者には休業補償給付と支援を含めて、懸命な対応が行われました。

しかし、2020年7月・8月、毎日、全国的には1000人から1500人前後の感染陽性者が検出され、感染濃密者からの感染のみならず、感染経路不明の陽性者は50%以上に認められている。9月・10月になり、全国的に感染者数の減少が認められ、収束が期待されたが、11月に入ると、人の移動が自由になったのか、感染陽性者数が急増加し、全国津々浦々に感染が広がらないか危惧されます。冬を迎えれば、インフルエンザの流行もありうるので、油断できません。

年代別では、10代以下、10代、20代・30代・40代・50代、11月になると、60代、70代、80代以上と、幅広く分布するようになっていく。夜の接待場所、居酒屋・酒場・食堂、ライブハウス、病院、介護施設、職場、合宿所などにおける集団感染、家庭内の親子感染がじわじわ増加しているようだ。感染経路不明の頻度は50%以上に及び、市中感染の拡大を示唆しているのかもしれない。

新聞・マスコミで報道された、新型コロナウイルスの犠牲になった有名인들의 経過を見ると、コロナ肺炎の重症化するスピードが速く、病態が治療を上回り、生還することは、厳しかったようだ。謹んでお悔み申しあげます。

コメデアンの志村けんさんの場合、3月17日呼吸障害、全身倦怠感あり、自宅で様子見ていたところ、呼吸不

全で、3月20日病院を受診し、重度の肺炎と診断されて、都内港区の病院に入院した。3月23日新型コロナウイルス陽性と判明。3月24日には体外式膜型人工肺（ECMO）を必要とされ、新宿の病院に転院され、直ちにECMOを装着され、懸命な治療にもかかわらず、あえなく3月29日午後11時10分死去された。

遺族は病院で本人を看取することも出来ず、遺体は直ちに火葬され、遺族は骨を拾うことも出来なかったそうだ。新型コロナウイルス感染は、親子・遺族の関係を断ち切る、非情の特性を有する、怖い感染症です。

女優の岡江久美子さんは4月3日発熱、自宅で療養していたが、4月6日容態急変し、緊急入院、PCR検査で陽性、ICUで治療していたが、4月23日死去された。昨年、乳がんの手術をされたそうだった。

外交評論家の岡本行夫（おかもと

ゆきお)さんは、新型コロナウイルス感染の疑いで都内の病院に入院したのは4月14日、17日には呼吸不全で酸素吸入、人工呼吸器をつけ、24日にはあえなく死去された。

元オムロン社長で、同社が開発した世界初の自動改札システムの普及に奔走された、立石義雄さんは、4月1日倦怠感、2日発熱、5日肺炎と診断され、感染経路不明で、6日コロナ感染陽性であった。持病があり、人工呼吸器をつけ治療されたが、21日未明死去された。

大蔵流狂言師の善竹富太郎(ぜんちくとみたらう)(本名・茂山富太郎)さんは、4月30日、新型コロナウイルス感染に伴う敗血症で、40歳の若さで急逝した。数日前から体調不良を訴えていた富太郎さんは、顔色が不良となり、呼吸も荒くなり、呼びかけにも反応しなくなり、4月9日夕、救急車で日本赤十字医療センターに

(都内渋谷区)搬送され、集中治療室(ICU)で治療が開始された。13日家族は新型コロナウイルス陽性を知らされた。入院から10日後、「体外式膜型人工肺」(ECMO)を装着したが、30日昼過ぎ心拍数が急激に落ち始め、亡くなったそう。

新型コロナウイルス肺炎を併発した重症患者は、ICU管理で、人工呼吸器をつけ、あるいは、人工呼吸器の適応が無ければ、体外式膜型人工肺(ECMO)装置をつけ、呼吸不全の改善に向け、懸命な治療を受けた結果、何割か、生還できなかった。死亡頻度が高い群は、70歳代以上の高齢者で、また、血管の炎症・血栓形成で、諸臓器の梗塞を併発するような事例もあるそうです。山梨県では髄膜炎の併発もあり、無事生還されたそうです。

運よく、新型コロナウイルス肺炎を、乗り切った患者さんでも、何割か

の患者さんでは、後遺症に苦しむ体験などが散見される。

ネット上での検索では、感染者の約3割は、後遺症に悩まされると報告されている。ICU治療後症状(閉じ込め)、QOLの低下、体重減少・体力消耗、倦怠感(だるい)、腎障害、息苦しい・胸痛などの肺(肺線維化)など呼吸器に関連した諸症状、関節痛、味・嗅覚異常、不安・不眠・うつめなどの気分障害や、認知障害など、多岐にわたっているようです。

新型コロナウイルス感染者の8割は、無症状あるいは症状が軽く、2割の人が重症化しやすく、かつ、死亡する割合が高いそう。特に、70歳代以上の高齢者、生活習慣病、喫煙者、心不全、呼吸器疾患の既往歴のある人たちだという。高齢者では免疫力・体力(抵抗力)が低下していると想定される。

無症状の人たちは、PCR検査、あるいは、抗原検査をしていなければ、

感染陽性者と認識されずに、他人と接触すれば、感染させるかもしれない。基本は、検査を受ける機会が多いほうが、感染防止の観点から推奨されると考えます。

2020年10月現在、新型コロナ感染の収束気配は、当分見込めず、新型コロナウイルスと共存・共生を図り、免疫抗体の獲得をめざすことになると思います。

それには、ワクチン接種あるいは自然感染による抗体獲得を目指す方法。感染した場合には効果的な薬剤の使用で症状の改善(治癒)を図り、抗体獲得を得る方法です。同時に、宿主的な対応として、個々人の免疫力アップを図らねばなりません。そうすれば、生き残れるし、感染の収束が期待されると思います。

2020年9月9日、日本集中治療医学会と日本救急医学会は、推奨する治療薬を重症度別に記したガイ

ドライン(指針)を公表した。軽症患者には治療が進む新型インフルエンザ治療薬の「アビガン」の投与を弱く推奨、中等症・重症患者には肺の病氣などに広く使われているステロイド薬「デキサメタゾン」を強く推奨、5月に治療薬として特例承認された「レムデシベル」は弱く推奨するとした。(読売新聞2020年9月10日朝刊)。

なお、本邦で承認された新型コロナウイルス治療薬には、抗ウイルス薬「レムデシベル」と抗炎症薬「デキサメタゾン」がある。「アビガン」の治療では有効性を認め、来月にも承認申請するそうだ(読売新聞9月24日朝刊)。

予防的対応として、抗体獲得、三密(密接・密閉・密集)を避ける、マスク着用、手指手洗いの励行、ステイホーム(巣籠もり)、行動には社会的距離(1.5mから2m)を維持すること、

テレワークの拡大が推奨されている。最近では、プロ野球、J1・J2サッカーの試合、大相撲などにおいては、観客を入れて試合をすることが許可される方向になっている。

日常生活では、ウイルスの居場所が特定されないもので、疑心暗鬼にならざるを得ない。三密になりやすい環境、職場、家庭内での感染も含めて、ヒトからヒトへの飛沫感染・接触感染を避けることが肝要で、日常生活では、マスク着用と手洗いは欠かせない。

注：スペイン・インフルエンザ一般には「スペイン風邪」。第一次世界大戦中に米国から発生したと推定されるが、戦争当事国は被害を秘し、中立国だったスペインが公表したため、その名が広まった。世界の患者数は5億人、当時の総人口の3分の1に上り、死者数は4000万人とも1

億人とも言われている1918年から1920年にわたる期間です。

「日本を襲ったスペイン・インフルエンザ」では1918年から1920年の3波の襲来で、日本国内の死者は38万〜45万以上と推計されている。現在では「H1N1亜型インフルエンザウイルス」と判明している。100年前の大事件で、生き残った人たちは、免疫抗体を獲得し、感染の嵐が過ぎ去ったようだ。

「コロナとメデシア」…論説委員の飯尾歩氏と、藤原よしお(藤原書店)氏との対談(東京新聞9月28日)の記事を参照しました。

藤原書店から出版された、スペイン風邪を扱った、速水融(あきら)著「日本を襲ったスペイン・インフルエンザ・人類とウイルスの第一次世界戦争」。最近よく読まれているようです。

終章で、著者は、「嵐のもとで市民

生活の維持に、なにが最も不可欠かを見定めることが何より必要である。まず、スペイン・インフルエンザから何も学んでこなかったこと自体を教訓として、過去の被害の実際を知り、人々がその時の『新型インフルエンザウイルス』にどう対したかを知ることから始めなければならない」、また、あとがきで、著者は、

「歴史の出来事を叙述する筆者の願いは、とにかくスペイン・インフルエンザと、それに曝された人々の悲鳴を聞き、状況を知って欲しい、というひと言に尽きる。当時の人々は、そのような事態に直面して、どう対応したのか、政府はなんらかの手を打ったのか、そして、なぜ、忘れ去られたのか、これらのことをじっくり噛みしめていただきたい」

対談の最期で、藤原氏は、内務相や東京市長などを歴任し、関東大震災からの「帝都復興」を成し遂げた後藤

新平氏のいう「衛生」という「言葉」をあげ、今政府がやるべきは、この二文字に尽きる、と提言されております。

世界における感染症に関して、大阪市立大、医学科感染防御学分野教授の小林和夫氏が、「21世紀における感染症の脅威と制圧戦略」第1回総論「感染症の原状と展望」の論考が参考になる。その「要旨」です。2002年12月「日本臨床内科医会誌参照。記事は古いかもしれませんが、内容は、現在に通用すると思います。

「世界の年間総死亡数は5400万人、内訳として、感染症に基因する死亡は1350万人、すなわち感染症は総死亡の約1/4を占めています。さらに、悪性新生物(胃がん、肝細胞がん、子宮頸がん)、成人T細胞白血病や動脈硬化に病原体感染が関与し、感染症は広範で甚大な健康被害

害を招来しています。

感染症の増加には、社会的要因として、都市化／過密、貧困、交通機関の発達による高速移動や国際化、宿主要因として、易感性（高齢化、糖尿病、免疫抑制薬・臓器移植）、病原体要因として病原性の変化や薬剤抵抗性などが関与しています。

世界保健機関は、『後天性免疫不全症候群・結核・マラリア』に対し、緊急事態を宣言しています。21世紀の世界や人類は、感染症制圧戦略を模索することでしょう。教育・行政・社会基盤整備に加えて、人類の叡智が感染症を克服することを期待しています」

「感染症制圧戦略として、*教育・環境・行政・社会的基盤整備、*抗微生物化学療法、*免疫介入療法 *併用療法（抗微生物化学及び免疫介入療法）」をあげています。

時の政府は思い切った資金を投入

し、援助してほしいものです。

感染症に対する個人の対応するべき心構えとして、山田養蜂場（ミツバチ・アピセラピーを追及）が、読売新聞（2020年5月28日朝刊）の広告に、枝広淳子（えだひろ じゅんこ）氏と、山田英生（やまだ ひでお）氏との会談の記事の中で、枝廣氏は、大事な提言をされております。

「ウイルスに負けず、健やかに暮らす、その羅針盤となる5つのこと」

- 1) 体力・免疫力を保とう
Stay Healthy
- 2) ポジティブな気分で行こう
Stay Positive
- 3) つながりを保とう
Stay Connected
- 4) 感謝の気持ちを忘れずに
Stay Thankful
- 5) 大事なことは考え続けよう
Stay Focused

いわれてみれば、なるほどと納得させられます。ウイルスがどこに潜んでいるのか不明であるが故に、日常生活で三密を避け、マスク励行、手洗い励行など感染予防に努め、食事睡眠に気を付け、体力維持に勤めることが推奨される理由でしょう。

僕は昨年傘寿を迎え、勤務先の病院（療養病床）では医師の定年が無いので、厚かましくも契約更改していただき、現在、週4回勤めております。一見、無病息災にみられますが、内実は、定期薬を毎日服用し、複数の病気と共生しています。

男性の平均寿命は、81, 45歳、
（女性、87, 45歳）。

平均寿命の年齢の近辺になると、持病が悪さをし、風邪から肺炎に移行し易く、大腿骨折で治療が長引き寝たきりになり、息切れなどの心不全が増悪し、癌が再発し、あるいは新

たに見つかり、アルツハイマー型認知症が進行して介助を必要とし、自力で口から飯を食べられなくなり、治療に難儀し、回復の見込みがなくなれば、命取りになるようです。療養病床に内科医として長年勤めた体験から実感します。つまり、口から食べられるか、身の回りの世話を自分のできるのか、が重要な因子だと思います。

一方で、100歳以上の人は8万以上（女性対男性比は、9…1）と増加トレンドだそうです。長生きする人は、探せば、大勢いるものですね。長生きさせる遺伝子があるに違いありません。長生きする人のADLの状況はいかがでしょうか。関係者はお世話に大変かもしれません。療養病床に入院中の100歳以上の人は、ADL全介助・管栄養の人が多いものですから・・・。

最近の個人的エピソードを披露し

ます。

令和2年9月初旬、朝食前に、定期薬のリマプロストαデックス（オパルモン）2錠、降圧剤のロサルタンK25 1錠、ニフェジピン10 1錠服用後、朝食になりました。妙に手背に発汗し、胸苦しい感じで、ふわふわする感じもあり、朝食後、ベッドで休み、脈を触れると、リズム不整、脈の数を数えられません。「頻脈型のAF（心房細動）」と自己診断し、用意していたリスモダンR150 1錠を内服、少し、落ち着き、リズム不整は持続するも、脈は数えることが可能。ようやく出勤。病棟回診後も続くので、ECGで検討。AI診断：脈拍107、「頻脈型のAF」、急いで処方したワーファリン^{0.5} 1錠、ワソラン40 1錠を内服、昼食後、オパルモン2錠内服。ワソラン 1T内服。早引けして帰宅し、午睡、7時半頃覚醒、正常リズムへ戻ったことを触診

で確認。今回、正常リズムに戻るのに12時間を要し、心臓の老化を実感しました。翌日、手足が動くことに安堵。実は、69歳、73歳の時に、「発作性頻脈型のAF」に襲われ、そのときは短時間に正常リズムに戻りました。AFと心不全は表裏一体か。

翌日、杉並区浜田山にある「ニューハート ワタナベ病院」を受診。ECGは正常所見、下肢のABI値は^{0.9}以下でPAD（末梢動脈疾患）を補強するものでした。実は、2年前から、脊椎管狭窄症・PADによる歩行障害が、最近、強くなり、難儀しております。

ニューハート病院のN医師から、エルキュース^{2.5} 2錠、プレタール100 2錠を処方され、様子観察中。プレタールは心不全に非適応で中止。運動療法として、当面、勤務継続。また、自宅で「スタミナイザー」の機器による低周波療法で、筋肉の

疲労回復・下肢血栓予防・副血行路促進を図る。

満身創痍の身です。仕事をしたい・ゴルフをしたい意欲のあるうちに、仕事から退く腹積もりです。

(2020、10)

あなたは必ず死ぬ

豊泉 清

新型コロナウイルスの世界的蔓延を契機として「三密」という表現が連日のように新聞紙面に登場している。「密」で始まる三つの状況を避けよという警告である。そこで二密や四密ではなく、なぜ「三」が選ばれたのかという疑問を抱いたので、「三」という数字に関する考察を試みた。

日本三景という言葉を知ったこと

がある。日本の代表的な景勝地である松島と天橋立と厳島の三カ所である。

歴代天皇家が受け継いできた三種の宝物、つまり鏡と剣と勾玉を三種の神器と呼ぶ。大相撲の世界で大関、関脇、小結の役力士を三役と呼ぶ。ある集団の中の優れた三人の人材を三羽鳥と呼び、徳川將軍家の一門である尾張、紀伊、水戸の三つの家柄を御三家と呼ぶ。

望ましい条件が同時に三つ備わっている場合に「三拍子揃った」と形容する。三つの巴を組み合わせた「三つ巴」という紋様がある。技量の等しい三者が競う状態を「三つ巴」の混戦と表現する。「三竦み」という言葉がある。ヘビはナメクジを、ナメクジはカエルを、カエルはヘビを、お互いに怖れるところから、三者がお互いに牽制し合って積極的に行動できない状態を指す。

現在ほとんど使われないが、「三国一」という表現があった。昔は日本と唐(中国)と天竺(インド)の三国だけで世界全体と見なされていた。したがって三国一は世界一と同じような形容である。三国一の花婿などと形容した。

「三人寄れば文殊の知恵」という成句がある。文殊は知恵を司る菩薩である。並の人でも三人で協力すれば、文殊菩薩以上の知恵が出せるという意味である。「仏の顔も三度」という成句もある。いくら温和な人でも、繰り返して不愉快なことをされれば怒り出すという意味で使われる。「三遍回って煙草にしよ」という成句がある。夜警などで三度も念入りに見回りをして安全を確認してから休憩しようという意味である。

「鳩に三枝の礼儀あり」という言葉を知った。子鳩は親鳩を敬って親より三本下の枝に止まるとい場面

である。

「三尺下がつて師の影を踏まず」という言葉も習った。尺は昔の長さの単位で、三尺は約90 cmである。弟子が師匠のお供をして歩く時に、師匠の影を踏まないようにして少し離れて後ろから歩くという場面である。

「三つ子の魂百まで」という成句がある。三つ子は三才の幼児である。幼時に培われた性格は高齡になっても変わらない。「雀百まで踊りを忘れぬ」も同じような比喻である。

高校の漢文の授業で孟母三遷という言葉を習った。孟子の母は息子の教育に相応しい場所を探して三度も転居したという逸話がある。四度も五度も転居すれば、もっと良い場所が見つかるのに……という反論は通用しないのだろうか。ここにもやはり三が登場する。

漢文に三益友と三損友という言葉が登場する。三益友は交際して自分

の利益になる友人で、正直な人、誠意のある人、博学な人の三種類である。三損友は逆に交際して損する友人で、表面的な体裁だけを重んじる人、人に諂（へつら）ってばかりいて誠実さの無い人、口だけ達者な人の三種類だそうである。

三人行必有我師という言葉も習った。三人で一緒に何か行くと、必ずその中に自分の師となるような優れた人がいるという意味である。

三人成虎という言葉も習った。一人の人が「町に虎が出た」と嘘を言っても誰も信用しないが、三人も続けて「虎が出た」と言う、聞いた人は信じるようになる。根拠の無い噂話でも、大勢の人が口にする、いつしか真実と思われてしまう例はいつの世にもある。

三国志という古典に「三顧の礼」という言葉が登場する。劉備玄德が諸葛孔明に自分の軍師になって欲しい

と、自ら諸葛孔明の自宅に三度も訪問したという史実に基づく表現である。目上の人が礼を尽くして、目下の人に懇願する譬えとして使われる。

飽きっぽい人を三日坊主と形容する。「世の中は三日見ぬ間の桜かな」という江戸時代の俳句がある。移り変わりの目まぐるしい形容としてよく引用される。三日は短いことの比喻である。

日光東照宮に両手で目と口と耳を塞いだ三頭の猿の彫り物が飾ってある。猿を「ざる」と濁つて読み、「見ざる、言わざる、聞かざる」という語呂合わせで消極的な処世術を表現している。

三太夫、三太郎、三助という、三で始まる人名のような言葉がある。三太夫は大名や貴族の家の秘書役を務める人を指す。三太郎は阿呆や馬鹿の異称である。三助は銭湯で客の背中を洗う人を指す。

仏教に三界という言葉がある。過去、現在、未来を指す。「三界に家無し」と言えば、どこにも安住の地がないという意味になる。儒教に三従という言葉がある。女性は、幼い頃は親に従い、嫁いだら夫に従い、老いたら子供に従うという教訓である。

天、地、人を三才と呼び、俳句や川柳の集まりで作品の優劣を評価する際などに使われる表現である。

三曲は琴、三味線、尺八の三種類の和楽器の総称で、またその合奏も指す。因みに三味線は三を例外的に「しや」と読む。三味線の起源と言われる沖繩の伝統楽器の三線(さんしん)は、線を「しん」と読ませる。

若い世代には馴染みがないが、芸者置屋と料理店と待合の三つの商売の総称を三業地と呼んだ。舌先三寸と言え、言葉巧みに事実を偽る行為の比喩行源である。誤って「口先三寸」という粗忽者もいる。

三冠王は、そのシーズンに首位打者、ホームラン王、打点王を独占した野球選手を指し、三冠馬は一年で競馬の皐月賞、日本ダービー、菊花賞の三つの大会で優勝した馬を指す。

全国各地に三国山や三国岳という山がある。三つの県の県境が一点で接する場所に聳える山である。滋賀県と岐阜県と福井県の三県が接する地点に三国岳という山があり、群馬県と埼玉県と長野県の県境が接する地点には三国山という山がある。因みに四つの県が一カ所で接する地点は存在しない。

地図の測量の基点となる場所を三角点と呼び、山の頂上などに目印となる石が埋めてある。男女三人の間の複雑な恋愛関係を三角関係という。安価な既製品の印鑑を三文判と呼ぶ。文(もん)は江戸時代の通貨の単位で最も安い金額である。三文文士はあまり高く評価されない文筆家の

蔑称である。

三面記事という新聞用語がある。昔の新聞は一枚の紙を二つ折りにしただけだから4面つまり4ページだけだった。第一面に世界的なニュース、第二面に国内のニュース、そして第三面には火事があったとか、泥棒が入ったという身近な話題を載せた。現在の新聞は20ページも30ページもあるから、第三面に載る記事の内容もかなり異なってきたが、三面記事という表現はそのまま残っている。同じ三面でも、三面六臂は三つの顔と六本の腕という原義で、一人で数人分の仕事をこなし、多方面で目覚ましい活躍をする人の譬えである。

西欧にも三を含む成句がある。キリスト教で三位一体という言葉をよく使う。創造主たる神とキリストと聖霊の三者を指すそうである。

高校の授業で三段論法という論理を教わった。

一、人間は誰でも必ず死ぬ。

二、あなたは人間である。

三、故にあなたは必ず死ぬ……と
いう話の進め方である。

大前提が正しければ、結論も正しいという論法である。学生時代に、詭弁、逆説、三段論法、謎々、ユーモア、ジョークなど、言語を操る技術に大いに興味を抱いて学習に熱中した想い出がある。

「三」を含む格言や成句や慣用句を思い付くままに列挙してみた。二や四ではなく何故か三が突出して多い。四天王や世界の七不思議や今年の十大ニュースなど、三以外の数字が登場する表現もあるが極めて少数派である。三つで一組とかワンセットという発想は人類共通のようである。太古から遺伝子に組み込まれている思考法という仮説を正しいと見なせば、新型コロナウイルスの蔓延を契機として、密で始まる言葉を三つ並

べた新語が登場したのも極めて自然な現象と思われる。

小さな恩返し

八潮 弘三郎

伸夫はぼんやりと腕を見ていた。身体についた傷は失敗の歴史である。僕は左利きなので、左で掴もうとしてしくじった傷は左腕にでき、包丁など左に持った刃物によつてできた傷は右指にある。

今僕が眺めているのは左前腕外側の真ん中くらいにある三日月形の五センチほどの傷である。僕が五歳の時にしくじった。当時住んでいた小さい家の玄関の左側に三十センチ幅のすりガラスが上下にわかれて入れてあった。玄関に灯が届くように配慮されていたためのものである。玄

関のドアは左の端にノブがついている。利き手である右手でノブを持つてドアを開けると、左側の半身が開いたドアの空間に面し、そのまま身体を中に入れ、右手を離して玄関への入室は完了する。僕は左利きなので、そうはいかない不自由さがある。

僕はいつものように庭の真ん中で一人遊びをしていた。不意に向かいの家に住んでいる犬を連れた顔見知りのお兄さんが目の前に現れた。犬にも顔見知りだったので、しゃがんで遊んでいた僕に遊んでもらおうと伸びあがって、戯れ付こうとしたのだと思う。その時僕は遊びに夢中だったので、とっさに犬が飛びかかってくるように誤認した。勿論犬はひもに繋がれていつものお散歩に出かけるところだった。僕はとっさに家の中に逃げ込まないといけないと思つてしまった。大急ぎで逃げたい一心で、左側に明り取りのガラスが入

った玄関に向かった。

僕は左手でドアノブを開けようとしたが、目測を誤り少し手前のすりガラスに手を突っ込んでしまった。

一瞬時が止まった。飛び散ったガラスが玄関の周りにゆっくり落ちていくように感じながら僕は立ちすくんだ。僕の腕の外側がガラスの切り口に接し、大きくえぐり切られていることに気が付いたのはストップモーションが解除された少しあとになってからであった。

その時母親は家の中には不在であった。一人で悲しくもないのに、泣きじやくつていると、すぐに向かいのおばさんが来てくれた。状況を確認し、腕の傷を押さえてくれた。大きく皮膚がめくれ上がっていたが、出血はほとんどなかった。すぐに母親も家に戻り、医者に来ていかれた。何人か待合室に診察の順番を待っていたが、気の毒そうに白い布で腕を押

さえている少年を見て、

「どうぞ先に診察してもらって下さい」と勧められ、そのまま待合室は素通りで診察室へ誘導された。

「手がとれちゃった」と僕は恐ろしい医者に言った。傷口に当てていた布を取ってその時初めて僕は傷口をはつきりと見た。皮膚の下にある白い筋膜のような組織が印象的であった。気の小さそうな子供であったので、大泣きされるのも面倒だと思ったのか、そのまま縫合もせずに傷の消毒処置だけを受け、帰宅した。

受傷時縫合しなかったため、傷口は大きく今も残っている。僕が万が一の東日本の震災のようなものに巻き込まれた時には左前腕の伸側にある三日月形の傷が本人確認の目印になるかもしれないと傷を見ながら思った。この怪我は怖がりの幼児だった証である。少しだけ僕が左利きだったことが関係しているようにも思

う。左利きは人間工学的に使いやすいよう工夫されればされるほど、不自由になる。電車に乗る時にカードで通過する改札口や狭い椅子が連続してるラーメン屋さんでの食事などである。

腕の傷を確認した後、次の身体の傷を探した。右手の薬指の指先を圧迫すると横一文字に白い線が浮き出してくる。医学部進学過程在学中アパシーに陥っていた頃、大学での居場所とは専ら学生が大学の所有する合宿所を管理する委員会の執務室であった。僕がこの委員会活動が気に入ったのは委員会が管理する合宿所には中学生の頃お世話になったことがあった。この体験は数少ないよい体験として記憶されていたからだ。日常の活動は合宿所の床掃除、シーツなどの備品の洗濯や台所の食器の整理ばかりで楽しいという代物ではなかった。しかし中学生の時世話しても

らったことが今度は世話をする側になれるかもしれないという勝手な期待があった。僕はアパシーだったので授業や実習は休みがちであったが、進学過程の二年間管理活動は毎日欠かさず続けた。

一年生の冬に中学校の時に楽しかったスケート教室がその年も開かれることになった。二泊三日の冬のスケート教室は四十人ほどの僕の母校の中学生の参加があった。収容にかなりの余裕があるはずの合宿所が男子中学生で一杯になった。夕食も大わらわであった。二日目の献立はトンカツにキャベツそして付け合わせにカットしたトマトであった。豚汁も白飯も全ての合宿所にある調理器具をフル稼働させて、大学生である委員会のメンバーが奮闘した。僕は調理の経験はある方だと自覚していたこともあり、分担ではキャベツやトマトを扱う役割をもらっていた。

スケートを教え終わって、荷物を背負いながら山道を二〇三十分登って合宿所迄戻りそれから食事の支度である。前日も睡眠不足のままスケート教室の指導の真似事をし、そのままた二日目の食事を準備していたので疲労から注意集中が切れていたと思う。準備が遅れていたこともあり、急いでいた時に、右手指をザクツとやっってしまった。これもなかなか止血しなかった。そのままガーゼで止血したが、拍動性の出血が続き食事に準備はバックヤードに回された。

「早く血が止まらないかな？折角の晴れ舞台だったのに」と思いながら、指にカットバンを巻いて寝た。翌朝起きたら寝ていたシーツが湿っていた、原因は僕の指からの出血だったとわかり驚いた。寝ている間にかなり大量に再出血した。シーツの上半分が赤く染まってしまった。横一文字の白い痕は今も指先の鈍い感覚

と共に今も確認できる。全て自分の失敗で指や腕にできたものである。今となつては懐かしい身体の傷である。

身体の傷を見ながら自分の過去の失敗を思い出していると、医師になつてからの古いころの傷を思い出した。身体には傷は付いてはいないが、フラッシュバックすると、こころがヒリヒリと痛む。こころの傷へのフラッシュバックは思考が停止するので、日常生活にも多少差しさわりがある。

医師になるとすぐに、患者への説明が上手くなるように諭された。「上手くなる」という意味は医師たちが必要と考える検査や処置をされる者が二つ返事で受け入れてくれる関係をつくるということであった。古くからムンテラといわれ、ムンテラの原義は言葉による治療という事だと思ふが、転じて「言いくるめる」と同

義であるかのように上級医に教えられた。

医療を受ける立場のものは状況の把握や条件設定された時点での情報などが充分でない時に、医師たちが「良かれ」と思って処方や方針の判断を与える。される側の弱い立場の人たちにとってはよくわからないまま、従うより仕方がないという気持ちになる。する側はされる側の「よくわからない」を頼りに、される側には「気乗りのしないことを強いること」になってしまっていた。このような疑問を僕は理不尽と思うようになっていた。病棟に配属されたばかりの頃は上級医にいわれるままにしか処置はできなかった。この頃僕が担当した方には申し訳ないことをしてしまったように感じている。刺さった棘を逆なでしたようにこころが少しヒリヒリする。

医師になって二例目として病棟で

担当した胸膜炎の方には、可能性のある病気を考えすぎて、ご承諾を頂いていたものの、検査の頻度が過剰になってしまった。

また五例目の進行した悪性腫瘍にり患していた年若い方の治療ではご家族の希望に従い、最後まで退院できない程の状態であることを彼に告げないまま永眠となつてしまった。ご家族からはお礼の言葉を頂いたが、どこかで立ち止まり、告知へと仕切り直すことができなかったかと考えると、やはりヒリヒリする。

しかし数か月間勤務を続け少しだけ病棟で医療をすることに慣れてくるとインフォームドコンセントのルールが普遍化していない時ではあったが、僕は出来る限り入院している方の希望や期待を前提にした医療を実践するようにしていた。上級医の指示するまた周囲の医師たちが慣習としていた医療とはちよつと違った

立ち位置でお世話が続けた。

ムンテラを旨とする上級医には僕の治療方針は全く不評で叱られ続けた。しかし弱い立場の者たちには頼りにされた。回診では更なる上級医に再びディスカウントされ続ける毎日とはなつた。

しかし一方で僕の判断や行動が上級医や更なる上級医に受け入れられなかったことが、その時点ではなかった新しい価値観の医療を開いていこうとする僕の気持ちへのきつかけにもなつた。この上級医たちから受けた繰り返し返しのディスカウントにはもしかしたら感謝すべきだったのかもしれないとも思っている。

そうして病棟管理をする医師には不評な判断を繰り返す中、研究チームの都合で総合内科から新設の心身医療科へ移籍することになった。総合内科では不評の極みであった医療姿勢は維持したまま心身医療科での

臨床の一翼を担うことが許されることになった。しかし心身医療科での臨床においても、例えば職場において恫喝され被害を受けている方に接した時には、恫喝された方にしかアプローチすることはできない。支援にあたつては病態を作つたと考えられる加害したと想定されるものと、加害したものと被害を受けたものとが存在する環境は治療の相談を受けている医療の手の届かない場所にある。心身医療科診療で直接支援できる範囲は被害を受けた弱い立場の人だけであり、彼らを以降加害の手から守ることすらできない。

心理療法では治療する者が嘘のない気持ちで話し合うと基本的信頼感が構築されて、援助が良い方向に進むと教えている。治療のことだけを考えると、心身医療科における支援の構造は自然に受け入れられる内容ではあるが、実際生活の中では加害

している者を野放しにして、目の前に来診されている被害を受けたヒトの気持ちだけを治療しているということは支援としては片手落ちであると思つていた。もし片手落ちだとすれば適応障害の病態に対する心身医療科が持つ治療方針は理不尽に加担しているわけではないが、解決に向けて対応していないのではないかという疑問を繰り返し持つようになつていた。

例えば会社においてパワハラのようなことが起こり、ターゲットになつてしまった方の具合が悪くなり、出社できなくなつてしまったとしよう。パワハラを受けた方は心身医療科を受診し、薬をもらいながら療養する。僕は「適応障害」という診断書を発行し、一定の休業をすることを勧める。対処すべきはこの方ではなく、パワハラを起した加害側ではないかと会社や加害者を糾弾したくも

なるが、会社や加害者は診療場面には現れない。来診してくれた被害を受けた方はやつの思いで後遺症を心配しながら復帰することになるが、以前と大して変わらない場で仕事を続けることになる。加害をした方がパワハラ委員会で糾弾されたという結末にはあまり接したことはない。

このような理不尽な中での支援は本当に人助けなのかという思いがする。この構図に対する思いから、その後僕が臨床から離れ管理業務に入つていく一つの理由になつていたと思う。

臨床医師の弱い立場の方への傲慢と言えばこんなこともあった。研修を始めて二年目のまだまだ習う立場であつた頃の出来事である。当時は画像の検査が今ほど自由にできなかったの、大学病院で患者が亡くなると必ず病理解剖をお願いしていた。今では画像診断が発達して内臓の病

変はほとんど事前に把握できる。しかし僕が内科臨床に関わっていた頃は脳のコンピュータ断層撮影も一例の処理に時間がかかり、脳外科など手術が前提の緊急事例が優先で、内科の診断のための検査依頼は一ヶ月以上先であった。したがって病変が確定できないまま亡くなることはしばしば起こった。担当医としては、「なぜこの方が今亡くならなければならなかったのか？」という問いの答えを得たいという思いがあり、解決には病理解剖は必須であった。

大学病院には病理学を専攻する医師が常時勤務しているので、例えば夜間や朝方に亡くなった時には翌朝病理医が交代で解剖をしてくれる。したがって昼にはご遺体をご家族にお渡しすることができ。そしてその晩に予定されている通夜には間に合うことになる。

しかしいつもこのようなタイミン

グで、進むわけではなく、地方迄ご遺体を運搬する場合もある。それぞれの事情による制約があるため、病理解剖にご同意いただけないこともしばしば起こった。上級医に病理解剖のご承諾を家族から得るのが上手い先生がいた。

「病理解剖が亡くなった方のご家族のご都合を配慮するとなかなか同意が頂けない」と僕が困っていると僕はこうやって同意を取っていると先輩が教えてくれた。

「身体の中にある命を奪った悪いものがある。冥途に行くには邪魔になる。取って差し上げたい。如何だろうか？」と持ち掛けるらしい。嘘とは言えないかもしれないが、病理解剖にご承諾いただくことはそのような訳ではないだろうと考えた。

「病気の場所と程度を確定する必要がある。ご協力をお願いしたい」と僕は正攻法で説明することにしてい

た。お願いがストレートすぎて、辞退されることも少なくなかった。

解剖が実施されると、全身の臓器の状態や病気の最終診断がつくことになるので、数か月後病理から詳細な結果が知らされる。臓器の変化を臨床データから全てを予測することは至難のことである。治療途中で検査データから予測していたことが全て合致しているということはなかなかない。臨床と病理のカンファレンスに取り上げられることになると、臨床サイドの見解が、入手したデータから推定した通りとはならないが、病理所見によって根拠のある推定が誤っていることが明らかになることも少なくない。したがって臨床医にとって病理解剖は意味がある。根拠があると考えていた誤った推論を修正出来るチャンスである。その推論の変更は今日からの臨床でのデータ解釈に役立てることができ。

そんな思いを持ちつつ病棟診療を担当している中で、晩年を老人ホームで長く過ごしておられた方が、全身状態が非常に悪いということ、近くの施設から献体のご希望もあったことから附属病院に転送された。そして僕が担当となった。衰弱の状態から考えると、恐らくどこかに進行した悪性腫瘍があるので、「折角大病院に入院になられたので、ある程度検索を進め、もし病気が見つかったとしても摘出手術などは行わない」という合意で入院生活がはじまった。

このような治療の方向性については、ご本人との合意で充分であるが、僕はご家族にも同様の今後の治療の方針について説明し、ご同意頂くことを習慣にしていた。しかし彼女の場合、ご家族の同意といってもホームの職員によれば、入所以来長くご家族が面会にいらしたことはないとの

ことであつた。家族同意を模索しながら、本人同意はあるものの、家族同意ができないまま侵襲的な検査を躊躇しながら、非侵襲の検査を中心に進めていた。

程なく全身状態が悪化し、血圧が八十ミリ水銀柱前後に低下し、腎臓の機能を維持するために昇圧剤の少量の投与しなければならなくなった。

ご本人とも検索の方向でお約束していたながら、僕が家族同意に拘ったため、診断確定のための検査をすることが出来る大病院に転院して頂いたにもかかわらず、ご本人との約束が果たせていないことになる。なんとか最低の検索だけでもとすぐに検査をはじめた。肺がんや乳がんは診察や単純レントゲン撮影によって除外できている。腹部に腫瘍が触れ、位置的にはやはり胃がんであろうということになり、病室に検査機器を持ち込み、緊急内視鏡を行うことと

なった。

当時内視鏡検査はプリズムを使った内視鏡の先に小さいカメラが入った側視鏡を行うことが主流で、緊急の内視鏡を直視の内視鏡で行うことはまだ一般的ではなかった。そのため特別な診断チームを急造することとなり、教室の中で最も上手いと言われていた医師は関連病院に出張であつたが、急ぎよ大学に来ていたとき万全の状態で検査を施行することとなった。

呼吸循環も不安定な状態であつたので、全身管理のチームも作り、昇圧剤の滴下と頻回のバイタルチェックをしながらの検査となった。教室一の内視鏡の名手は素早く当時数の少なかった直視の内視鏡を挿入し、胃を観察し、腹部に熟知できる悪性腫瘍がすぐに見つかるはずであつた。しかし胃には幽門から噴門に至るまで病変は見つからなかった。十二指

腸球部まで先端を入れたが、所見はなかった。診断予測は見事に外れてしまった。

十二指腸は幽門部のすぐ上に球部がありその後下降部と呼ばれるところに膵臓から分泌される消化液や肝臓から分泌される胆汁の流路が消化管に開口する場所は十二指腸乳頭部である。乳頭部はもう一つの悪性腫瘍の好発する部位である。なんとか次の好発部位である十二指腸乳頭部を観察しようと、もう少しもう少しと内視鏡を奥まで押し込んで先まで見ることとなった。しかし検査の負担を考え最も細い内視鏡を選んだため、十二指腸下降部まで入れ観察するには長さに余裕がない。

検査時間が既に予定した時間よりかなり超過してしまっている。長い内視鏡を入れ直すことなどとても考えられない。既に検査の負担は大きいと考え、兎に角検査は終了とする

事とした。最後のチャレンジと乳頭部周辺の十二指腸下降脚の先に一瞬ファイバーを近づけた。するとその先の乳頭部らしき場所に、病変らしきものを発見した。しかしその部位の近傍迄内視鏡の先端を近づけることが出来ない。近づけてはみたものの遠くから覗き込むような写真を一枚だけ撮り急ぎ抜去した。

診断は「十二指腸下降脚部にチラツと見えた腫瘍らしきもの」としか言いようがない。その近傍の最も頻度の高い疾患は乳頭部癌なので、内視鏡診断は一応乳頭部癌とすることにした。その後白菊会という解剖学実習のための献体を希望されていたが、亡くなられた後遠い親戚の方が来院され献体に同意されず、献体のご遺志はお流れとなってしまった。

「なんとか全身の状態が悪すぎて確実な診断がついていないのでせめて病理解剖だけでもさせてください、

お命を奪った病気を明らかにしたい」
と僕の願いをそのままお伝えしたところ、

「すぐに終わるならば」とご承諾いただくことができ、即座に病理解剖となった。

病理解剖の依頼書には臨床診断を書く欄がある。臨床診断は確定診断するための検査はあの不十分な内視鏡検査しかできていない。診断の精度は低く、加えて組織の生検もできていない曖昧なものではあった。しかし僕は迷わず「十二指腸乳頭部癌」と書き提出した。治療に関係した内科の病棟治療チームが注目する中、ご承諾頂いた解剖が始まった。十二指腸を開くと外から触知できるしこりが手探りで触ることが出来た。内視鏡で写った「あれ」である。

すぐに乳頭部にゾンデをいれると腫瘍部の横をすり抜け難なく総胆管に入ってしまった。乳頭部には病変は

絡んでいなかったことになる。そして乳頭部周辺を手で繰りながら十二指腸の表面にあつたしこりを手繰つていくと胆のう腫瘍と連続しているように病理診断は「胆のう癌の十二指腸浸潤」となった。内視鏡でみた「あれ」は乳頭付近の十二指腸への直達浸潤であつた。

緊急で亡くなる数日前に行つた内視鏡での診断は間違つていたことになる。ある意味誤診であり、治療チームの恥ということもないが、生前に正しい診断にたどり着けなかったことは確かであり、治療を担当したチームとしては不名誉なことであつた。また緊急内視鏡では迅速切片の検体採取についても相談していたので、全身状態が悪くバタバタになった事情は解剖を担当してくれた病理医はよく承知してくれていた。治療グループの苦悩を察してくれ病理医がそつと、

「大した違いではないので、臨床診断を書き替えるというのもありでは？」と小声で示唆してくれた。

一瞬僕は臨床診断を書き替える誘惑に乗る気持ちが動いたが、診断過程を振り返るとギリギリで到達した診断であり、緊急内視鏡検査で不十分な操作の後途中で全身状態を考慮し操作を終了せざるを得なかった決断をしたことを思い浮かべた。

ましてや全身状態が不良な身体状況で検査をお受けいただいた彼女から受け取つていた信頼のメッセージに少しでも報いたい。その気持ちの延長線として捉えると、病理診断の確定を見てから臨床診断を変更するようないわば「後だしジャンケン」のような結果を優先する方法は選択肢の中には出てこない。また臨床的には胆道系の酵素も上昇し軽度な黄疸も認めていたので、臨床的には乳頭部の腫瘍と推測することには矛盾は

ない。

「このままでお願いします」と僕は執刀医に伝えた。

数週間後に臨床病理カンファレンスが病院長室主催の形で開かれた。病理診断が臨床のものと異なる事例であるという「うわさ」が院内にも広がっていた。いつものCPCの二倍か三倍の人数が興味津々で医師や看護師が僕の不名誉なプレゼンすることになっているカンファレンスに続々と集まつてきていた。

「今日はいやに参加が多いなあ」と当番教室の世話役の教授がつぶやいていた。

「見得は切つたものの、今となつては穴があつたら入りたい」と臨床講堂に集まつた多くの聴衆を眺めまわしながら思つていた。僕は臨床側として診断に至る情報をまず提示し、その後診断の決め手となる緊急内視鏡で得た遠くから覗いただけの「あ

の「一枚の画像をスライドで示した。予定して行く内視鏡検査では数十枚の撮影をしたものと比べると、患部はかなり遠くから撮った画像が一枚あるだけである。もちろん生検の所見もない。カンファレンスに集まった聴衆も真暗にした講義室でスライド映写された画像を皆食い入るように見つめた。画像について乳頭部癌と診断した根拠を追加した僕のプレゼンも終わり、カンファレンスルームの灯をつけた。

いくつかの事実関係の質疑があり、軽度の黄疸と胆道系の酵素の上昇を認めていたこともあり、臨床を担当したグループが下した乳頭部癌の診断を支持する意見が消化器を専門とする医師たちからも続いた。今回のような病院全体の大掛かりなカンファレンスでは勉強熱心な近隣にて開業している医師たちもカンファレンスに集まる。デイスカッションが一

段落し、次はそろそろ病理所見の説明という段取りであったが、附属病院の近くで開業しているクリニックの医師が遠慮がちに挙手をした。

「申し訳ないがもう一度あの内視鏡の画像を見せてくれませんか？」

再び電気が消され、問題の緊急内視鏡の画像を皆で食い入るように見

て、
「私には粘膜下の腫瘍にしか見えない」と申し訳なきように発言した。

「このような顔をした乳頭部癌もあるんですね。今日は来てよかったです」と続けた。病理の結果を知っていた治療関係者は目を丸くした。まさしく今回の病変は内視鏡上は粘膜下腫瘍である。ぼんやりした、とてもそうだともそうでないと言えるような鮮明さに欠ける画像を見ての指摘であった。カンファレンスが終わった後、

「あんなにピンボケの写真しか撮

ることが出来なかったけど、あの画像で正確に診断できる名医が案外近くに居たんだね。これからは先生にお時間があれば教室の内視鏡カンファレンスでも教えて頂こう」と撮影した教室一の内視鏡の名手が言った。病理解剖をさせて頂く意味と病理のカンファレンスをする本当の理由について僕には少しだけ理解できた瞬間であった。加えて病理の担当の先生から頂いた、僕の僅かな不名誉の回避のために診断を書き替える変更の誘惑に乗らないで本当によかったと思った。自分の些細な不名誉よりもはるかに崇高な、医療に従事する技術者の心得のようなものを手に入れることができた。当たり前のことではあるが、ストーリーを捏造することなどあってはならないと強く学んだ瞬間でもあった。

「結局誤診だったんだね」と帰りがけに仲間と話しながら散会してい

く同じ病院で働く仲間達からのデイスカウントの会話が聞こえてくると、僕には寝められているような響きを感じていた。

臨床病理カンファレンスでの恥ずかしかった記憶を辿っていると、医学部での会議場面がフラッシュバックしてきた。医学部教員の生命に対する傲慢ともいえる出来事であったと思う。僕は准教授になり、医学部教授会に出席できるようになって程なくの時期であった。生命倫理の関する取扱いについて激怒したことがあった。医学の教育や臨床で倫理的な考えを前提に研究を計画することがなかった時代のことである。今では研究倫理の審査後に研究を遂行することはマストな手順になっている。しかし当時は倫理の考えを取り込み、医学部内で研究について倫理的にも検討する概念も組織もなかった頃の出来事である。

当時の医学部教授会は助教授も陪席していたが、発言は教授という暗黙のルールがあった。当時准教授であった僕も医学部の最高議決機関に出席できる名譽を感じながら教授たちの議論を聞いていた。もし僕が指名されたら「こんな風に発言してはどうだろうか？」と現実には起こりえない状況を勝手に夢想し、陪席していた。僕は教授職による医学部教授会での結論には見識を感じていた。教授会ではまず多くの教育などの委員会の活動の報告が延々となされ、最後に形式的とも思えるような形で議案が審議される。一件一分程度の感じで、次々と医学部の決める必要のある言わば国会における生活関連法案の審議のように粛々と可決されていく。「今日もいつもの会議の流れだな」と思っていた。月一回の会議も二時間が経過し、そろそろ散会という雰囲気の中で、学部長から突然提

案がなされた。

「ヒト受精卵の研究を容認することを医学部教授会で決定したい」

僕はその場で初めて聞いたことであつたが、

「既に生き物かもしれない受精卵をモノとして研究に使ってはいけない」と咄嗟に思った。いつも発言することを夢想してはいたが、実際の場面に遭遇すると躊躇した。咄嗟に決断し発言しようと思ったが、理性のようなものが制止を問いかけるので、発言するしないで葛藤していた。

しかしここで発言しないと後々後悔するようになるのは嫌だと思い、ドキドキではあったが、三秒くらい間をおいて

「ハイ」と挙手した。そして指名もされないまま地声で発言した。

「生命を冒とくしてはならない。生命は受精した時からじまっている。研究に使うことなど容認しては

ならない」

僕の声は思いのほか百人位出席している会議場に響いた。すぐにマイクを通して学部長が反論した。

「お前みたいな馬鹿野郎がいるから、医学は発展しない。研究を更に進めないと、障害を抱える不幸を増やしてしまう」

「馬鹿野郎はどっちだ。差別発言もいい加減にしろ！障害を不幸と決めつけるな」とすぐに反論した。学部長と僕との怒鳴り合いに、当時執行メンバーでもあり問題の当事者でもあった産婦人科の教室責任者が間に入ってくれた。

「仲夫君の指摘を学会もまだ論破できてはいません」と発言した。当時日本の学会でも同様の議論が専門の学会においてもなされていたに違いない。

僕は全くの不勉強で、国内の議論も、先進諸国の生命倫理の議論の過

程も全く知らなかった。僕はただ精神障害と分類され、心身医療科に受診することですら、差別されている方たちの悲しい現実に憤っていた。その延長線上で学部長の趣旨説明の中で、障害を持ちながら生きていく大変さを実感していた。

「この世に生まれてくる前に診断をつける科学的技術の獲得に向けて加速しなければ、不幸は増大する」と言った趣旨で、あたかも障害を持つことが悪で、それを未然に防ぐための医学的研究が善であるという断定的なニュアンスにとっさに反応したものであったに過ぎなかった。

医学部教授会での議決は僕の発言によつてというよりは、産婦人科の教授の「生命に対する二つの考え方が調整できていない」とする発言により、継続審議となり、学部長提案はついに廃案となったようで、以降も医学部教授会に同種の修正された

ものも提案されることはなかった。

医学部教授会最後の審議案件だったので、学部長と陪席のみ許されていた発言権のない助教授であった僕の怒鳴りあいの後直ぐに散会となった。以前から近い関係にあった一般教養の教授が通りがかりに、

「あんなこと言つて大丈夫なのか？どっちでもそんなに変わらない様に思うがな。そんなに熱くなるなよ」と他人事のような労わりの声をかけてきた。

このような場の雰囲気を外した後では周囲が遠巻きになることは以前から実感していた。それぞれの周辺の出席者は時々善悪を判断しているとは思うが、自分に対しても権限を持つている権力者には従順に振る舞うようにしているようにしか僕には思えなかった。医学部教授会のようにそれぞれ専門の異なる集合体では自分を利益代表のような役割を演ず

る色彩が強くなり、自己の代表領域と直接関係しない議論には思うところがあつても傍観するというのが大人の対応と心得ているのではないかと出席者に対する不信感も強くなつた。

僕は部屋に戻る道すがら、

「発言内容ではなく、発言の方法や言葉遣いといったいわば形式について懲戒処分を受けることになるかもしれない」と感じていた。今働いている大学という職場は封建的な風土に支配されているところである。僕のような発言には

「見せしめ的にも処分しておく」ということになるだろうと思つた。

「また今回もこれまでと同じように肯定されない状況になっただけだ」と感じていた。

「ああ、この類の発言をすると、大学は首になったり昇格しなくなったりするのだろう」とその時感じてい

た。しかし僕には首にならないように執行部に従順に振る舞うことはできないとも悟つていた。

「処分されたら、きつと大学を退職することになる。口は禍の元だ。家族には申し訳なかつた」と覚悟してた。しかし例え進退がかかつて「ヒト受精卵を研究に使うことはやめろ」と発言したことを後悔する気持ちにはならなかつた。

その後執行部でどのような話し合いがあつたのか、あるいは何も議論されなかつたのか、わからないが、僕の暴言に対しては、懲戒委員会からも医学部運営委員会からも呼び出されることはなかつた。また大学の有力者からそれとなく注意されることもなかつた。

僕が医学部教授会で起こした怒鳴りあいのはるか以前にイギリス議会で生命倫理についての報告書が出されていた。その報告書の存在を知

つたのは退職後のある土曜日の朝日新聞の書評の紹介欄で、棚島次郎さんの「先端医療と向き合う」という書籍に巡り合つたからである。

読み始めると先行の著書である「生命科学の欲動と倫理」での記述を紹介する形で、医学部教授会での発言の裏付けになるような記載が記されていた。記載によれば胚細胞に全身の臓器が出来始めるのは十五日目であるので、その一日前まではヒト受精卵の操作を認めるということになつていたようだ。つまり生命は十五日目後からとするという政治的見解が出されていた。しかしカトリック教会はこの考えに反対していた。僕がとつさに発言した「ヒトの生命は受精の瞬間に始まる」という主張をしていた。僕は全く知識のないまま感性だけで、教員としての進退がかつたような発言を四半世紀前にしてしまつたのだが、そのとき既に

イギリスでは整理された議論がなされており賛否両論が示されていたことになる。

さらに書籍を読み進むと、フランスでは昨年にこの期間が七日に短縮される議決がなされたと紹介していた。そして恐らく新しい取り決めについて内外から激しい議論となったようだ。今年になって、一転してヒト受精卵の操作できる期間を以前ものより長く二十一日に延長する法案が審議されていることが紹介されていた。ヨーロッパ先進諸国においても生命の線引きは今もって大問題のようである。

「探索的な医学研究は必要であり、進歩に貢献する研究については不可侵である」という驕りとも思えるような誤った正義感に立脚し、医者たちは医学研究や先端医療を推進しているという思いがあるのかもしれない。ヒトのためになるという考えが、

もしかしたら一部かもしれないが、別のヒトや集団を害することになっているかもしれないと考えて研究を進める方がこの多様化する価値観が錯綜する中、適切な行動をとることが出来る可能性が高いと僕は思っている。また「医学研究は人助けのために行なうことは明白なので、本来不可侵であるべきである」という考えが内在する風土を医学部教授会で怒鳴りあつた当時から感じていた。

今や自分の持った研究計画を専門でない医師や一般の方々に納得してもらわないと研究をスタートさせることすらできないように変わった。

しかし医学部倫理委員会が医学の研究領域で機能するようになるには、僕の無謀な医学部教授会でのやり取りが行われてから、五千日ほど待たなければならなかったことになる。

記憶のフラッシュバックは辛づるのようにまた別のものが引きずり出

されてきた。数年して僕は大学院のメンバーとなり、こんなことがあつた。提出された論文を読み、博士号を授与することが適切かどうかの可否の投票をすることが役目であつた。医学研究全般は広い意味では同門の学徒と言えないこともないが、仮説も演繹も全く理解できない研究が多く、月一回眠気と戦う苦痛が増えてしまったと感じていた。

ある時審査対象となつた研究も全く自分の理解できる範囲から外れた論文の審査であつた。ストックしてあつた検体の病変を検討し、ある特性を見出していた外科系の教室から提出された研究論文であつた。

五人の教授による予備審査過程の紹介があつた。全体質疑があり、五十人位の会議構成員の投票になる。

「倫理的には検体の主は患者であるのだから、基本的には検体の本来の主である検体提供者への説明と何

らかの形での同意が必要なのではないか？」と僕は全体質疑となった時に発言した。すると学位の予備審査を担当したメンバーから猛反発を受けた。

「この論文の学位論文の是非を問うたつもりはなく、検体使用時の倫理的考え方の指針を大学院の委員会は示すことを検討した方が良いのではないかと提案をした」と僕としては穏便に追加発言した。

「検体なのだから、既にモノである。無許可で使っても問題はない」と更に強く反発する見解が予備審査を担当した委員から返ってきた。

「私は検体をモノだとは思っていない。生命体から離れても、検体は本人の分身だと思っている。ケースバイケースと思うが、検体の研究使用についても、大学院として倫理的側面からの検討が必要と考える」と意見は撤回しなかった。

反論した教授が若手の後輩である僕を睨んでいた。大学院の委員会はそのやり取りの後、研究には学位を与え、加えて数件の学位審査を行い散会となった。

「あの二人の古参教授たちに、このまま許されることはない」と思い、再度の叱責から逃げ隠れするつもりはなかった。独り議場に残った。当該の教授二人に「生意氣だ」と言わんばかりに発言の不適切性について滔々と彼らの論を述べ続けた。僕は黙って恫喝されるままに聞いていた。たまたまなのか、こうなることを予想してくれていたのかはわからなかったが、内科の世界級の大教授も議場に残っておられた。恫喝の二人の主は世界級の教授を振り返り、

「この件いかがお考えでしょうか？」と見解を向けた。僕も顔を上げ、大教授の発言を三人で聞く体制とな

った。数秒間沈黙があつたが、

「私は伸夫君の言う通りだと思えます。例えば検体であつても、説明や同意等の手続きが必要かどうかを倫理という立場から審査することが今後は必要となり、議論すべきです」と言い残して立ち去った。

僕に恫喝を続けていた二人の教授は僕に向けていた攻撃を一旦は中止せざるを得なくなった。

「彼の言っていることも不適切だ」と二人の意見に同調されなかった大教授のコメントに対する不満を言いながら、会議場を後にした。

後年世界級の内科系の教授は都内有数の公的病院の責任者に抜擢され、僕の在職していた大学の教授には在職期間を充分に残して転出された。その後僕は診療部門から離れ、臨床研修制度遂行の責任者に任命された。かじ取りが難しい制度の運用を任されていたので、かつての先輩に有識

者として、今後の対応の方向性について見解を伺いに訪問した。その折大学院でのエピソードを

「お忘れとは思いますが？」と再度尋ねてみた。すると

「あの時のことはよく覚えているよ。私もコメントしようと思って会議場に残っていた。君が今回の新しい卒後の教育制度の責任者になったことは適切な人事だと思う。正しさを求めて制度遂行を模索してください」と励してくれた。僕の独善的な偏諱しているかもしれない見解を心に留めていてくれていた方もいたと嬉しかった。

医師とし、そして医学部教員として過ごしてきた中で、理不尽と感じ考えたことに対して、その時その時にできる限り対峙してきたつもりであつた。しかし立てなくてもよい波風を起しただけのようにも思う。不器用な僕は今から考え直しても、や

はりその場では同じように振る舞いそうである。ここまでの頑張りでは目の前の不条理とは闘ってきたが、社会の方向を少しでも変化させるような恩返しはまだ出来ない。

ここまで走馬灯のように過去の出来事をフラッシュバックしながら過程を整理してみたが、更に脳が混んとしたようであつた。気分を変えて手元に録画されていた映画でも見てみようと思つた。それまで時間がないから鑑賞できないと思つていたが、いざ定年退職して時間が出来ると、どれを観るか迷つてしまう。そう言えば子供がまだ小さかつた頃ジブリのアニメを繰り返し見ていたことを思い出した。早速退職の記念に医学部教授会から頂いたウォールナツトの無垢材でできたデスクの上では学術論文でも書いた方が良くかもしれないが、「トトロ」を再生することにした。

サツキちゃんがメイちゃんを探して走り回っている。メイちゃんのサンダルが池の中に落ちていた。近所の人々が池の中を探している。勘太がそのことをサツキちゃんに急いで知らせに来てくれた。メイちゃんがいなくなつてしまった最後のクライマックスのシーンである。サツキちゃんは随分の距離を懸命に走つて戻る。「これメイのじゃない」安心したのもつかの間、メイちゃんが見つからない不安が切迫する。そしてサツキちゃんには周りの音が聞こえなくなつて、トトロのいる異次元の世界に吸い込まれていく。そこまでは確かに「トトロ」の画面を見ていた。

画面には学校が映っている。音はしない。ちよつと古臭い感じのする映像だ。誰かが作文を読んでいる。

「あれ？」僕が読んでいる。これは僕の通つていた区立の小学校の教室だ。小学生二年生の時に「山田君のけ

が」という作文を書き、クラスのみんなの前で読まされている。

事件のあった翌日僕は担任に呼び出されて、教師から聞かされた経緯は僕の目の前で起こったこととは違っていた。僕も加害者集団のひとりとして認定され、事件への関わりを教師から断定された。母親も学校に呼び出され、被害を受けたとされた山田君のご両親に謝罪したようだ。

「山田君が被害を受けたようになっていいる」と違和感を覚えた。

僕はいつも山田君と遊んではいなかった。ちよつと家が離れていたことも要因であった。とはいっても小学二年生になっても自転車に乗ることができなかった僕にはちよつとの距離がとてつもなく遠方と感じていた。小学校では学年は一緒ではあったが、クラスが違ったこともあり、それまで交流は全くなかった。彼は活発過ぎ、ちよつと僕にとっては苦手

な存在であったのかもしれない。僕は全く活発ではなかった。静かに読書をしているのが好きであったわけでもない。その日その日に一人遊びを見つけないが、集団からはちよつと距離を置いて、なるべく独りでぼんやりと過ごしていた。

僕が小学一年になり、姉が中学一年に替わる瞬間前にここへ引越してきた。新築の四階建てのアパートの社宅へは僕と同年の一年生の子が二人一緒に引越してきていた。この社宅には二十所帯が転入した。社宅が新築されいっぺんに転入したことは、その土地の人たちにとっては外来者と受け取られていたと思う。姉と共に小学校と中学校の一年生として進学の流れ目での転入であった。一年経って学校までの往復はなんとか一人でも歩いて通うことだけできるとようになっていたが、周囲の土地勘は全くない。また幼稚園が一緒

だった同級生も誰もいないので、独りでオドオドしながら毎日を過ごしていた。それは周囲によく知った親友がいなかったからではない。同級生や近所の子たちと言葉を使つて意志疎通する能力の獲得が遅延して、自分がしたいことを周囲の子供たちに伝えることや、初対面でも一緒に遊ぶことができる能力を僕はまだ身に着けていなかったからだと思う。

山田君は土地勘もあり、僕の本拠地の社宅内の公園まで独りで遠征することなど苦もなく出来ていたと思う。山田君は周囲の者たちと意思伝達することもできる。僕よりずっと心理的にも身体的にも発達は進んでいたことは明らかであった。

僕は入学時から心身共に発達は遅れていたが、二年生になっても身体的にも発達の遅れは追いつかず、また心理的にも同級生との会話もスムーズに出来ず、緘黙と多動を繰り返

していた。

その日一緒だった同じ社宅に住む二人とも、それまで一緒に遊ぶことは日常的にはできていなかった。

団地の二人と山田君とが遊びの相談を始めていたが、僕は傍で呆然と立って見ていた。四人はこの遊び場で初対面といってもよかったと思うが、彼らはお互いにある程度心理的距離を保ちながら話し合っていた。

その日の遊び場所は社宅内の広場に遊具が置いてある公園だ。真ん中にちよつと高い鉄棒があった。背丈も朝礼では前から二番目だったので、僕にとってはとてもなく高い飛びつけもしない代物であった。時に上の学年の男子が飛びついて何回も懸垂をしているのを見て仰天していた。懸垂は鉄棒に飛びつけもしない僕にとっては別世界の憧れの行為であった。その高い鉄棒の前は砂場になっており、砂場の向かい側にジャング

ルジムとブランコが設置されてある。家から一分もかからないこの家の近くの公園は土地勘のない僕には安心できる場所であった。

僕が思いついていたブランコ遊びは二つのブランコを左右からぶつける他愛もないものであった。ブランコぶつけの遊びをしていると、公園横に住んでいる社宅のお母さんには

「ブランコには乗って遊びなさい」といつも注意されていた。

その日は学年の中でも活発な山田君は初対面ながらブランコくぐりという僕を含めた三人には初めての遊びを提案していた。ブランコくぐりは動いているブランコの下をうつ伏せになって通り過ぎるというスリリングな遊びである。しかし他の居合わせた二人の同級生は山田君が発案したブランコくぐりは面白そうだという事になり、やってみることになっていた。お互いに親密ではなかつ

たので、それぞれが持っている社交性から「そうだね」と肯定的になり、山田君が状況をリードする形で実施の方向で話しが進められた。団地の中で運動神経が優れていると自他とも認められていた同じ団地の住む勇者がまず先鋒としてブランコくぐりをやってみるようになった。

「そんなの簡単だよ。僕にまずやらしてよ」とブランコの後ろ側に準備した。そしてもう一人がブランコに乗り、前後に動かし始めた。僕は恐る恐る勇者のブランコくぐりを正面から見ることになった。山田君も僕の隣りに来た。この時山田君に

「君もやってみろよ」と勧められたら、弱虫と思われてもよいので、

「怖くてできない」と言えばよいと思っていたので、僕は見学と決めた。勇者はブランコの下には入らず右側に避けるような感じで後ろか

ら横に這いながら抜けていった。

「それではブランコくぐりにはなっていない。動くブランコの横を通っただけだ」と山田君が指摘した。彼は言葉を続けて

「それじゃあ、僕が本当のブランコくぐりを見せてあげよう」とブランコと真後ろに回って下をくぐる準備した。四つん這いになって素早くブランコに向って移動した。ブランコはひとりが乗って漕いでいるので前後に勢いよく揺れている。その動いている板に向かって頭を低くし、「ササッ」と機敏にブランコ下に突進した。

頭はブランコが一番低くなるところに到達した。ブランコの下は土だったので、ブランコから降りる時に地面を運動靴で擦って止めて降りるので、下の地面が二本の線のようなものが出来てしまっていた。一番難関と考えられるブランコが一番低く

なるところにできているデコボコしたところを彼は低い姿勢を維持しながら前に進んだ。僕は砂場越しに鉄棒の下から模範演技のような快挙を見つめていた。山田君もきつと最難関を通過したと感じたと思う。更に彼は前に進み、彼の身体はブランコの止まった位置からは随分前に抜け出していた。

彼もきつと最難関は突破したと、感じていたと思う。ほんの少しだけ山田君の頭が上がり、ブランコの正面に立っていた僕の方をみて

「うまくいったぜ」という感じで眼があつた。その次の瞬間だったと思う。山田君の模範演技はブランコの止まった最も低くなる所は通過したものの真後ろから直線的に正面に向って這いながら抜けていくことになるので、相当な距離ブランコの前まで頭も下げたまま前進しなければならぬことになる。実際彼の身

体はかなりブランコの前の位置までのポジションを獲得することに成功していた。その時彼が前に立っていた僕に微笑かけたように思った。

その直後である。ブランコの板には当たらなかったがブランコの板にチェーンを止めてある二本ずつのビスが山田君の頭を擦ってしまった。ガリガリと音はしなかったと思うが、鈍い衝撃があり、山田君の頭が裂けた。時間が止まったようになり、ブランコを漕いでいた役目の同級生も慌ててブランコを止めた。暫くは山田君の頭からは血が出なかったが、数秒後に大出血となった。すぐに近くにいた大きいヒトたちが集まって来てくれた。彼はすぐ大人たちによって恐らく病院に向って連れ去られた。三人が現場に残されたが、口々に周辺の大人たちから

「どうしたんだ」と質問された。
「僕がやったんじゃない!」

「僕じゃない！」と三人はそれぞれに言っていた。

これが事件の実況中継である。事件の前に行われた選ばれた勇者だった筈のものによるブランコの下ぐりはブランコの横をすり抜けることになってしまった。しかし事件の後から考えてみると横に抜ける遊び方のルールの方が適切だったように思う。山田君の模範演技が目指した前に抜ける方法では二、三メートル先まで這い続けなければ頭を挙げるということが出来る安全な場所にはたどり着けないことになる。

ブランコは今もどこの公園にもあり、小さい女の子が風を切って楽しそうに乗って遊んでいる。ブランコの横に「危険なのでくぐり遊びはしないこと」という張り紙も見えない。山田君の発案した遊びはその後継承されることはなかったようである。

遊びの発案者であった山田君が「このように」とイメージ通りのものを見せようとして失敗した事件であった。自発的に彼がくぐりの模範演技を示そうとしたことをその場に居ながら、

「危ないから、止めにしよう」と止めることができなかったという責務は僕にはあったと思う。しかし彼は自発的に「模範演技をしてみせる」と言い演技したに過ぎない。第一この遊びの発案は彼なのである。

この事件の成り行きの説明は僕だけが教師や母親にしたのではなく、不甲斐ない模範演技をした勇者も、その場にたまたま居合わせてブランコを漕ぐことになった一緒に遊んでいた三人の共通した証言であったようである。

元々出血こそは多かったと思うが、しよせん髪の毛の中に納まる切り傷であつたので、傷も程なく癒え、髪も

生え揃えばなにもなかったように外からは見える。山田君のお母さんは周囲の親たちからも周囲にいた僕たちからも謝罪され、被害を受けたとして事件は落着いていた。

その後たいして作文が上手くもない僕が事件の経過を詳細に書いた長編のノンフィクションが区域の文集に掲載されることになった。また繰り返し人前で読まされることにもなった。結局僕が書いた作文で自損事故であつたという真実を山田君側に伝えようとする大人の動きに、利用されてしまったことになった。

「真実を伝えよう」と僕はよいことをしているつもりであつたが結果としては、彼の作つたストーリーを覆すことになってしまった。僕は正しいことをするとよい結果が生まれるわけではないという事を、この顛末を経験してから思う様になった。

その後も僕はしばしば小学校内で

の些細な事件の主犯と疑われ、職員室に呼び出された。僕は階段の手すりを滑り降りるなどが好きであったので、教師の目を盗んで、繰り返し学内のルールに違反する遊びを繰り返していた。したがって繰り返しお仕置きを受けることになり僕の居場所教室の外の廊下であった。中には冤罪もあった。僕は山田君の事件でのことを自分への教訓として、以降は他人を指す主張はしなかった。クラスの同級生が僕のアリバイを証言してくれたこともあった。すると教師は「自分がやっていない」と語らず沈黙していることについて怒り続けた。

事件を起こした当事者は自分がやったことを知っている。そして僕が冤罪で裁かれていることも知っている。僕はそれでよいと考えるようになっていた。

僕は机の上に突っ伏していた。夢

の中で「山田君との出来事」を体験していたようだ。昨夜は夜更かしをして、風野真知雄さんの「くノ一」の時代小説を読みふけていた。時計を見ると数分しか経っていない。楽しい夢ではなかったけれど、「トトロ」を見ていたお蔭ですごく気になっていた出来事をフラッシュバックで再体験することが出来た。僕のひねくれた行動はこんなところに案外ルーツがあるのかもしれないと思った。

目は覚めてはいたが、僕はまだぼんやりとしていた。すると小さい頃のまだまだある悪行が「山田君の事件」に引きずられるようにフラッシュバックしてきた。引越した先の土地には溪谷や切通しが随所にある。僕は立ち入り禁止になっている十メートル位あったと思う崖がむき出しになっている工事現場を見つけた。造成工事をするためだったのだろう斜面を削り、崖が整地される瞬間後

であつたと思う。ローム層と砂と土が地層が断面に露出していた。自転車で偶然通りかかった場所であつたが、早速、この急な斜面を登ってみることにした。斜面は削りたてであつたので切り口がシャープで、砂利の所に運動靴を挟み込むと足掛かりになった。次の足掛かりを探すと切通しは砂利の層が層状になっているので、一步また一步と足掛かりが登っていける。容易に崖全体の半分ほどにあたる四・五メートルの高さまで登ることが出来た。しかし崖に登り切る前に買ひ物かごを持った通りがかりのおばさんに見つかってしまった。

「昨日この崖で小学生が落下して救急車で運ばれた。危ないからここで遊ぶのは止めなさい」と彼女は必死な感じだ。

「これは拙い」と思い、すぐに降りようと思った。しかし降りる段にな

ると、今度は足掛かりが下になるので、上からのぞき込んで足元が見えない。見えない足元を足でたぐりながら、上体を離して上からのぞき込むようにして切通しの地層の礫の多少脆い所を探し、運動靴の先をねじ込んで降り始めた。僕が動くたびに崖から土砂が崩れ、砂煙があがる。

「危ない、危ない」を叔母さんが連呼するので、少し急いだ。きつと少しだけ急いだため三点確保が甘くなってしまう。次の瞬間、足先を差し込んでいた砂利の層が僕の身体の重みで潰れ、突っ込んだ足を抜かなければならなくなった。起していた上体が浮き、足一本で崖に立っているような形になってしまった。このままこの位置で支えるのは無理となり、これからズレ落ちる下までの距離を咄嗟に確認した。墜落するまでの数秒の時間の経過は今でも思い出せる。それまで崖に向き合う形で一歩ずつ

そろそろ降りていたが、足が滑った時に思い切つて身体を外に向きを変えた。そして崖を背にして前向きになり、靴でブレーキを掛けながら数メートル落下した。

僕の登っていた崖は僕が登る前はきれい切り口をした斜面になっていたが、今は一部がえぐられた様に崩れ、そして僕の上に石やら泥やらが落ちてきてしまい、僕の周囲には砂煙があがっていた。落下は靴でかけた斜面へのブレーキによってさほどの衝撃もなく地面に着地した。上を見上げたら僕の落下の通り道となった崖の面はかなりえぐれて崩れていた。しかし足を挫くこともなかった。すぐに僕は立ち上がり、見守つてくれていた叔母さんから逃げるように、身体から泥を払いながら、自転車に飛び乗りその場から逃げ去った。この切通し落下事件はいつものように一人遊びであつたので、見知ら

ぬ叔母さん以外現場を共有していなかった。この出来事は家族は誰も知らないはずである。でも僕の中ではこの失敗は消せない。

こんな失敗があつたことも思いだした。団地の前には六メートル位のバス通りがあり、いつも横断歩道のない団地の前を横切つて、登校していた。当時東京の幹線道路もさほどの交通量ではなかった。団地の前の道は郊外に抜けていく放射状の幹線と都会を縫うように走る環状道路で東京の道路は構成されている。その放射線と環状線の間を繋ぐ何本かの抜け道の一つが通学路であつた。当時の車の交通量は都心とは言えまだまだ少なかつた。僕はこの通りでバスに轢かれてしまった。轢かれたというのは正確ではない。バスの下に入ってしまった。

その日は学校から走って何分で家に着くことが出来るかという遊びを

していた。時間は学校を出る時に時計をみて、家に着いて再び時計を見るといふかなりあてにならない方法で測定していた。同級生と「よいドン」でスタートしても競っている子とはゴールになる自宅が違うのだから、何を競っているのだからよくわからないことになるが、そんなことはどうでもよかった。兎に角ハハハしながら、精一杯走るのが面白かった。

そして走って帰る競技はゴール間近になり、交通量がそれほどない六メートル位の横断歩道のないバス通りを走りながら渡ることになった。僕としては競技途中なので、急いで一気に渡りたかったが、生憎バスが近づいてきていた。バスは見えていたが、子どもの感覚ではある程度距離があるように思え、充分に渡り切れる距離だと判断し、競技を継続して渡り始めた。かなりの距離を全力

で走ってきたので足が縛れていたのだと思う。道を渡り始めた途端転んでしまった。バスは急ブレーキをかけてくれたが、僕の前では止まれず、ランドセルを背負ったまま転んだ僕の上にバスの前方部分が被って停止した。運転手と車掌さんがすぐに飛び降りてきた。

「怒られる」と思い、動かないでじっとしていた。上を見上げてみたが「バスの裏側は黒いんだ」と妙に感心していた。

「大丈夫ですか」とあまりに繰り返し運転手さんと車掌さんが覗き込みしつこく呼ぶので、仕方なくのろのろとバスの外に出た。周囲の通行のヒトもたくさん集まって来ていた。

「ますます拙い」と思い、そのまま駆けて家に逃げ帰った。この時も家に帰って知らん顔しておやつを食べていた。特に身体にバスが当たったわけでもなく、転んだだけなので、ケ

ガもしていなかった。しかしこの時は通学路であった右の角にお米屋さんがあり、僕の家にもいつもお米を届けてもらっているお店だったので、母親に

「大変だったですね」と顛末を伝えられてしまった。この時もこっぴどく叱られた。少しして姉に

「バスの裏側で黒いんだよ」とちよつと自慢気に伝えたら、

「バカねこの子は。バスに轢かれるところだったんだよ」と再び叱られた。

僕の転んだことと関係があるかどうかわからないが、二・三か月後に僕がバスの下に入ってしまったところ横断歩道が設置された。

「横断歩道ができたのは僕のせいではない」と思っていたが、先日仕事で懐かしい故郷に立ち寄って通学路を通って小学校まで歩いてみたが、この横断歩道は今も残っていた。

高校生の時に僕の行動様式に直接関連があったと考えている出来事があった。大学紛争の真つ最中で、東大の入試が一年中止になるほどの社会的な騒動であった。全国の大学で種々の紛争が長期化し授業も行われていなかった。暫らくして大学紛争が鎮静化し始めた頃、今度は高校に紛争が波及していった。僕が高校二年の時に同じクラスと同級生が政治的なデモに参加して逮捕された。当時の僕は両親が海外赴任し日本に不在であったので、母系の祖母の家に身を寄せていた。僕にとっては一日一日を過ごすことが最大の課題であった。中学三年までは家から通学することが当たり前と思い、両親が家にいることが当たり前と感じていた。当たり前どころか両親の存在は鬱陶しかつた。両親の海外赴任によつて自分の傍から両親が消え、頼りにしていた姉も嫁ぎ、後ろからの支えを

失った感じとなっていた。

近い将来多くの同級生たちが基盤としていた「家庭」が崩壊するとも感じていた。そして家庭の崩壊によつて自分の居場所が無くなると予感していた。居場所がなくなつた後に生き抜くために、生きる道具として充分な社会的資格を得ることが必要であると考えていた。しかし僕は覚えることが苦手で、しかも理解が悪いために知識を定着させるには時間がかかつた。自分にはもつと学習のための時間が必要だと焦っていた。大学受験は自分の近未来の運命がかかっているような切迫感が焦りに拍車をかけていた。

この切迫感の中で高校紛争と言われる政治運動が僕のすぐ横で進行していた。学校側は当時三泊四日といわれた拘置を理由に同級生に対して退学を勧告した。僕は政治に全く無関心であつたわけではなかつた。学

園紛争にはいろいろな世の中の欺瞞がきっかけになつていったようには理解していた。国の行く末を案じ、日米の安全保障も当時の学生の大きな関心事だつたと思う。僕は日本の行く末について政府が執行しようとしていることが適切でないと思う考えを周囲に伝えるにはデモは一つの手段であることも知っていた。しかし僕にはデモに参加する気概も勇氣もなかった。しかし政治的に執行の善悪を考えることは必要なことだとは理解していた。

退学を勧告されていた彼もきつと世間へのアピールが必要と考えて政治的デモに参加したのだと思う。そしてデモを規制している警察官との摩擦で恐らく公務執行妨害の疑いとして留置され、取り調べを受けたのだと思う。

クラスに出てきた彼を同級生は囲んだ。

「留置場ってどんなところなんだ？」

「どんな食事が出るんだ？」

「取り調べて何を知ることができるんだ？」皆興味津々であった。

そしてトイレで煙草を吸ったことが教師に見つかった時と同じように、何等か彼に罰を与えるのだろうとは思っていた。

しかし留置場から帰ってきたことを理由に、退学だという対処はさすがに僕も「あれ？」と思った。しかも容疑については未決である。自分の居場所がなくなるだろうと自分中心の内向きのことだけを考え、近未来への不安に支配されていた僕ですら、「退学の処分は適切ではない」と感じた。

その時彼は退学を勧告された後、周囲を振り切って、校長室か教員室から教室に上がってきたと思う。彼は泣いていた。三階の僕らの教室ま

で走って上がってきた。後を追うように母親が教室に向ってやはり小走りで追いかけてきていた。廊下で息子の後ろ姿に追いつき、

「皆さんの迷惑になるから帰りましょう」と母親が説得していた。本人は帰らないと泣きながら抵抗して教室の彼の席に座っていた。彼は担任の教師や母親との押し問答を繰り返していた。クラスの代表格の子が現在の状態をクラス全体に説明し、クラスの中でも退学処分は是非について意見を述べ始めるものが出ていた。その時の時限を担当している教師が英文法の授業を進めようとしてもしていた。意見を述べているクラスメートとは別の同級生が担当教師と押し問答をしている。多くの同級生が理不尽と戦っていた。騒然とした状況が教室では延々と続いた。しかしこの時の僕は入試の準備のための学習が思う様に進まず、人生の進路が閉ざ

されたように感じている毎日を過ごしていた。僕はこの場に居合わせても、脳が作動せず頭が真っ白になって何も考えられなくなっていた。

そして自分の中に驚くような幼稚な感性が浮かんできた。彼も彼の母親も泣いていたが、今回の理不尽な学校側の対応に、見解のズレがあったとは思わなかった。母親が難局に巻き込まれ、一体となって対処しようとしていると強く感じた。もう少し欲動的な感情で語れば、僕の幼い脳は、難局に母子が一体となっていることに嫉妬していた。母親が子の難局に直接一緒に対処していることが羨ましかった。

この事件に遭遇する少し前の夏の一日に僕は祖母の家で過ごしていたが、夏風邪で高熱を出し寝込んでしまっていた。その時祖母は大騒ぎになった。

「自分の娘からの預かりものに一

大事が起きてしまった」と海外に赴任している母親に連絡して、迎えに来てもらおうと動転していた。扁桃腺炎のような軽い病気でさえ祖母は一体となつては対処してくれないことを実感したばかりでもあった。高熱で火照る身体を持て余しながら、「ここは確かに自分の居場所ではない」と実感したことを思いだしていた。

両親が不在のまま入試迄あと一年のカウントダウンを迎えていた。しかし甘い見通しのせいで受験準備は身に着けていなければならぬ事象の反復に手間取り、大幅に遅れをきたしていた。当時の能力ではとても望めない水準まで大幅に引き上げることしか考えられなかった僕は同級生の救済より、目の前の偏差値を合格水準に大幅にひきあげることだけに照準を定めていた。

怒号が飛び交う全校集会があつて

も、紛糾したクラス討論会があつても、また彼と一緒に政治運動をしていた別の同級生が彼と一緒に高校を中退する大決断があつても、目の前の事態のことは考えない様にしていった。加えて今起こっていることの善悪についてもそれ以上考えないようにもしていた。最終的に複数の同級生が退学する事態に発展した身近に起きた大事件であつた。そしてこれらの一連の経過について考えることを止めたことについて、すぐに強く後悔することとなった。また自分に對しても罪の意識をも持つようになった。彼らはお国を憂いての行動であつたと思う。僕はと言えば自己中心に進路を心配して自分のためだけに時間と労力を使った。しかも同級生を理不尽に退学に追い込んだ同一法人への進学後、医学部進学過程にぬくぬくと存在している自分はその簡単に許されないと思つていた。そ

の後の僕は二年間の医学部進学過程では全く学習が手に着かなくなつてしまった。そして登校すらも滞りがちになった。身近に起こつた大事件を自己保全のために傍観し、何も行動せずその場から立ち去つた自分を責めていたのだと思う。

幼小児期にスリル満点な落下体験による冒険心や教師との冤罪ごっこで自己完結する正義感や行動することによって得られる充実感のようなものを体験的に身に着けていたにもかかわらず、同級生の政治参加の対応に関わらなかつたことへの罪悪感はその後の医師となつてからの日常にも影を落とした。医師として仕事を始めた以降も高校生の時に傍観してしまつたことを償ひ続けた。

医学部教授会で受精卵の研究使用で、激怒した後懲戒対象行為をしてしまつたと感じて、退職勧告されるに違いないと強く感じたのも思春期

に体験した理不尽な退学勧告と関係していたように思った。僕は以降自分の存在している世界を信用しなくなってしまうようだ。

「二度と自分だけを安全地帯に避難させるようなことをしてはいけない」といつも結論していた。

「これ以上自己保身するような行動をとることはできない」と強く思い、自分と関係しないところにおいても、あの退学事件のようなことが起きてはいないか、注意深く周囲の理不尽へのアンテナを張っていた。

そのような自己否定感と大学への不信感は医療に従事してからも持ち続けていた。兎に角僕には社会還元がミッションであった。医師になつてから心身医療科のメンバーとして自分の意思を具体化できる活動ができるように修行を続けていた。ある程度納得できる医療へのフィードバックができたと考えられる程度の到

達点に至るまで二十年弱も費やしてしまつた。

心身医療科の周囲に起こる理不尽を処理することはある程度の権限の中で処理していた。そしてなお僕が所属している医大に対して高校生の時に周囲で起きた理不尽な対処をした同一法人に対して、不信感を持ち続けていたように思う。彼の所属している大学は八十ある医科大学の一つにすぎない狭い社会ではあつた。

しかしその小さな世界であつても、起きている理不尽への監視を緩めてはならないと強く思い続けていた。理不尽と関わるものが出来る医学部内の役割を積極的に引き受けていた。医学部執行に直接かわつてはいなかつたが、人事の目安箱を管理する委員を務めながら、身近に起こる少なからぬ体制が押し付ける理不尽に対して懸命に弱者を擁護していた。しかし自らの存在に対する不

全感を拭い去ることはできず、もつと世間様に償わなければならないとの思いがいつも潜在していた。

偶然のように近未来の進路が混んとしていた行く先に選択肢が示された。僕はより困難が予想されていた医学部執行での内部改革を直接自分で、矢面に立つて行なう責任者を引き受けることに決めた。困難が前提であつたので、家族にも執行に入る時の覚悟を伝えた。

「やめてつて言つても、ケンカ装束は替えないでしょ」とあきれながら家族にも了承してもらい、デスク内に退職届を置きながら、医学部内の理不尽を探す毎日となつた。

僕は医学部執行を担当する様になつてから医学部内規への議案提出権を持つた。それまでの運用は法規に準拠するというよりはケースバイケースでの適切に決済する方法が選ばれ執行されていた。組織に支障がな

い処理という事は以前根拠もなく却下されていた慣例にも従うという事にもなりかねない。結果として立場の弱い申請者に不利な処理となることが多くなっていたと感じていた。

医師には関連の病院に臨時発生した事象に対処するために異動が生じ急きよ医療システムが崩れないように大学からの要員をとって転属せざるを得ないことが起こる。その折大学のためにまた地域の基幹病院の医療崩壊を防ぐために、異動に承諾してくれ危機回避に協力してくれた勇者が自己都合退職と同様に立場が不利になるように事務処理されてしまっていた。

ルールは本来そこで善意で働いている人の権利を守るために作動させるべきであると思っていた。まして退職処理のような重大な決定が事務処理の担当者の裁量に任されて運用されていることは全く適切ではない

と考えた。対処のルールを内規に書き込み臨時の異動に協力してくれたものなどの雇用状態が不利にならない様に改正議案を提出した。そして毎月のように却下されても翌月指摘部分のみを修正し再提出し、少しでもルール執行での理不尽を減らそうと努めた。しかし改正後は法規が複雑になり処理が煩雑になることが多く、事務執行の現場からは改正の提案を止めてほしいと申し入れられていた。加え医学部の執行部から少しでも支出を伴う要素が予測されると思わず却下されていた。

そんな中、附属病院に非常勤勤務として診療に参加してくれている者たちと雇用の契約を結ぶことを義務付けた内規の案を立案し提出した。医学部では必要であることは認められ、学園ホールディングとの話し合いの議案となって正式に相談が持ち掛けられた。その時の学園ホールデ

イングの責任者は

「自己研鑽のために来ているのだから、報酬など必要ない。こつちが授業料を貰いたいくらいだ」と即座に却下された。

その後数年して、僕ではなく附属病院の治療部門長の發議で同じ内容の内規が執行された。その時僕は医学部の管理業務から大学全体の管理業務に職務が変わっていたので、実施が許可されるプロセスには立ち会えなかったが、僕の提案が批判され却下された時には發言せずに黙ってみていた後輩が数年後実施の段取をしてくれたことになる。その場で決できなくても、誰かが見ていてくれている。その時は物言わぬ傍観者であつた誰かが目的は違っている。「僕にとつての理不尽を解決してくれることもある」と感じた。僕一人が白装束を着て奮闘しなくても、理不尽からの脱却は得られることもある

ことを知った。しかしその後も僕は白装束を着かえることはせず権利を保全するルールを考え続けた。僕の提出する立場の弱い者の権利を守る提案はその後にも次々に却下され続けた。

嫌気がさしていた頃、僕は医学部の執行から離れ、大学の学事の新しい執行責任者を命じられた。新しい部署を立ち上げ、医学部を離れて業務をはじめていた。

更に知財と産学連携を扱う部署をも新規に設置することになった。設立準備を含め責任者として併任することになった。知財や産学の連携は他の有力校から比べると、大巾に設立の時期を失してのスタートであった。

「まず設立の理念の確立から取り組もう」と理念から取り組むことにした。一緒にブレインとなって考えしてくれた設立メンバーの一人が理論

物理を専攻している教授であった。

彼は僕にこんなことを教えてくれた。

「戦時中に米国の物理学者はマンハッタン計画を推進し目的とすることを知りながら、学問として核連鎖反応の実験を遂行し、核爆弾に技術応用を完成させる。その結果広島・長崎での大量殺戮の一翼を担うことになった。この科学者の加害性は未だに物理学会は問題にしている」という趣旨のコメントを伺い、僕はこれから立ち上げる組織の理念にはピタリだと思った。このセンターを立ち上げ、大学は教員たちの手による研究に対して一部特許権を保持する。万が一マンハッタン計画類似の事象が起こり、保持していた特許を日本の軍事組織が武器開発として使うことが必要になった時、私学の保有している特許は社会益にならないと大がかりな時、国家の実施を差し止めることは理論的には可能はずで

ある。差し止めることは出来ないにしても、同意しないことによって戦闘への貢献に抵抗する意志を表明することはできると考えた。企業の特許の利用の方向について知財を共有することによって監視し続けるというアカデミアらしいポリシーにたどり着いた。このルールは理事会決定が必要であった。学園ホールディングの理事会での管理を担当する弁護士からこの内容の了解を得るまでに一年以上かかってしまったが、趣旨が理解され、組織をスタートさせることになった。

業務範囲は広範で、会社との共同研究等の処理も共同研究の成果である特許の申請まで全ての権利に関する処理と管理が任されていた。企業としては大学と共同で研究はするが、成果については「研究者と共有しないで当然のように独占したい」と申し入れられることも多かった。また

薬剤などの試薬を研究に提供を受けることも多いが、ひな型となる契約書には企業にとつて都合の悪い成果は発表しない。都合のいいものも企業の承認がないと発表することが出来ないとする企業の益を優先して契約であつた。企業の振る舞いは、社会悪ともなりかねない地位協定を要求されることが常態化していた。理不尽からの改善を目指すことは必要だと考え、企業の主張と対立しながら日常の業務を遂行していた。

しかし考えようによつては自らの所属する研究者や大学組織のエゴを守るための交渉とも言え、必ずしも「社会正義を前提に」とは言えない場合にも遭遇した。産学連携の責任者を数年続けているうちに、組織や研究者の利益を守るだけの執行では組織の方針としては不十分だと感じる様になつていた。

僕の所属していた大学は小さいな

がら医学部だけではなく、理学部、薬学部を伝統的に運営していた。大学の設立理念も「尊い命をはぐくむ」とを学是にしている理科系のみのものである。理系の研究は海外からも共同研究の依頼がたくさん舞い込んでくる。多くの共同としての研究をするための契約書を作成する依頼を受け付け処理していた。スタートしてから数年後、突然西側の国の軍事研究所から平和利用を目的に共同研究をしたいと申し入れを受けた。軍の研究所が平和利用目的とは方便が過ぎると、僕は仰天した。

そればかりでなく、東側の国からも利用用途についての意見交換の会合を行いたい旨が申請された。国際研究会は着々と準備が進んでいる段階で、承認を求めて学部から申請が上がってきた。内容を読んでみると兵器に転用できる技術の国外への流失を規制する輸出貿易管理令の指定

物質に関する意見交換であつたので、学問の自由とは異なつた側面を持つた事象が身近に飛び交つていることに気が付いた。小さい大学であつたので、海外の名だたる軍事組織から共同研究が申し入れられ准軍事研究時には軍事研究にも転用しうるものが行われているとは僕も考えていなかった。

僕の所属する小さな大学では対応する法規も立案されていない無防備な状態であつた。僕はこれが退職前の最後の仕事と考え、すぐに対応法規の立案に着手した。行政の指導も輸出貿易管理が段階的に本格化するタイミングでもあつたので、先行して対応していた関連の大学に出向き、執行の方略を教えてもらいながら急ぎ準備した。説明会などくり返し、なんとか軍事に関係しそうな研究をノーチェックで海外に出すことがない様に、行政が示す最低の対処の整備

は在職中に完了させた。

しかし輸出貿易管理とは別に、国内でも防衛省が軍事と平和のデュアルユースを前提にした研究費が提示された。研究費に恵まれない私立大学の研究者が応募を希望し、採択され更に研究が成就し、日本の兵器の開発技術の一部を推進することが起こってしまう。小さな特に世界に影響があるとは考えられてこなかった大学ではあるが、ヒトを不幸にする方向に何らかの形で加担することになってしまふことに対して知財連携センターを運営する責任者としては許しては後悔すると強く思うようになっていた。ましてや自分は医者である。命を守ることだけをするように免許を与えられ、教えられまた教えてもきた。軍事や兵器開発を幫助することなど成してはならないと思った。

しかも大学の学是は医療に係わる

学部から構成されているので、「尊い命を守ること」としていいことから考えて、軍事や兵器に近づくかもしれないことにもう一枚歯止めをかけておこうと考えた。僕の所属していた大学では研究倫理の全国版の学習シートの具体的な例として取り上げられるような研究不正が起こっていた。論文捏造のようなことが二度と起こらない様に、研究者が守るべき行動規範が作られた。規範には当たり前の研究ルールの原則が細かく書かれた。そして研究計画は研究倫理の委員会が厳格に国のルールと学内のルールに従って審査されるようになっていた。僕はこのルールに「軍事に関する研究は一切禁止である」と書き込もうと考えた。僕は大学全体を規制する委員会へ改正の動議を提出する権利を持っていた。知財と産学の連携を統括するセンターが動議を出すことが適切かどうかの討論と

評決を行なった。理学部、薬学部、更に直接命に関わる医学部・看護学部・健康支援学部の代表からは推進の意見はあれ、反対するけれどもないまま満場一致で可決され、本会議への提出となった。

これが小さな大学の小さな部門の執行の責任者として最後の世間様へのご奉公ができるかもしれないと考えられる事象を僕が扱えることになった。

そして社会に対する自然科学系の大学の責務でもあると強い決意で、提案理由を大学全体の会議で説明した。「軍事研究一切禁止」の提案は学園責任者が司会をしている学事の全般を決定する会議で審議がはじまった。僕の提案がすんなり受け入れられるとは思ってはいなかったが、司会役の学園責任者は

「有力な私立大学が防衛省のデュアルユースの研究費への応募に賛成

する立場を取っている。また我が国のトップの大学も反対していない。

うちのような大学がその決定と真逆の反対の決議をするなんて」と薄ら笑いを浮かべて議論もろくに行わず継続審議とした。僕は激怒した。

「実際自分の預かる部署で某先進国の海軍軍事研究所から平和利用を目的にした共同研究を行いたいとの依頼を受け、また当該研究者の了承は得ているという依頼を受けて驚いた。また別の国の軍事関連企業として有名な付属の研究所からも日本からの武器技術の流失を禁止した輸出貿易管理令に抵触する可能性の高い共同研究の依頼も受けている。他の大学がまあいいと言っているのに、わが校もこの問題を議論しないではないという論理は成り立たない。何回でも提出する」と決意を述べた。

次月にも少しだけ文字を修正した同様の趣旨の改正議案を再提出した。

学園長が代表的な出席者に意見を求めた。医学部の治療部門長のひとり

が「例えば枯草熱のような病気の疫学調査を学術目的でしようと計画したとして、見ようによっては陸軍の進軍に利用できる研究になりそうなので、一切禁止では研究の中を狭くしてしまわないか」と懸念を表明した。それに同調する様に他の学部の実任者の一人が

「もし研究発想が制限されるようならばこの条文はよくないのではないか」と懸念する意見に同調した。

「軍事や兵器に関係する研究は利用されうるものを含めてわが校ではそのようなきわどいものに関わる研究を推進する必要はない」と懸念には反対の意見もでた。

そして提案者にコメントする様に求められた。

「米国の物理学者によって研究さ

れ完成された核連鎖反応技術は広島・長崎での大量殺戮へと応用されていた。我が国が万万が一ないとは思いますが何らかの理由で、わが国が戦闘に向って巻き込まれてしまった時、大学は社会益を守るために大学が保有し続けた戦闘に資することになってしまふ特許の実施を差し止めることが出来るシステムで現在知財連携センターは作動させている。万万が一にも軍事技術の幫助や加担が生じないようにするポリシーを推進することは、自然科学を専攻する我々の基本姿勢である」と僕は説明した。加えて

「わが校の学是を思い出していただきたい。『尊い命をはぐくむ』ではありませんか。自分のやろうとしていた研究が出来なくなるかもしれないという仮想の話は現在機能している研究倫理の委員会の審査に任せればよい。研究発想は自由なのでは

なく、ヒトの幸を目指したものでなければならぬ。懸念のコメントは反対を意味するものではないと理解する」と強くコメントした。

すると議場の空気が少し動き、

「ここでの議論は法規執行時にも有効なので、委員会の審査で現在の研究が運営されているのだから、軍事や兵器の懸念も提案者の説明のように倫理の委員会に委ねればよい」という議場からの意見に多くの出席者が頷くことになった。

結局最後に強い反対意見がでないまま採決となり、潜在的には

「自分たちの研究の足かせになるかも」との懸念を感じていたものが少なからず存在したとは思いますが、反対の挙手もなく僕の提出した修正案は可決された。

この決定を頑張つて可決したことは医療系の大学とも言ってもよいわが校の態度としては、

「戦争への幫助は例え些細な研究であっても、加担してはならない」という願いが明示され、社会益が前面に出されたものになった。

伸夫は少し愚かな小さな存在でしかなかったが、この一本気によってここで推進された決議はほんの少しだけ平和への願いの表明した意味を持ったと感じた。

数週間後テレビニュースで防衛省のデュアルユース目的の研究費の賛否がテロップで示されながら、夫々の言い分が紹介されていた。当時賛否の数は相半ばしていた。学園長が会議場でも述べていた医学部を持たない私立の有力な総合校は賛成校として紹介されていたが、他の国公立私立大学が続々と反対の意思を表明していた。そしてわが校もテロップで反対校として紹介されていた。僕は偶然見ていたニュースであったが、小さく拳をあげた。

それまでの罪深い数々の所作を引きずりながら、精一杯白装束で小さな抵抗を繰り返して頑張つてはみたものの、さほどの成果も挙げることはできなかった。しかし僕はこの決議を推進したことで、やっと退職前に世間様へ小さな恩返しができたように思った。そしてそれまでの無関心を装うことや行動することによって得られる喜びの感性の中で、キャリアンカーとして具体的に譲れないものを確認することが出来た。少しだけ幼少期からの償いをして大学を辞することが出来たように思った。

記備談語―16・17―

(01・08〜02・03)

佐藤 玄祥

その他

編集後記 16・08・1-1

会報など組織内のニュースや会員の声を掲載し、編集者が内容の纏めとして主立った記事等を数行に「編集後記」とする。

日本指圧協会広報紙「指の光」

に、私が退任するまで長く「編集後記」を担当して粹を埋めていた。この度改選後の上野新理事長より、直々に懇請され又担当することになった。毎回楽しみにしていたというファンもおられ、老骨に鞭打ち承諾した次第。さらに話が進み、エッセイ集「記備談語」の中から「健康・医療」関係の記事を毎回転載する運びとなった。指圧師と

して知識の蘊蓄のお役に立てば有り難い事である。6月号から。

組織若返りの為と私自身高齢の為、昨年度指圧協会の副理事長辞任の意思表示を申し出、容認されていたのに、総会で理事長・筆頭副理事長共々退任するという事態になり、一挙に人事が若返り、新鮮な体系で「日本指圧協会」が運営されることになったのだ。

陰ながら、微力でのご協力になった次第である。(01・08)

医療

アルツファイマー(AD)治療薬

16・08・1-2

アルツファイマー病(AD)に就いて、現在「塩酸ドネベジル・ガランタミン・メマンチン・リバスチグミン」の四種類の薬が保険適用になっている。治療効果にそれなりのエビデンス(信ずべき根拠)

が確認できるかは、一時的に症状が改善されても、それは症状を軽くするというだけでADの進行を止めるわけではない。

先般、医薬品メーカーの「エーザイ」が効果の検証を進めている治療薬の一つが効果不明の為、試験を中止するニュースがあった。

ADはもともと患者数の多い老年期の認知症なので、その進行を止めるか或るいは発症を抑えるかのクスリの開発が世界中で待望されている。アミロイド仮説(βアミロイド脳中増加)に基づく臨床試験が残念ながら次々と開発中止になっている。なぜか？日本では400万人以上の患者の多くは85歳以上。そのAD症状は病気ではなく「脳」の老化で、平行して認知症が増える道理なのだ。若年発症は明らかに要治療に絞れば、本質的治療薬が望まれるのだ。

教育

銀の匙(続) 16・08・1-3

ユニークな灘中教育と題して「紙つぶて」東京新聞(6/11)「山本尚」先生(中部大学教授)に、灘中に在校しておられた体験を述べられていた。進学校として著名な神戸灘校(当時旧制中学)に在学中の山本先生は、当時は詰め込み主義でなく超のんびりした学校であったという。中学一年の夏休みの宿題は「ピタゴラスの定理を証明せよ」で、これまでに無い新しい証明を自分で考えなさいとの但し書きである。150名の学生が100種の全く新しい証明が為されたそうで、発想の転換を期待した問題に7割近い生徒が応答されたことは、やはりユニークな学校だった訳である。化学の時間に

「大阪大学池田教授」の特別講義で、皆がやかましいので先生は

「俺の講義が聞きたくなければ後はドイツ語で講義する」と言われとなった強烈な一撃があったそう。橋本武先生の「銀の匙」の講義も受けられ「材料は無限」山本先生は後年のご自身の研究に、研究の終わりは無いと断言されていた。

(01・08)

世相

銭湯ランキング 16・08・2-1

見知らぬ人達が一緒に大風呂(近ごろは各種サービスの付加価値あり)に浸り、世間話に華を咲かせる「銭湯(公衆浴場)」東京料金¥460が、日本独特の文化として、外国人観光客にもPRとして、裸の付き合いと「フロ」の活性化に関与、高齢者らの見守り

の場、地域コミュニケーション拠点などに利用されている。

全国的には、戦後家庭風呂の普及で、その数を減らし、厚生労働省が毎年纏める銭湯数の推移は2017年度3729カ所、30年前(12000カ所)よりの激減になる。HSP健康法のためにも大いに利用しようではないか。

都道府県別ランキング(別表10位まで)は東京2位561だが、人口比では少なく、一年で32カ所減少なのだ。東京都では昨年「公衆浴場活性化対策」を纏め、地下

銭湯の数		
一般公衆浴場		
順位	都道府県名	(公営と私営)
1	大阪	579
2	東京	561
3	青森	303
4	北海道	284
5	鹿児島	284
6	兵庫	174
7	京都	171
8	神奈川	152
9	大分	148
10	愛知	100

(2017年度、厚生労働省調べ)

水使用の災害時対策も杉並・太田等各地区で結んで。(01・08)

社会

ハンセン病訴訟 16:08:2-2

戦前のライ病 (Lepra) , その後ハンセン病) の悲劇的措置に対し、今回の訴訟によつての其の結末は、被害を蒙られた方々にとっては国の勝ち負けではなく、医療の不備が正されたのに放置されてきた「怒り」でもあった訳だ。そもそも、骨の組織の壊死による変形で罹患された患者が、レプラとして疎(う)とまれ、医学の進歩で「遺伝」から「伝染病」と判明するまで、悲劇的な「隔離・断種」の悲人道的処置に苦しみ、治療薬(レクチゾール田辺三菱ほか)の出現で、ライ菌による伝染病と判明、抗菌剤で完全に消滅したのだ。1996年ライ予防法が廃止され、

その時点で国は、直ちに賠償をしなければならなかったのだが、熊本地裁の裁判判決の法律上の問題点の指摘と、今後の全面的解決を図る方針に対し、安倍首相による今回の「反省とお詫び」の談話は、幾多の苦痛と苦難を経験された家族のご苦勞を長引かせない為にも、国の原告への控訴はしないと決定したようだ。医学と薬学の進歩に敬意を表すものだ。(01・08)

科学

宇宙50年 16:08:2-3

巨大な「サターン5型」ロケットが轟音を響かせ、大地を蹴った。アメリカのアームストロング船長・コリンズ・オルドリン飛行士3人の「月への使者が…人類は遂に月を歩いた! 1969・7・21」の見出しと「アポロ11号」の快挙の報らせに、世界中が沸いた。

今から丁度50年前の事(写真サンデー毎日8/3・1969)宇宙年の開幕であった。



50年後の現在、宇宙航空研究開発機構(JAXA)の発表では、日本の「はやぶさ2号」が小惑星「リュウグウ」の地表面にクレーターを作成その後再着陸して岩石の採取に成功したと報じた。「はやぶさ2号」には、長野県諏訪市の関連会社が得意の精密技術で一部機械に貢献していた。

私事だが、孫娘(25)が東海大学で宇宙開発のロケット研究に取り

組んでいる。長命のお陰で宇宙旅行を視野に入れながら進歩する社会情勢に感銘する。(01・08)

選挙

選挙あれこれ 16:08:3-1

参議院選挙が終わり、様々な話題が産出された。7/22の新聞報道の見出しは、与党および自公勝利と伝えたが、民意は50%を切る低投票率で、安倍与党9減、非改選56と併せて113、単独過半数123に届かない。辛口の斎藤美奈子女史は「自民単独過半数割れ、安倍一強に赤信号」と手厳しい。10代投票率は大きく低下、18歳・19歳合計で33%、全体の投票率44.80%を17.47%下回った。

比例代表の明暗は、992267票の「れいわ新選組」山本太郎氏が落選、公明塩田氏の15178票で当選という結果は、今回か

ら導入された「特定枠」(政党的必要とする人材確保の優先権付き)の影響であった。山本太郎氏の演出した筋萎縮性側索硬化症(ALS)患者と重度障害者の2名の当選を果たしたのだ。

いずれにしても、自民・公明に維新を加えた三党で160,213。議席164を確保出来ず「憲法改悪」に待ったがかかったのだ。(01・08)

健康

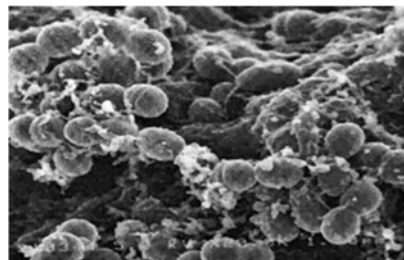
ミュータンス連鎖球菌

16:08:3-2

ムシ菌(う歯)を発生させる菌は何処から侵入するのか、予防はどうするのか、いろいろ歯に関する疑問に、東京医科歯科大学大学院保坂啓一教授は答えられた。表題の球菌が食べ物に含まれる砂糖などの糖質をエサにして強力な酸を

発生させ、

歯のエナメル質を溶かし穴を開ける所謂「ムシ菌」となり、歯の表面に歯垢となつて棲み付き、歯磨きや食後の



口すぎ位では除去出来ない。本質は、砂糖分と酸性化。「感染の窓」と呼ばれる生後19〜31カ月(赤ちゃんは本質的に無菌)乳歯が生え始める時期に球菌が定着する。予防法は歯垢除去・フッ素塗布等一般歯科治療だが、根本は食生活上、口中の酸性化を防ぐために澱粉糖質摂取後の中性アルカリ化が必須とのことである。通常は口中は中性、食事で酸性化、米澱粉

でもムシ歯になるから厄介だ。歯科医の定期的受診を薦められた。

(01・08)

気象

梅雨寒 16.08.3-3

東北や関東の太平洋側を中心に雨や曇りの日が多く、7月には日照時間が短く、都心部では20日連続の記録(88年17日間)、平年の11.6%、9.1時間に過ぎなかった。

天候不順の影響は様々にあり、

「梅雨寒」は暮らしに冷水であった。長く感じながらも意外と気象庁は「平年並」と言う。これは日照時間の短さによるものだそうだ。従って異常気象ではないと言っていたが、東京大学先端科学研究所中村尚教授は亜熱帯高気圧が高くなつて来ているので、近く解消する、但し南から湿った気流で深刻な大雨になると警告された。経済

的には野菜・果物・夏物・プール・海水浴等影響が大きい。

気象庁は、気温が上がらない原因は日本列島に張り出したオホーツク海高気圧により風の渦が北日本や東日本の太平洋側に北からの冷たく湿った空気を運び、梅雨前線の停滞時間が長くなるためという。一方西日本は各地で気温上昇、熱中症対策が必要と言う。7月末やつと夏らしい日差しが夏休みを楽しくさせて来たようだ。

(01・08)

政治

GSOMIA 16.10.1-1

長い略名(ジーンソミア General Security Of Military Information Agreement)は軍事情報包括保護協定を意味している。日本と韓国間の協定を韓国が一方的に破棄したことで、北朝鮮や中国・ロシ

アの動きへの防衛面上の牽制が薄れて来る。韓国政府内でも、国防省は破棄に反対したと報ぜられているが当然であろう。

そもそもこの協定は、軍事上の秘密情報を提供し合い、2016年締結以来交換された情報数は、それ程多くは無いと伝えられていても、存在する事で成果を挙げている。

破棄により、日米韓の協力態勢は弱体され兼ねなく、米国も失望と懸念を表明しており、文在寅大統領周辺の不祥事隠蔽が狙いとの指摘もあり、韓国政府は損失が大きいにも拘わらず決定した事は、安倍政権の強硬な対応(元徴用工・慰安婦問題の不十分な措置やホワイト国除外等)が根幹にあり、関係悪化は否めない。冷静に、相互間の問題の原点に立ち返るべきと言いたい。両国の安全保障に役立

つ協定なのだ。

(01・09)

世相

旧開智学校(国宝指定) 16・09・1-2

学都松本市の旧開智学校が、明治以降の学校建造物で初めて「国宝」に指定される。1961年(昭和36年)国の重要文化財となり、本年5月「国宝」に格上げが答申された。

教育の尊さを語る新国宝については、背景には明治5年(1872年)に公布された「学制」により、全ての国民は教育を受けることが義務付けられ、教育に熱心な長野県に於いて、明治9年(1876年)当開智学校が地元住民1600人の醵金(11000余円、現在では1億円以上)で建築費の7割を負担したと言われている。

松本市内には1885年(明治18年)同じ円塔(写真参照)を持つ



旧開智学校

旧山辺学校校舎も現存し、天守閣(国宝)を持つ松本城もある。幕末から明治にかけて全国的に流行した木造二階建て中央部八角形塔などハイカラな洋風建築の特徴と「竜」の彫刻などの和風の意匠も併せ持つ。先人の教育と歴史を語り継ぐ貴重な新国宝である。

(01・09)

運動

黄金世代(1998年生まれ)

今ゴルフ界に「黄金世代」なる

16・9・1-3

1998年生まれの女子プロの活躍が話題になっている。

全英女子オープンで日本勢として、41年振りの海外メジャー制覇を果たした「渋野日向子」選手(20)が、8/7に代名詞となった「笑顔」で帰国した。TV放送で曾ての「渋顔」を「笑顔」に切り替えた表情が素敵であった。圧巻は3番ホール4パット後の「スマイリング シンデレラ」の快挙で真夜中報道で諦めの就寝に入った人が多かった。

女子の黄金世代の「20歳」は既に国内ツアーで8人も優勝している。若手の活躍が目立つ女子ゴルフ界の中でも、この世代が際立っている。2014年高校1年の「勝みなみ」さんが国内女子ツアー最年少優勝記録を更新する(15歳)。また2016年にはこの世代の中心的存在の「畑岡奈

紗”さんが高校3年の時(アマチュア)日本女子オープンに優勝している(日米通算6勝)。ツアー優勝(海外共)・・・洪野3勝・畑岡3勝・勝4勝・1勝が5人のデータが輝かしい。洪野選手は”東京で金を!”と抱負を語っていた。

(01・09)

その他

55年館(法政大学) 16・9・2-1

昭和30年(1955年)3月、大内兵衛総長より戴いた「法政大学経済学部商業学科卒業証書」が私の履歴の中での一つの宝物でもある。

わが母校法政大学が、田中優子総長の基、受験者数・学生数が益々充実し、旧校舎(入学時竣工)の通称55年館が”大内山校舎(新名称)”に改築され、外堀からその威容「写真」を誇っている。旧校



舎55年館の階段の手摺りの木部で作ったキーホルダーを記念に戴いた。

終戦直後、父を亡くし苦学して星薬学専門学校を満20歳で卒業し、薬剤師の資格を得て日本橋の化学薬品会社に就職。学制改革で旧友は殆ど新制高校に進学、在学中。私は大日本育英会の奨学資金を戴き、月謝千円(月給1万円だった)の法政大学3年に転入学し、頭書の証書を戴き、今法政大学同窓会が法人化し、中野区の会長と

して中野法友会をまとめ、母校の結束のため協力している。”法政Ohわが母校!” (01・09)

音楽

山口保治先生 16・9・2-2

たびたび自慢になる名門校”常盤小学校”での5・6年生の音楽専科「山口保治先生」の2年間の授業が私の音楽の源泉ある。昭和17年、小学校の鼓笛隊を編成し指導されていた。先生もやり難かったと思うが、音階の基本和音を、敵性語”ドレミ”から”ハニホトイロハ”に代え、「ドミソ」→「ハホト」、「ドファラ」→「ハヘイ」等、和音で音感教育をたたき込まれた思い出が、現在の歌謡指導に役立っている。

山口保治先生(1901～1968年)は豊川市国府町出身。地元ではあの名曲”ナイショ話”(19



39年) “
“かわい
魚屋さん
(1937
年)”の当
時の童謡ヒ

ットメロディの作曲家としての歌
碑を設置して、顕彰されようとし
ている。幼児の語言葉に曲を付け
られたこれらの名曲が、人々の心
に、幼いころの思いが伝わって欲
しいものだ。たった2年間のご指
導だったが、今でも小柄なお姿と
共に、懐かしい思い出の一つであ
る。(01・09)

社会

ドラッグストア再編 16:9:2-3

曾て、薬局経営上、昭和45年加
入した「協同組合東友会ボランタ
リーチェン」(記備談語Ⅱらしんば
んの項目参照)で「コンビニエン

ドラッグストア売上高ランキング (2019年度)

順位	前年度順位	社名	売上高	増減	店舗数	決算期	本部
1	2	ツルハHD (連結)	782,447	16.2	2,082	19/5	北海道
2	1	ウエルシアHD (連結)	779,148	12.1	1,874	19/2	東京
3	5	コスモス薬品 (連結)	611,137	9.5	993	19/5	福岡
4	3	サンドラッグ (連結)	588,069	4.2	1,147	19/3	東京
5	4	マツモトキヨシHD (連結)	575,991	3.1	1,654	19/3	千葉
6	6	スギHD (連結)	488,464	6.9	1,190	19/2	愛知
7	7	ココカラファイン (連結)	400,559	2.5	1,354	19/3	神奈川
8	8	富士薬品ドラッグストアグループ	350,647	2.7	1,337	19/3	埼玉
9	10	クリエイトSDHD (連結)	286,299	6.8	*634	19/5	神奈川
10	9	カワチ薬品 (連結)	264,926	▲1.2	334	19/2	栃木

ス(利便性)“と「プライベート・
ブランド(PB商品)自社開発商
品」を営業の重点とする経営指
導を受けた。

50年後の今日、コンビニエンス
ストア(CS)やドラッグストア

(DS)がこ
んなに発展
するとは想
像も付かな
かった。

8月14日、
大手(DS)
の「ココカラ
ファイン」が
同業の「マツ
モトキヨシ
HD(PB商
品充実)」と
経営統合を
協議する。実
現すれば売

上高1兆円で業界首位(別表参照)
に立つ事になる。(DS)全体7.2兆
円は百貨店5.8兆円を上回る。大手
再編が始まったのだ。加えて(C
S)の薬局化も進んでいて、「ファ
ミリーマート」は「薬ヒグチ」と、
「ローソン」は独自に「ケアローソ
ン」を新店舗化を計る等、今後の
(DS)としての業界再編の焦点は、
生き残り競争の激化に発展するの
だ。(01・09)

健康

サ道のすすめ 16:9:3-1

漫画家タナカツキ氏のサウナ
と水風呂の入り方の体験記が、若
者に人気の様だ。

数々のサウナでの事故と入浴法
(28・10)(30・07)(30・12)は、若
い人にも無関係ではない。『温冷
交代浴』が血液循環と脳に酸素が
広く行き渡り、多幸福感を味わうと

しているが、サウナは実は「温冷交代浴」では無く「熱冷交代浴」なのだ。中年以降の健康体でも、状況に拠っては、温度差80度以上の肉体への負荷は、脳溢血・狭心症・動脈破裂などの血管への危険度が高まるのだ。日本サウナスパ協会が、水風呂の素晴らしさにスポットを当ててくれたと絶賛し、若い人達のサウナ利用が増えること喜んでいる。私は、健康管理上の問題点を学ぶのが「サウナ道」の本質であるべきと考える。血管収縮と拡張の繰り返し、若者と高齢者との肉体への負担の大差が問題と見る。サウナ浴直後の水風呂が一気に「血圧スパイク」の状態になる(8/18東京新聞)。サウナ入浴時間を守り、水を手足に、その後身体に懸け水風呂に入るのが正しい。

(01・09)

世相

左前 16.9.3-2

稼業の左前など、いい意味ではないが、着物の着付けの事である。花火大会・盆踊り・屋形船など夏の風物詩として、浴衣(ゆかた)を着る若者が増えた。浴衣というより和服の着方が今回注目された。「キミ、浴衣の合わせが逆だよ」と呼びかけたことが発端だ。

逆とは、右前・左前の着方のこととで、俗に左前は逝くなった人に行う着付け方なので、縁起が悪いとされている。左前とは「左側が上なのか、右側か？」意見統一が



正しい「右前」の合わせ。
正面から見ると「y」の形になる。

必要だ。

大島寛子着物アドバイザーは、正しくは着物の右襟を先に体に合わせてから左襟を被せる。これを「右前」と呼ぶ(写真)。左側が外側になるので「左前」と間違えて覚える。「前」は「先に」の意味、注意して欲しい。自分から見て、右を先に合わせるから「右前」と覚えてほしいとのことである。

(01・09)

気象

運動中止気温 16.9.3-3

先月まで冷夏を思惟せた6~7月の長雨から、四季の顕著な我が日本列島には「猛暑」が齎(もたら)された。災害級とも言われた昨年に続いて、今年も例年通りやつて来た暑さだ。熱中症予防の為に国際指標で、気温・湿度・日差しの強さ等から算出する「WB

G.T(暑さ指標)」が注目される。環境省のデータによると、2020年五輪開催に当たっても、一年後の開会式7月24日から8月9日の17日間の内、実に14日間も「原則運動中止」が宣言される「危険レベル」の「暑さ指標31.0度」が当てはまると言う。

鈴木俊一五輪相は、今年の五輪テスト大会(同時期・同場所・同競技)の結果を踏まえて、今後の対策を講ずる様だ。報告では、トライアスロン・ビーチバレー・競歩・馬術での実害があり、真夏の屋外運動競技の気温対策(指標31.0度以上は熱中症「危険レベル」を考慮して、特にマラソンコースは日陰皆無の為、時間差等が必要である。

開催国のメンツに懸けても、安全と自然との戦いも勝利したいものだ。(01・09)

2020年東京五輪

主な屋外競技日程と気象状況

主な日程		東京の気象状況(最高値)			
		2019年		19年	
		気温	暑さ指数	気温	暑さ指数
22日	ラグビーワールドカップ1次リーグ開始	33.6	33.4	24.0	23.8
23日	サッカー男子1次リーグ開始	39.0	31.5	29.3	29.8
24日	開会式	35.3	31.5	31.6	30.8
25日	自転車男子ロードレース	32.2	30.1	32.4	31.0
26日	スケートボード男子ストリート	30.7	25.8	33.1	30.2
27日	トライアスロン男子、カヌー・スラローム男子カナディアンシングル	28.5	25.9	31.4	30.4
28日	ソフトボール決勝	28.0	27.2	32.3	31.4
29日	バスケットボール3人制男女決勝	32.3	30.3	33.7	32.0
30日	ゴルフ競技開始	31.9	29.9	33.6	32.7
31日	陸上男子20km競歩	33.8	30.7	34.6	32.7
1日	テニス女子シングルス決勝	35.1	32.7	35.0	33.4
2日	陸上男子100m決勝、女子マラソン	37.3	33.1	35.1	33.0
3日	カヌー・スプリント競技開始	35.4	32.3	33.7	31.8
4日	スポーツクライミング競技開始	34.1	31.5	24.3	31.2
5日	セーリング男女470級	34.7	32.7	34.9	32.0
6日	スケートボード女子	34.0	32.9	35.0	31.8
7日	サッカー女子決勝	25.0	23.3	35.6	32.4
8日	サッカー男子、野球決勝	25.1	25.5	35.5	33.2
9日	男子マラソン、閉会式	32.1	30.5	35.6	34.1

※暑さ指数31.0以上は熱中症「危険レベル」

気象 台風15号列島へ 16:9.3-4

9月9日午前5時ころ、台風15号が千葉市付近に上陸、巨大な風速(千葉最大35.5メートル)を伴って(全国各地15地点で観測史上1位の最大瞬間風速の記録があつ

たとのこと)、猛威を振るい、交通機関の「計画運行」が実施された為沿線各駅へ、早朝より実直なサラーマンが殺到し5〜6時間の乗車待ちを余儀なくされた。成田空港では、風による送電線事故で停電になり、60万所帯がクーラーが使えず、断水もあり、更に36度以上の猛暑がトリプルパンチになり、最悪なブルーマンディとなった。

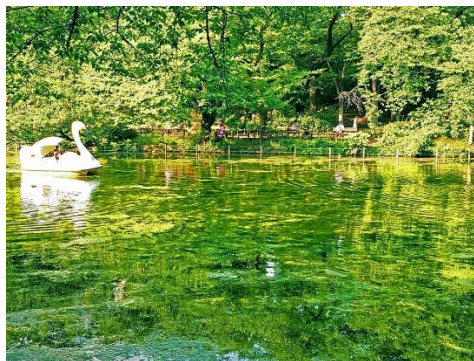
今回の自然の脅威が都市部を襲い、「熱中症」を予測する置き土産として、今夏最後の夏日が9月として二日連続35度を越えたのだ。通電回復も長引きそうだ。

中秋の名月が13日に見られるのに、まだまだ「熱中症」対策が必要な、残暑見舞いになるのだ。「計画運行」も自然相手、全て安全の為に仕方ない。(01・09)

自然

モネの池 16・10・1-2

東京都井の頭恩賜公園では、3回の「かいぼり*1」が奏功し、環境省指定の絶滅危惧種の水草「ツツイトモ」が地面を覆う様に繁殖し、クロード・モネの描いた「睡蓮」に見立てて「まるでモネの池」と評判になっている。



池面を覆うように大繁殖したツツイトモ

「かいぼり」により池の水の透明度が上がり、池底に光が届き、

発芽し易い環境が生じ、ゆつくりと着実に、生態系の復元が感じられる「ツツイトモ*2」などの水草が、昨年の6倍に復活し、池の水辺で暮らす在来生物（スッポン・カイツブリ）等に好影響を与えている。逆に外来生物の駆除（生態系破壊予防）に寄与してる。

*1) かいぼり…池の水を抜き、天日に当てる（掻い掘り）

*2) ツツイトモ…ヒルムシロ科の沈水植物

(01・10)

歴史

「熙代勝覧」絵巻 16・10・1-3

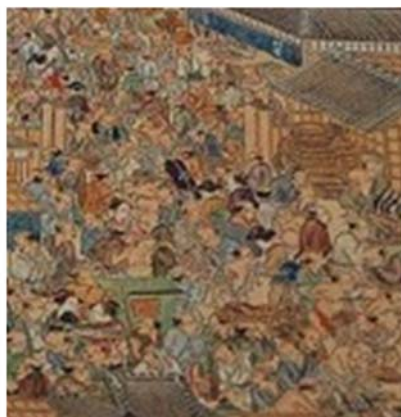
きだい しょうらんと読む。約200年前11代徳川家斉の世・文化2年（1805年）の江戸の日本橋から今川橋間での大通り（現在

の中央通り）を東側から俯瞰描写した作品である。絵師不明のこの作品（ベルリン国立アジア美術館所蔵）には、三井越後屋（現三越）を含む88軒の間屋や店舗 1671人の身分も職業も種々、犬20匹・馬13頭・牛4頭・猿1匹・鷹2羽が生き生きと描かれ、当時の賑わいが望み出来る。

私の生まれ故郷 “本町4丁目”

は地図上では当時 “本銀町3丁目*印”、今川橋と中央通りで直ぐ判る。富士山が日本橋上に描かれている。暖簾や看板で現存の店を探しても、十軒店一軒と三越以外は代が変わりビル街に吸収され見当たらない。

タイトルは「熙（かがや）ける御代の勝れたる大江戸の景観」を表し、常設展示は約17メートルの絵巻で、東京メトロ銀座線「三越前駅」地下コンコース（三越日本橋



本店地下中央口付近)壁面に見ることが出来る。関係者のご努力を称えたい。
(01・10)

社会

花粉症薬自費で 16・10・2-1

2020年度厚生労働省の診療報酬改定に向けて、企業の健康保険組合連合会(健保連)では、処方される花粉症治療薬を公的医療保険の対象から自己負担にし、初診療加算の見直し等を(8・23)提言した。

健保連では、既存の花粉症治療薬の受診レセプトを分析、市販品で代用し、公的医療保険の適用外にする(年間約597億円削減)。また、湿布薬もOTC(大衆医薬品、市販品)にすれば花粉症薬と共に、年間約2126億円の医療費削減になると試算する。

一方、ガン治療薬等では、高額

な新薬が次々と登場する中、3349万円の薬価の白血病治療薬「ギムリア」の売上げが年内72億円見込まれている。高価薬剤が10ヶ出ても、花粉症治療薬を保険適用外にすれば、財源捻出も可能と言う。実は高価薬も少数対象で問題も多い。国民皆保険維持の為、見直しは必要と訴えたが、少数の治療費のカバーに身近な多数が自費にしろとは、言っていることがおかしいと思うが…。(01・10)

世相

親の愛(続) 16・10・2-2

9月18日東京地裁判決は、懲役8年、夫雄大からのDVは限定とした。

既報の「親の愛」(31・04)の中で、保護責任者遺棄致死罪に問われた(2018・3)船戸結愛ちゃん(当時5歳)の母親優里被告の

虐待致死事件第3回公判の結果であつた。懸命に生きようとし、父親の暴力に耐え「あの環境で助けられるのはママだけ」と証言した転居前の香川県の医師、「パパ・ママゆるして！」と健気な直筆が胸を打つ。

8月4日鹿児島県出水市の大家瑠愛来(りあら)ちゃん4歳の父親からの暴行死のニュースが入った。また偶然の「愛」である。地元の児童相談所(児相)が保護したのに母親が引き取りに来ての交際相手の父親に因る惨劇である。虐待が分かつて居ての「児相」の限界対応だったとしても、母親が守らなくてどうする。あつてはならないことが繰り返される。「焼け野の雉(きぎす) 夜の鶴」の動物以下の行為で、母親を罰してもDV(ドメスティックバイオレンス)行為の男こそ極刑に値する。人として

あつてはならないのだ。(01・10)

社会

敬老の日(ランキング)

16・10・2-3

今年の敬老の日、恒例の厚生労働省は100歳以上の高齢者数を発表した。9月15日時点で昨年より1453人増え71238人。

49年連続で過去最高多数を更新した。老人福祉法が制定され、国の表彰が開始された1963年には全国で153人だったのが、98年1万人を越え今年7万人を突破した。男性は132人増(8463人)に対し女性1321人増(62775人)の88%を占め、圧倒的に差がついた。

表は10万人対照比だが、在住最高は東京(6059人)・神奈川(3933人)・大阪(3648人)と大都市に多い。女性最高齢はギネス

順位	都道府県	人口10万人あたり人数
①(3)	高知	101.42
②(4)	鹿児島	100.87
③(1)	島根	99.85
④(2)	鳥取	97.50
⑤(12)	山梨	88.74
...	...	...
④③(43)	神奈川	42.86
④④(44)	大阪	41.39
④⑤(45)	千葉	39.68
④⑥(46)	愛知	37.15
④⑦(47)	埼玉	33.74

()は昨年順位。厚生労働省の資料に基づく

100歳以上高齢者の都道府県別ランキング

認定の福岡市「田中カ子(ネ)」さん(1903年生まれ116歳)が、男女存命世界最高齢である。男性は上越市「渡辺智哲」さん112歳。平均寿命(昨年調査)は女性87.33歳・男性87.25歳で平成元年比共に5歳以上伸び、近年の山梨県の伸びが素晴らしい。(01・10)

運動

スポーツの秋―御嶽海優勝(2)

16・10・3-1

9月22日の北九州は17号暴風雨の中、翌日の新聞のスポーツ欄

は大相撲秋場所「御嶽海関」の優勝決定戦（12勝3敗対貴景勝関）を制し2度目の優勝、女子テニス大阪大会は「大坂なおみ選手」が日本で初優勝、女子ゴルフでは、あの笑顔の「渋野日向子選手」が8位から2差を付けての大逆転V、そしてラグビーW杯の行方と、連休の朝刊紙上を賑やかにして呉れた。

自然災害の対応と復旧経過が、いま一の中で、巨人軍の優勝とクライマックスへの期待、わが法政大学野球部も連勝、罹災者には申し訳無いがスポーツの秋を堪能している。

郷土出身の御嶽海関も「押し」が本物を表し、苦悩の1年2カ月「新しい自分探し」が結実して来た（本人談話）。今後は大関昇進に向い、17場所目連続の三役（小結・関脇）の実績は誰しも認めている

ので、更なる稽古を重ね、ケガを防ぎ「心・技・体」を充実させ、最高位を目指して欲しい。郷土の「雷電関」を越えるのだ。

（01・10）

社会

桐生悠々氏 16.10.3-2

「社会の木鐸たれ」は言論に携わる新聞人の気宇である。90年も前、信濃毎日新聞（信毎）の論説総責任の主筆であった桐生悠々氏が当時の軍部を痛烈に批判し続け、論説「関東防空大演習を嗤（わら）ふ」（昭和8年）で信毎を追われ、名古屋で「他山の石（個人誌）」を発行。戦後、彼が再び注目されたのは、信毎25000号記念で紹介され、当時の文芸評論家「正宗白鳥」氏に取り上げたからだ。曰く、乃木大将殉死（大正元年）を野蛮の造風、米騒動（大正7年）を政

府の無策・内閣批判、前出防空大演習で敵機を東京上空で迎え撃つ想定の意味lessnessなど、彼の一連の言論は犠牲も覚悟で、「他山の石」で「言いたいこと」と「言わねばならぬこと」を述べたのだ。彼の死（昭和16年9月10日）の3カ月後「無謀の極み」としていた米国との戦争に入って行く。彼の言論活動は海外にも視野を広げた豊富な知識に基づいての過去の習慣や時流に流されない開明且つ激越的なものだった。先人の言論の覚悟を知った次第だった。（東京新聞9／8）

（01・10）

その他

記備談語評 16.10.3-3

私のクロニクルを含め、毎月9編エッセイを「信州の東京」に掲載、卒寿に向かって頭の鍛練に、2冊纏まり多くの読書評を戴いた。

1部掲載し、今後の励みにしたい。
☆指圧界の海外パイオニア、ハワイ愛泉指圧学校長「因泥文彦」先輩から、「築かれた各界の地位・名誉・人徳・識見を評価され、浪越徳治郎先生外諸先輩も大いに喜んでいるでしょう」。☆ダイオー社長大槻彰医学博士（92歳）著書多数・「同じ薬剤師として100歳時代到来、執筆活動も内容充実、まさに「我が人生に悔いなし」☆福田伴男医学博士（内科・小児科・エン科・医師、歌手）現役83歳・歌仲間（CD・カラオケ健康法著書）お互いにトシは忘れましょう。☆小林秋朝氏（日本指圧学校元同窓会長・指圧治療院開業中）「秀逸の題名に心が和み「名著」を重ねて下さい。1つの話題を多角的に繙（ひもとく）筆の走り、そんな事もあったなどの複眼的な見方も示唆に富む。読後の褒美は「きび団

世相

葉（紙）巻たばこ発売 16.11.1

10月早々、新聞紙上に3段抜きで「葉巻たばこ新発売（ラッキーストライク社）」の広告が掲載された。それによると「たばこの危険性やニコチンによる喫煙依存で未成年の健康への注意が述べられている。

発売元は（ブリテッシュアメリカン・タバコジャパン）丸に「OKY STRIKE」の文字は終戦直後GI（米軍アーミー）が格好良く喫っていた。文面を読むと疑惑だらけ、写真は「葉巻」の形だが「たばこ葉」を主原料とする「紙」で巻いたことを意味し、「6」「10」の数字は「味わい」や「吸い応え」の

（01・10）

指標で、タール値では無い。喫煙は肺がんの原因、心筋梗塞・脳卒中・肺気腫を悪化させる、未成年には周りの人から勧められても決して吸うな！ニコチン依存を生ずる…とある。誰がこんな危険を冒す商品を求めるのか、20本360円が安いのか高いか？吸わない人には判断に苦しむ広告だ。（01・10）



気象

豪雨台風19号 16.11.1-2

被災13都府県に及ぶ台風19号は想像以上の大災害になり、豪雨による河川（千曲川・阿武隈川・久慈川・那珂川ほか）の堤防決壊、土砂崩れ、冠水、埋没等で広域に亘つての浸水面積は全国の一年度の合計を上回り、昨年7月の西日本豪雨の1.3倍に当たる。的確な予報で可成り事前の警戒注意が徹底したせい、災害犠牲者は77名（内70歳以上33名）行方不明15名であった（10・20現在）。

千曲川は長野市穂保地区で決壊、北陸新幹線車輛センターが浸水（待機10両編成120車両）が電気系統被害で使用不可、長野・東京折り返し運転となった（10・25開通）。

一夜明けて10月13日 // 信州の

集い”は、前日までの準備完了で会場の「メルパルク」（東京芝大門）はホボ満席で時間通り実施され、関係者は胸を撫で下ろした。

地球温暖化の自然災害は「治水」面で、都市部でのインフラ対応が今回も著しく脆く、実害の無い他県も他山の石とすべきである。

（01・11）

その他

蕎麦（そば）異聞 16.11.1-3

”信濃では月と仏と おらがそば”は善光寺参りで戸隠そばを食し、田毎の月を愛（め）でた一茶の句。”引つ越し蕎麦”（お側に参る）・”年越しそば”（大晦日の風習）など、我々の食する”蕎麦”はタデ科の一年草で、三角卵形の種子を挽いて、タンパク質が豊富な、奈良時代から救荒作物として栽培され、「そば切り」によって、

江戸時代から「二八蕎麦」など庶民の食物である。《薬用植物になれなかった”シヤクチリソバ”》（丹野顕）の話が目についた（都薬雑誌10月号）。これは外来種の”シヤクチリソバ”が豊富なルチン（フラボノイド）含み、苦みが強く原産地の一部の中国では国家二級保護植物なのだが、旺盛な繁殖力のせいか、日本の河川周辺では外来種駆逐のため雑草として処理されているが、丹野氏は食用の可能性を示唆しておられる。原産地インド・ブータン・ネパール等では薬効の著しい植物（ルチン100倍）とされている。（01・11）



社会

ふるさと納税制度 16.11.2-1

総務省は6月から、寄付額の3割以下の地場産品提供という趣旨を大幅に逸脱し続けたとして、泉佐野市をこの制度から除外し勧告した。大半の自治体は、6月の法施行後返礼の内容を見直した。そもそも、地方税（住民税）の一部を故郷の自治体などに寄付することを可能にした制度（2008年4月）の“地方税法改正”により翌月から導入、住民税の1割程度を上限に、地方自治体に寄付し、証明書を付けて確定申告すると、寄付額から2000円引いた額に対し、所得税の控除還付と翌年度の住民税の税額控除が受けられるというものだ。地方税収格差が議論される中で生まれた制度なのだ。

納税者が居住しない地域に税金

が移転されることから、行政サービスを利用する住民が税を負担するという“受益者負担の原則”から逸脱との批判があり、豪華な返礼品の提供と巨額の寄付を集めてきた泉佐野市が6月法改正で除外され、処分の正当性で国と自治体の反目は有るべき姿ではなく、納税制度は一考を要するのだ。

(01・11)

健康

ラドン温泉 16.11.2-2

天然のラドン温泉の長所を取り入れた人工のラドン温泉が練馬区貫井2にある。一般銭湯（470円）“貫井浴場”の無料サービスなのだ。別枠室内の壁の能書には「現代生活に最も適した湯治浴として日常の健康管理に利用戴ける。ラドン（元素記号 Rn 86\222）が崩壊して出来る不活性気体が放出す

る粒子のイオン化作用で、血中の中性脂肪・コレステロール・過剰糖分等の代謝分解を促進する。細胞内に溜まった老廃物を除去、新陳代謝を活発化、自律神経系統の活性・調和を促進、内蔵諸器官の基調調節（ママに役立つ）とある。入浴方法は、よく洗った後5〜10分（標準）慣れれば延長も自由。Rnは入浴中の皮膚接触だけでは無く、浴室内（密閉使用）の“Rn空気”を充分に吸収（呼吸）するのが効果的。ゆっくり静かに吸収して欲しい。ポコポコ噴き出る泡を、ゆったりと味わう。

往復4キロ（自転車）も厭わ無い。毎週2〜3回利用の、私の長寿健康法の一つである。

大きなRn発生装置（在脱衣所）が浴場主の気概と感じ、感謝している。

(01・11)

社会

一円玉薄れる存在感 16.11.2-3

消費税が先伸ばしの末、10月から10%になり、区切りは良くなった。キャッシュレス決済が進行する中で、一円玉のその存在感が薄れそうになって来た。

一円玉は1955年に登場、それまでの1円札から順次切り変わって来た。消費税導入の1989年、時代に大量の釣銭の必要から24億8千万枚が製造された。5%時代1997年7億8千万枚に、2011年以降電子マネー普及もあり、8%に上がった2014年1億2千4百万枚、翌年以降貨幣セット用に毎年50万枚が製造されて来た。一円玉の原価は一円以上で赤字(造幣局)。諸外国での最小単位通貨は、オーストラリア・ニュージーランドは端数切り捨て、フィンランド・オランダ・ベルギ

ー・アイルランド4カ国は端数を5刻みにする。カナダは廃止。アメリカは愛着存続の様相である。無くては困るが電子マネー・キャッシュレス時代を迎え、これから「一円玉の旅がらす」は何処へ行くのか、一円を笑えないし泣けないのだ。

(01・11)

世相

黒豚勝定食 16.11.3-1

北島三郎さんと言えば、歌謡界のみならず知名度抜群、東京新宿コマ劇場で46年間座長公演を行っていた頃から、新宿歌舞伎町「とんかつ いむら」の特注「黒豚カツ定食を食べられていた(新村雅彦社長談)。「勝」と焼き印が押され、金粉入りの縁起物(写真)。サブちゃんの愛称の北島三郎さんは、中野区新井に事務所が在り、中野区民の馴染みでもある。馬主とし



黒豚「勝」定食

でも著名で、昨年持馬「キタサンブラック」が、有馬記念を制し、昨年天皇賞も制し「いむらの黒豚定食」として、巷間縁起を担ぐ人々で賑わっている。長野県人会連合会の会合で、昵懇(じっこん)の長野県人会連合会副会長である新村氏(ご子息剣道指導のご縁)から写真とお話を伺った次第。歌舞伎町へお立ち寄りの節は是非ご試食下さい。

(01・11)

社会

母ちゃん記者 16.11.3-2

中野区民なら誰でも知っている

有名人に「週刊とうきょう」編集発行人《涌井友子さん》がいる。タイトルの命名人は故高橋一郎元衆議院議員である。ご主人《涌井啓権氏（故人）》が作成発行していた週刊紙の地方新聞で（名称は大業だが）中野区内のあらゆる情報を収採する4ページのタブロイド判を引き継いで、残された子女を背中に負い、なりふり構わず、自転車で取材に回り、月2回発行の本紙は今年1200号に達した。

ご主人《啓権氏》と共に、大宅壮一氏の大宅塾のメンバーとして活路を求め、人柄から多くの人々に愛され、今日も又、元気に飛び回っている。私も役職の関係で、多くの機会に《涌井母ちゃん》を引き合わせ、記事に仕立てて呉れた。

ご主人の肝臓ガン発症に、末期で腹水除去を漢方で薦めたが進行

が早く目的は果たせなかったが、その顛末を書に表されていた。私と同年で、そのバイタリテイに圧倒される。故高橋先生の表現もうなずかされる。卒寿も通過点か。

(01・11)

医療

がん治療 三題 16・11・3-3

☆子宮頸がんは「ヒトパピローマウイルス（HPV）」の感染が原因。約1万人が感染、約3千人死亡。京都大研究チームが、2022年承認を目指し、臨床薬（治験）を4月に開始した。HPVの増殖に必要な酵素の働きを抑制する化合物が動物実験で効果を確認。予防を目的とするHPVワクチンは国が中止、接種していない。☆進行した肝細胞がんの新治療法を、近畿大チームが発表（8月）。肝臓がんは大小様々な腫瘍が多発する。

個々の局所治療（がんステージ2・3）から、肝臓に栄養を与える部分の兵糧攻めが肝臓全体を弱めるため、経口抗がん剤「レンバチニブ」を先に使う新治療法で著功。☆がんだけ破壊のウイルス治療・東大と信州大でオブジীব（がん免疫治療薬）を併用して、遺伝子組み換えウイルスを使つて5年後の製品化を目指し、皮膚がん治療の選択肢が広がると期待される。治験はメラノーマ（悪性黒色腫）患者を対象。ウイルスとオブジীবの相乗効果を期待、他のがん治療に応用が可能。さらなる医学の進歩を待ちたい。

(01・11)

健康

りんじ湯 16・11・3-4

葛根湯・小青竜湯・小建中湯など漢方薬は「湯」は湯液（とうえき）つまり煎じ薬を指す。表題は

“りんごゆ”つまり “リンゴ風呂”である。

自然回帰水の水風呂で著名な、高円寺 “小杉湯” は「私の健康法の一つ、HSP（ヒートショックプロテイン）療法（温冷浴）でおなじみの “銭湯” である。5月の菖蒲湯，冬至の柚子湯など季節を感じる入浴に，小杉湯では毎日日替わりの「湯」を楽しめるのだ。



台風の被害を受けた長野市津野地区の
りんご畑

変わった所では “コーヒー・実母散・明礬” など，ミルク風呂は毎日とサービス。11月の週末は表題の “りんご湯” を続けると浴場主の平松さん，「北信濃農業復興プロジェクト」との協賛で，19号台風で傷ついた信州名産の “りんご” を大量に提供された経由を語られていた。湯船に浮かぶ（網袋入り） “りんご” に，捨てずに役立たせる信州人の気骨を知り， “りんご” の香りに郷土人の気概と誇りを感じ，充分食べられる堅さと香りがあり懐かしく，心身共に暖まった次第である。（01・11）

世相

井上円了 没後100周年

17.12.1-1

明治の哲学者・教育者であり東洋大学の創立者として知られる

“井上円了”氏が，今年没後10

0周年を迎えた。円了（以下敬称略）が「哲学」に真理を見い出し，寺生まれながら顧みなかった仏教を「西洋哲学」の目で見直し，同等の真理の存在が既に在ることを発見，彼の思想の基盤となり，日本の文化や学問・宗教を守りつつ「哲学」を基礎とした教育に身を捧げることを決意、29歳で東洋大学の前身「私立哲学館」を創立した。

中野区内の名所 “哲学堂” は円了が精神修養の場として創設した公園である。円了の意志により毎年11月第一土曜日に，菩提寺である蓮華寺と公園で哲学堂祭が開催され，（今年は11月2日）哲学のテーマパークとも言われている公園内の四聖堂（釈迦・孔子・ソクラテス・カントが四聖として祀られている）でカントをテーマに記念講演が行われた。

道を挟んだ蓮華寺の円了の墓は、生前の発意による「井の上に円」の墓石（写真）から名前が連想される。御嶽海には母校創始者に大関を贈って欲しいのだ。（01・12）



健康

卒寿・健康五則と五出(すい)の術

17・12・1-2

馬齢を重ね、数え90代に突入する。人生100年は基より120

歳説（肉体の可能性）が聞かれる程、健康オタクの高齢者が夫れ夫れの健康法で充実した生活を送られている。従って、90歳は未だ3／4と考えると、一つの関門かも知れない。

私の健康（法）は、実は「健康五則と五出の術」（28・10）を実行しているのだ。更めて述べさせて戴くと、指聖（恩師）浪越徳治郎先生の提唱している健康五則：快食・快便・快眠・快労（働）・快笑（発声）及び禅宗の掟、五出の術：大小便・汗（労働）・声・精・気（ストレス）を出す、を日頃実行順守しているから「元氣」なのかも知れない。

頭を使い（読む・書く・考える・計画を図る）、声を出し、身体を動かし、心肺機能を高め、よく噛み（30回）唾液を十分出し、胃腸の負担を助け、余分なものを定時に排泄し、いいと思ったことは即実行

し、熟睡することで脳を休める当たり前のことで90歳を獲得し、長野県提唱のPPK（ピンピンコロリ）運動を実践している。（01・12）

世相

選択の見出し 17・12・1-3

一流のジャーナリスト300人超の情報の適確な解説「選択」2019・11から。

《世界》「習近平を国賓で招くべきか」。香港が天安門と化す危機が迫る時、日本は今、最高の接待をすべき相手なのか。「日本の悪夢「中露同盟」の足音」。反米連合が東アジアの脅威に。「世界異常気象はもつと悪化する」。気候変動・災害増加説が続々。《政治》「安倍・菅関係は末期症状」。大臣「辞任ドミノ」で見えた官邸の地割れ。任命責任を問われる安倍は

怒り心頭。それでも官邸No2を制御出来ない権力内部での安倍存在感は薄らぐ。《経済》「関西電力が「同和・北朝鮮・自民党・高浜原発」の暗黒史」、超弩級のスクヤンダルの幕引きに必死。全貌解明で「関電」は持たない。"JR東日本「台風人災」の罪深さ"。北陸新幹線基地車輛「大損害」の真因。《社会・文化》「大嘗祭「前例踏襲」政治の怠慢と皇室の危機感」。一連の即位儀式、政治側一切論議無し。祭祀の簡素化・経費削減を求める皇族の声も政権に無視。etc...もつと明るい話題が欲しい。

(01・12)

社会

首里城炎上

17・12・2-1

沖縄県の首里城は15世紀から19世紀まで続いた琉球王国の王宮である。中国の王宮風の建築に

日本的な飾り屋根が付いた正殿は、琉球文化の神髄として価値が高く、戦前は国宝だったが1945年の沖縄戦で米軍の攻撃により焼失した。戦後その再建には沖縄県人の願いから1992年本土復帰20年記念に復元され2000年の九州・沖縄サミットでも使われ、復帰の象徴であった首里城の主要部分が、配電盤のショートから密閉性のため10月31日夜、正殿から出火焼失してしまった。スプリン



クラー未設置の防火対策が文化財保護の観点で問題点として浮上した。本来、日本の歴史的建造物は復元を含めて多くは木造で火災に弱いので、慎重に管理されて居るべきであり、その不備は全く残念至極。高台・城壁で消防車が近着けなかったようだ。(01・12)

政治

園遊会と桜を見る会

17・12・2-2

毎年、春と秋、東京赤坂御苑で天皇・皇后主催の園遊会がある。原点は明治期に始まった「観桜会」

「観菊会」である。招待者は各省庁が分野毎の功労者を推薦し、宮内庁が取り纏める。昨今、問題になっているのは公的行事として1952年に始まった、首相主催の「桜を見る会」で、各界の功労者を労(ねぎら)うガーデンパーティというが、招待者の選定経緯や

評価に就いては首相一存であり、開催費用は税金で今年は約1万8千人であった。誰を招いたかは、地元の後援者をバスで招待した安倍首相の行為を含めて、招待者名簿は一年未満の文書として開催が終了したので廃棄した(国会答弁)という。

そもそも、園遊会が公的に存在するのに、同じ趣旨の会を別に設けるのはおかしい。行為は似て非なるもの、選挙目当てと言われても仕方がない。辛口の斎藤美奈子女史(本音のコラム/東京新聞)は「菅原大臣のメロン」「河井大臣のウグイス嬢手当」問題より悪質と手厳しい。野党がどう対応するか見ものだ。(01・12)

社会

CSF(豚熱ブタネツ) 17・12・2-3
農林水産省は家畜伝染病「豚コ

レラ」に就いて、11月12日「呼称」を国際的に使用されて居る

「CSF(Classical Swine Fever) 古典的な豚の熱病」に変更すると発表した。人の感染症である「コレラ」の文字が消費者に、いらぬ不安を与えたく無い「風評被害」を防ぐ狙いからの名称変更とある。

近年、国内への侵入が懸念される強力な「アフリカ豚コレラ」も「AFS (African Swine Fever)」に改称し、「コレラ」という文字の排除になった訳だ。そもそも、豚コレラは接触や肉を食べても人には感染せず、名称を変えても、豚属の感染力の強さは変わる訳では無いが、養豚家にとっても感染死を防ぐのが先決なのだ。人間に感染しないといっても死んだ豚は食べたくない。同族の猪(野生)からの感染も予防し、豚(とん)だ猪(亥)年の贈り物にならぬよ

う願いたいものだ。(01・12)

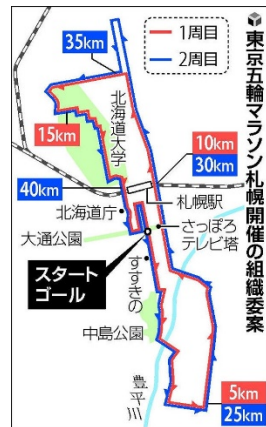
政治

桜を見る会来年中止 17・12・3-1

対応が素早いのは良いが、なんの釈明も説明もなく、安倍首相は11月13日首相主催の「桜を見る会」を来年は取り止めることを決めたと言官房長官が同日午後、記者会見で明らかにした。菅氏は当初、「首相枠・政治枠」は無いとしていた「招待客」についても、内閣官房から推薦を依頼していたと認め、首相の「私物化」との批判が強まったための「中止表明」で幕引きを図ったものと考えられる。あれだけ大々的に招待客の映像を見せられ、会の私物化と選挙活動利用が明らかなのに、安倍首相への忖度が先走った結果であろう。表題の会は今更、招待基準などの見直しをするのは本末転倒の謗

運動
札幌ぐるり
17.12.3-2

いずれも大通公園を発着点とし、マラソンは市中心部を2週、競歩は南北に20〜25往復する。日程



繁華街の“すすきの”を通り抜
け、北海道庁旧本庁舎や北海道大
学などの観光スポットを巡る事
なる。

短期準備8カ月と費用軽減の周
回コースは仕方がないのだ。

$$\begin{pmatrix} 01 \\ \bullet \\ 12 \end{pmatrix}$$

政治

首相在職期間 17.12.3-3

安倍晋三首相の通算在職期間が11月20日、歴代最長となる。明治・大正期を含め最も長い桂太郎首相を越え、2006年9月戦後最年少・戦後生まれの就任からの記録である。

実力と言うか、交代を迫る圧力が存在しないか、失政（可成多い）しても交代の為の首相に相應しい指導者が、与野党に居なかったのが現実の様だ。

衆議院小選挙区制導入は政党・政策本位の制度への移行で、政権交代の可能な状況を作り出し、政治に緊張感を惹起し、腐敗を無くするのが狙いである。昭和から平成の初期の大型疑獄事件は無くなり、政治改革は成果を挙げた。一方、議員の政治生命を左右する権限を権力中枢が握り、財務官僚の

付度政治が起こり、長期政権の
「ひずみ」による政治腐敗は時には独裁政治にもなる。「長きを以て貴としとせず」政治に緊張感を与える適正な権力交代が必要なのだ。乃公出ずんばの気概は皆無か？

(01・12)

運動

0勝29敗(全試合) 17・01・1-1

今期10試合中9試合に登板し4完投、リーグ戦通算(0勝29敗)で大学野球生活に幕を下ろした東京大学野球部エース「小林大雅(ひろまさ)」選手が「不屈の勳章」として称賛された。4年間で51試合に登板、本人は名誉では無いと言

うが、誇る可きもの。

絶対的信頼があったからこそ投げ続け、強い相手にも臆する事なく、最速でも130キロ台位の直球で、プロ入りした選手にも堂々

と立ち向かった4年間は、相手の選手から「鉄腕」と称され、法政大学青木監督は「常に冷静、速い球は無くとも連投で抑える。ウチの選手も見習って欲しい」と称賛した。連投せざるを得ない立場でも、皆が「一勝を！」という思いが伝わり、東京大学浜田監督も「勝たせたかった」と声を震わせた。プロからの引きも無く、一般企業に就職し野球から離れると言う。文武両道は成らずとも、得る物は多大にあったと思う。好漢の別途の活躍を祈る。(02・01)

医療

サプリと医薬(副作用)

17・01・1-2

近年、サプリメント(健康補助食品)の宣伝が顕著になり、マスコミで大々的に取り上げられ、本来の疾患治療のための医療用薬品

(医師に因る処方薬)との組み合わせに多大の副作用を生ずる恐れが判明して来た。週刊誌上で、実名医薬品との相関関係が報道され、自己判断での「サプリ」撰取(医薬品でないので服用ではない)に警鐘を与えている。曰く「病院で一番よく使われている」「100の薬とその副作用(令和2年最新保存板)」「」に関心が深められているのだ。

降圧剤・糖尿病薬・胃腸薬・鎮痛薬・便秘薬・睡眠薬・痛風薬・花粉症薬・ステロイド剤等々の併用複合処方(複数病院・医院による)に健康食品の主成分が加わり、副作用が加重され、問題となっているのだ。「危険な組み合わせ」(週刊現代11・23・30)を参照に、掛かり付け薬局又は医師に相談し、健康食品(サプリメント)を軽く考えず、大事の前に自己防衛を考

慮すべきである。(02・01)

社会

ローマ教皇来日 17・01・1-3

10月23日、天皇陛下即位を内外に宣言された「即位礼正殿の儀」の前日、天候が回復し、皇居方向に低い虹が出現したと新聞報道で写真が掲載されて居た。

23日から26日迄「ローマ法王フランシスコ教皇」が訪日され、日本の宗教史に新たな刻印を残された。長崎・広島・東京等各地に於いて、平和の祈りを捧げられた。その語りかけに、カトリックの信者でない国民も耳を傾け、広島集いには仏教や神道などの指導者も参列し、教皇と言葉を交わし、東京ドームでのミサでは僧衣の仏僧も見られた。諸々の宗教が対話しながら、共に現代の平和希求の課題に立ち向かう方向性を示され

た。庭野平和財団の発表した世論調査によれば、宗教的行為をしない人が約4割居られる中で、国民意識が変わって行く「教皇」の訪日効果は「宗教の役割」の担い方を示唆された素晴らしい外交成果であったのだ。(02・01)

健康

特殊免疫細胞

(CD4陽性キラーT細胞)

17・01・2-1

110歳以上の「超長寿者」が特殊な免疫細胞を通常の健康者より多く持っているという理研と慶応大の研究チームの論文が米国科学アカデミー紀要に掲載された。

老化に伴って免疫力が低下すると、ガンや感染症などのリスクが高まるが、超長寿者は免疫力が良好な状態を保って居ると考えられる。免疫システムで重要な役割を

果たす「T細胞」を詳しく調査し比較した結果、通常はT細胞全体の数%しかないはずの「CD4陽性キラー細胞」が超長寿者では約25%と高い割合で含まれて居ることが判った。この細胞が免疫で果たす詳しい役割は未だよく判っておらず、理化学研究所の研究チームは今後、当該免疫細胞の働きなどを調べ、実際に超長寿者の免疫力の維持にどう拘(か)わって居るのか、遺伝的な要因で多いのか、年を取る内に増えるのか、その仕組みの解明をすることが、今後の研究の焦点になるだろう。(02・01)

政治

中曽根元首相死去 17・01・2-2

まさに「巨星墜(お)つ」の感慨を禁じ得ない。政治の世界に身を置くものにとって導きの星であり、

政治とは何かを考えるに当たって中曽根さんの思想と行動は大事な指針だった。これは11月29日101歳で死去された大勲位に対する橋本五郎読売特別編集委員のお言葉である。『国家を背負った「生涯一書生」』は中曽根康弘元首相に身近に仕えた中曽根内閣官房長官故藤波孝生氏の言葉である。時系列ではないが『ロン・ヤス』『ロッキード』『リクルート』『佐川急便』『国鉄等三公社改革』大事件で名前が浮上、やましいことは一切していないと政治責任を取りアッサリ自民党を離党、『風見鶏』など揶揄されながら、大勲位としての矜持を持ち続け、ジャーナリストの田原総一郎氏は、東西冷戦終了後に中曽根氏から「これは神様が人類にくれた休暇、世界は平和になる」と、戦争を知っている世代の政治家がなくなっただのと

述懐された。戦後を代表する首相は中曽根・吉田・佐藤と挙げても異存はない。(合掌)(02・01)

社会

止める 17.01.2-3

昨年末、令和の政字として政治漫画で高名な『佐藤正明』氏が「止」と題して蘊蓄の在る漫画を描かれていた。この文字はトメル、ヤメル、そして正から一が抜けている等いろいろ考えて見たが当を得ているので列記した。

☆安倍首相…来年はさくらを見る会やめます。☆金正恩委員長…ミサイルやめられない、とめられない。☆習近平国家主席…一国二制度なんか廃止したいよネ。☆林鄭月娥香港特別行政区長官…早くやめ(辞め)たい…。☆文在寅大統領…「G S O M I A」はやめる積もりでした。☆E7…英国ジョン

ソン首相…脱退の動きはとまらない。☆トランプ大統領…CO₂ Stop 誰もとめられないe t c…ハムレットのセリフではないが「止めるべきか止めないか、それが問題だ」の岐路に差しかかっている。よく見ると「止」は「正」の上一面を削った文字である。やめる・とめる、には一本筋の通った筋書きを加えて欲しいものだ。(02・01)

世相

今年の漢字 e.t.c 17.01.3-1

年末恒例の今年の漢字は「令」。世相から言うると「誑(たぶらかす)」ではないかと(12/21付け読売発言)あった。以下、字典より索引、参考に供したい。

「誑(たぶらかす)…上手く人をダマす(騙す・瞞す)欺(あざむ)く・欺瞞。嘘をついて本当で無い」

とを本当と思わせる、転じて他のことに気分を紛(まぎ)らせ、おとなしくさせる。宥(なだ)め賺(す)かす、言いくるめる、機嫌を取る。怒り、不満で興奮してる人の気持ち落ち着かせる。穏やかにする、和(やわ)らげる、平易な言い回しにする、解(わか)り易くする。

「紛(まぎらす)」…から紛れ込む、他の物に入り混じり区別が付かない、状況、形の見分けが付かない、状況や混雑に上手に乗じる。転じて、ごまかす、これが多いのだ。

「誑」には、偽りの言葉で真実を曲げ、人を欺(あざむ)くの意味がある。こうして見ると今の国会の審議状況が彷彿と浮かんて来るではないか。因に、海外部門(漢字圏)で見ると、中国は「穩」、台湾では「乱」とある。皆さんは「何?」。

(02・01)

健康

喉(のど)の健康 17.01.3-2

年末年始、餅などの窒息事故による緊急搬送件数が1月が6月の20倍(東京消防庁)。高齢者に多発する、ノドの嚥下(えんげ)力の低下が原因なのだ。

ノド(喉)の役割として、空気と飲食物の通り道が交差していて、鼻(上部)の空気(呼吸)が肺に、下部の口から飲食等が胃に入る関門なのだ。肺炎での死亡原因は5位だが、肺炎は細菌性の疾患で、窒息などの誤嚥性と区別が付く難く、もつと多い。

咽喉を分けて、咽頭・鼻腔及び食道の間の筋肉性の袋状の管、呼吸・嚥下・発声等の作用。喉頭…気道の一部、上は咽頭に、下は气管に連なる部分、6個の軟骨に囲まれ、中央に声帯がある。発声と嚥下が、ほぼ同じ筋肉を使ってい

るので、声を出し、鼻呼吸を習慣化し、飲み込む動作(ノド仏の上下)つまり「ゴックン」運動で鍛えるのだ。

トレーニング要点:1)顎を持ち上げ、2)イー発声。3)舌出し体操。4)ゴックン運動。5)唾液腺マッサージ(顎下腺・舌下腺・耳下腺)を続けて「ノド」を鍛えよう。

(02・01)

世相

30・10運動 17.01.3-3

この運動は、2011年に長野県松本市で発祥、乾杯後の30分間とお開きの前の10分間、各自の席で残っている料理を食べるよう、幹事から呼びかけるもので、忘年会シーズン真っ盛りの中、食べることに集中する時間を作ると言う、信州人独特の合理性の産物なのだ。宴会は特に食べ残しが起き易く、

予約の際も、年齢層や男女比など適量を勘案し、量を減らす分、質を重視する合理性の対応が考慮され、定着しそうである。

戦中派の私は大歓迎、それでも余ってしまう料理は店側と相談し上で、自己責任を前提に、持ち帰り容器で（もつたいないからウチのポチに：ドツギーバックなどと遠慮せず）見栄など張らず、堂々と余り分を持ち帰るのもいい。国の調査では、宴会は特に食べ残しがり起き易く、七皿の内一皿が残されると言う。業者側は「食中毒」が難点。季節を考え、細菌を増やさないよう（ノロウイルスは冬でも）、水分と温度を考慮し持ち帰り後すぐ処理する等危ないと感じたら捨てる選択肢も忘れない事が肝要。

(02・01)

健康

死なない生活 17・02・1-1

追いに負けるか！運でなく、習慣だ！と叫ばれているのだ。

101歳、現役医師「田中旨夫」先生の著書（幻冬舎12／25）の見出しである。毎日、診察、LINEを駆使、仕事と趣味を満喫。何故、バリバリこなせるのか、その秘訣を、その本で解説されている。高齢化社会の今、一度しかない人生を、一日でも長く楽しまなきや損と、その秘訣の披露なのだ。私の人生観と健康法で同感した次第。

☆ 30分散歩の体力保持☆昼寝少時☆毎朝、足腰柔軟体操☆ねこ背に注意☆15種の野菜摂取☆粗食ではなく肉食を☆チーズ・ヨーグルト等発酵食品☆果物少量毎日☆カルシウム補給☆油はオリーブオイル☆薬膳（漢方）スープ週一☆緑茶☆甘味少量☆玄米食☆減塩

☆トランス脂肪酸禁止☆加工食品不食☆水2L／1日☆薬は最低量に☆体を甘やかさない☆笑顔で対人☆会話が大切☆今日から後10年頑張る決意をする。

まさに私の健康法（27・06、29・03、30・09）そのものと感じ、意を強くした。（02・02）

社会

子育て自転車 17・02・1-2

電動アシスト自転車の事故件数と販売台数（同表）が警視庁・経済産業省生産動態統計として発表された（2018年まで）。何と、一年前の2倍である。その後比例して事故件数が増加している。特に子育て中のママチャリアシストでは、前後に子供を乗せた場合、自転車本体が30kgを超えるので、全重量は100kgを越す。若い母親の力でも二輪車の不安定さは可成手



足に負担となり、転倒を足で支えることになる。歩道上での接触事故はスピードが出ない反面多発するのだ。道路交通法は自転車の歩道進行を認めているが、「車道寄り」を徐行する「児童のヘルメット着用」を決めている。そして自転車協会の安全基準に適合した「BAAマーク」「幼児二人同乗証マーク」の確認をする。安全のためにも順守して欲しい。

(02・02)

その他

卒寿・歌仲間集い 17・02・1-3

令和2年1月8日、サンプラザ14階で私の卒寿を祝う歌仲間が集いが開催された。私が平成25年6月より31年3月まで70回に亘って毎月「ナツメロ&ミニコンサート」を主催し、延べ55名の新旧不問の出演プロ歌手の内、22名の皆さんにより、同窓会的に卒寿を祝って下さったのだ。結果として、100名のご参加を仰ぎ、喜寿・傘寿・米寿と節寿毎に応援してくださったゲスト歌手(花京院しのぶさん・



こゆりさん・西村協さん)の計25名の華やかな歌唱による祝宴になった。身に余る歌の会になり、折から日光燦々のお日とで新春を言祝いだ。ご参加全員で「うたごえ喫茶」形式で私のリードで「カチューシャ」他6曲を楽しんだ。

「たのしいうたげ」は健康長寿への贈り物になった。(02・02)

その他

蕎麦(そば)異聞Ⅱ 17・02・1-4

信州の東京12月号に掲載の「蕎麦異聞」(01・11)に就いて、シャクチリンバ(赤地利・牧野)の権威、長野県連合会会員狛江市の小林尚人様から、「ご丁寧な且つ大変蘊蓄のある、文献をご教示頂き、浅学非才を感じながら、深く感謝とお詫びを申し上げます。

1)掲載の時間差で、信州の東京8〜10月号に小林様のシャクチ

リソバ本文が掲載されていたにも拘わらず、東京都薬剤師会雑誌10月号の「薬用植物になれなかったシヤクチリソバ」(丹野顕氏)に気を執られ、本文を見て無かった事。

2)引用文の、有名な?「信濃では月と仏とおらがそば」が一茶の作でない「一茶顕彰家」中村六郎「作」という文献のコピー「長野郷土史(長野)70号一茶特集号昭和51年11月」を拝見出来た事の2点に就いてである。

薬剤師として薬用植物に関心があり、ルチンを多く含む薬用価値の高いシヤクチリソバを実際に蕎麦打ちされ試食された小林様に敬意を表すものである。(02・02)

健康

COVID-19 17.02.1-5

世界保健機関(WHO)は、2月11日「新型コロナウイルス」

による肺炎を「CORONA VIRUS DISEASE(コロナウイルス病)」と感染が報告された2019年を組み合わせ、「COVID(コビッド)-19」と命名した。

源発地、中国湖北省武漢市が、野生コウモリを感染源として全世界に感染拡大され、死者1016名、感染者42638名(2/11現在)と中国国家衛生健康委員会で発表された。

日本に於いても、集団感染が起きたクルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」が2週間以上横浜埠頭に拘束、下船できず、検査官が感染するなど人道上の問題を含め、不安は隠せない。現在判明している「COVID-19」の検査法は「PCR(ポリメラーゼ)連鎖反応」法で、新型コロナウイルス特有の「遺伝子」を増幅させ、

一定量以上増えれば「陽性」と判定する。ワクチン開発には18ヵ月(WHO)必要。感染拡大は「政治・経済・社会面で」テロ以上「の大混乱」、人類最大の敵なのだ。(02・02)

世界

ウクライナ機誤射 17.02.2-1

東京新聞「筆洗」(1/12)で歴史的な記事の蘊蓄(うんちく)を知り、筆者のアンテナの広さに感激した。9月26日が「核兵器全面廃止国際デー」になった理由は、旧ソ連軍ペトロフ中佐の「咄嗟の判断」に由来する。東西冷戦下の1983年9月26日、旧ソ連のミサイル監視システムの警報で、大陸間弾道ミサイル5発が本土へ!到達20分前、同中佐は「核兵器にしては少ないと判断」、結局何も起きず、システム誤作動によると判

明、大難を免れたという。それが出来なかった悲劇が1月8日のテヘランでの、ウクライナ機墜落(176人全員死亡)である。イランは地对空ミサイル誤射を認めたのだ。人的ミスによる意図しない発射と説明した。たまたま、イランがイラク駐留米軍を攻撃した日のことで、イランは米軍の反撃を身構えていた緊張の中での旅客機が敵に見えたのか? 国と国とが敵対し武力を使う。欧米各国からの追及よりも先にイランは責任を認め早期幕引きを図ったのだ。何の罪も無い犠牲者を悼むのみだ。

(02・02)

健康

入浴剤異聞 17・02・2-2

湯船が4槽ある。水風呂とミルク風呂は変わらない。冷水風呂は自然回帰水の装置を通した地下水

汲み上げの「かけ流し」である。残りの2槽がジャグジー3機各2分スイッチ付き、仕上げが42℃43度の高温槽。夫れ夫れを水風呂で仕上げると約15〜25分の私の入浴健康法である。これが、高円寺「小杉湯」(470円)、魅力は「自然回帰水」と日替わりの「浴剤」の多種に亘る、浴場主平松さんの配慮である。因みに1月某日は、四国より、米糠(ぬか)と海藻を発酵させた「つるぽか」と銚子畳店提供の「イグサ(葦草)」の爽涼感の2種が楽しませてくれた。高円寺界隈にこんなにも入浴する人が居たのかと思うほど繁盛して居るのも、自然回帰水と平松さんのアイデア各種の入浴薬剤のせいかもしれない。日替わりの1カ月の浴剤が張り出される。90歳の私の健康法の一つである熱冷浴(ヒートショックプロテイン/H

SP)療法(28/01・28/12・30/12)で、サウナと違い温度差は30度位、万人向けの入浴法を実践中である。(02・02)

社会

江古田 17・02・2-3

中野区と練馬区の境付近に位置し、学生の街(日本大学芸術学部・武蔵大学・武蔵野音楽大学)として知られている「江古田」は読み方が中野区は「えこた」、練馬区は「えこだ」と呼称している。

15世紀ごろの文献には、文字はあるが読み方は不明とある。西武池袋線は「Ekoda」、都営大江戸線の「新江古田駅」は「Shin-Egota」の表示がある。練馬区にも曾て、江古田町があったが、1960年「旭丘(あさひがおか)」に改名された。中野区の江古田との混同を避ける狙いと、住



民のアンケートで決めたようだ。
地名の由来は「エゴの木」説があり、中野区と練馬区では問題視はしていないようだ。分断・対立が世界中で飛び交う時代に、両区の住民は、互いの地名や歴史・地域への愛着を尊重しあっている。中野区民は譲られた「江古田」を大切にしましょう。(02・02)

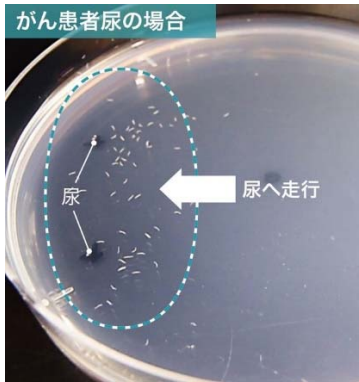
医療

がん発見法

17・02・3-1

検査の名称は「N-N-O-S-E」。犬並みの臭覚で、「がん」患者特

有の尿の匂いに寄り付き、健康人の尿からは逃げる「線虫」の特性を利用した検査法が、今年から実用化される。東京のベンチャー企業「HIROTSU バイオサイエンス社」が、体長約1ミリの線虫に、尿1滴を嗅がせ、「がん」の有無を発見する検査法である。がん患者1400人の検体を使った最新の臨床研究では、約85%の確立で特定したという。早期のガン発見に希望を持たせている。線虫



がん患者の尿に反応する線虫
HIROTSU バイオサイエンス社

健康

骨と脳

17・02・3-2

骨を刺激すると脳が若返る。長野県佐久市佐久病院「鎌田実」先生の鎌田式健康法実践普及で、長野県を長寿日本一に導いた実績の成果である。

認知症と寝たきりを防ぐため、骨の再生を強化する「ポコポコ骨たたき」で骨力と免疫力を活性化

は土壤に生息する微小生物で、簡単に増殖でき検査費用も格安(9800円)。これまでに15種類の「がん」に反応することが確認されているが、現時点での「がん」部位迄は特定出来ない。当面は企業などの検診に組み入れ、部位特定のため、線虫の遺伝子組み換えで22年の実用化を目指している小さくて頼もしい協力者だ。(02・02)

するのだ。〃骨力〃に關し、足腰を強くするには〃筋力〃を強くすることも重要だが、骨そのものを丈夫にすることが大切だ。骨には、古い骨を壊し、健康を維持する〃破骨細胞〃がある。筋力が落ち、関節に負担を懸け、炎症が起き関節痛になり痛みを生ずる。痛いから歩かない、衰える繰り返しが、寝たきりになるのだ。

11月19日の英国科学誌「ネイチャー」に、破骨細胞には善玉と悪玉の2種があると掲載され、悪玉の破骨細胞が生ずるのに必要なタンパク質の働きを抑える薬が開発されたようだ。骨の再生に悪玉が活発に活動するよう、一生自分の足で歩く習慣を付け、骨と脳を運動法で若返らせる事で、元気な老後を期待しよう。(02・02)

医療

〃がん〃5年生存率 17.02.3-3

国立がん研究センターは、昨年末、〃がん〃患者の5年生存率を発表した。毎年公表している数値である。〃がん〃と診断され、5年後に生存している人の割合の事で、今回はすべての〃がん〃で66.4%(前回集計は66.1%)僅かな上昇である。5年で区切るのは、多くの〃がん〃患者は5年を過ぎると、再発が大きく減り、治療の目安になる

主ながんの部位別の5年生存率(%)

	1期	2期	3期	4期
胃	94.7	67.6	45.7	8.9
大腸	95.1	88.5	76.6	18.5
肝臓	60.8	43.9	14.3	2.6
肺	81.6	46.7	22.6	5.2
乳房	99.8	95.7	80.6	35.4

※がん診療連携拠点病院等の2010~11年の診断例

ためなのだ。(ただし、乳〃がん〃では5年を過ぎてても再発が少なく、10年生存率も参

考にした方が良い)。5年生存率算出の意義は、各病院が診察の実態を把握し、継続的に検討し、医療の質の向上に役立てることにある。一般人の感覚は、〃がん〃の種類ごとの「治り易さ・難さ」が分かる点である。医者にとって参考なデータだが、医療は日進月歩、悲観は禁物と言う。(02・02)

社会

無洗米 17.03.1-1

通常の精米では〃糠(ぬか)〃を除去し切れず、粘着性の強い〃ぬか〃が残る。独特の臭いがある〃ぬか〃を米粒から取り除いたのが「無洗米」で、利便性に加え、研ぎ汁が出ないことで、食の多様化で〃米〃全体の消費量が減る中、注目されている。

近年、環境保全の観点から普通の精白米での研ぎ汁が、下水処理

で完全に取り除けない「リンや窒素化合物」―実は米の栄養部分なのだが―が河川や海でのプランクトンの栄養になり、赤潮などの一因となる可能性が、否定出来ない。国連が提唱する「SDGs」(持続可能な開発目標)に合致するとして、無洗米が評価されているのだ。

近年、精白米から事前に残った「ぬか」を除去し回収する方法(水を使わず回収する)が考案され、「無洗米」として発売されている。少しばかり高価でも味が良く、楽と主婦の評判は良い。環境保全と省力化への成果である。また、利便性が高く、国は災害対策への備蓄米として認定している。「米」と「糠」の再認識である。(02・03)

運動

33歳の大相撲ニュース

17.03.1-2

大相撲初場所は33歳で明け暮れた。

☆幕尻(番付け面で幕の内力士の最下位)33歳の徳勝龍が、二横綱不在の今場所、役力士初対戦として、大関貴景勝に千秋楽最後の一番で、臆する事なく堂々の勝利(14勝1敗)を飾り、33歳の荒磯親方(元横綱稀勢の里)が絶賛したという。

☆金星(平幕力士が横綱を破る・美人の事も言う)を33歳の「妙義龍が」二日続けて白鵬・鶴竜二横綱から勝ち取り、横綱を休場に追い込んだ。この場所敢闘の「遠藤」も同場所、二つの金星を挙げている。これも奇遇である。

☆カド番(大関の特権・二場所目の負け越し判定) 大関「豪栄道」

33歳が、足のケガで千秋楽5勝10敗まで勤め上げ、潔く引退の道を選んだ。3年に亘っての大関在位もさることながら、「大和魂を貫く」外連(ケレン)味の無い取り口は、好角家の絶賛するところであった。33歳は「兎と亀」かも知れない。(02・03)

健康

指定感染症(新型コロナウイルス肺炎) 17.03.1-3

あまりに、急激で、進行の速い中国での感染症の出現で、政府の対応は一転して、異例のトップダウン、表題の感染症法上の決定を公表した。

中国武漢に於ける、国家的対応で、閉鎖という伝染防止と、1月26日新たに潜伏期間を「10日前後に最短1日、最長14日」とし、重症急性呼吸器症候群(SARS)

と異なり、潜伏期間も他人への感染力もあるとした。

世界保険機構（WHO）も急激な感染の拡大や感染力の強さなどのリスク評価の変化に危機感を抱いている。政令で指定すると、設備や態勢を備えた全国約500の感染症指定医療機関への強制入院や汚染場所の消毒が可能になる。

ただ、現時点（1/29）では患者と同じ空間にいただけでの感染の高い「風疹（はしか）」に比べると感染力は弱く、風疹のような爆発的拡大の恐れは少ないと見ている。あまりにも急速な報道と対応に、今後の経過を見守りながら、速報にとどめることにする。（02・03）

社会

食品ロス 17.03.2-1

食品廃棄物のうち、まだ食べられるのに捨てられてしまった物を

言う。国内で発生する食品ロスは年間650万トン、東京都民が一年間に消費する量に匹敵するそう

だ。
SDGs（持続可能な開発目標）と言う組織が、世界全体で一人当たりの食品廃棄を半減しようと言う目標を掲げ、日本でも昨年10月「食品ロス削減推進法」が施行され、国民や企業・自治体に取り組みを求めている。

30・10運動（02・01）は、東日本大震災の年に長野県松本市で始まり、全国に広がったが、日本全体では発生する食品ロスの半分は家庭系が占めると言う。

小学校の給食のパンと牛乳を長期間に亘って家庭に持ち帰った教員の行為が報道され、事の善悪と教育上の配慮に矛盾と困惑を生じたようだ。

保健衛生上の観点から捨てるな

ら保管せず計画購入に、又生産者にも同様の配慮を要望し、限られた資源の有効利用を図り、食品ロスを削減しよう。（02・03）

医療

iPS心筋シート 17.03.2-2

大阪大学では1月27日、人のiPS細胞（人工多様性幹細胞）から心臓の筋肉細胞のシートを作り、重症の心疾患患者への移植を世界初の治療を実施したと発表された。京都大学が備蓄する医療用iPS細胞から心筋細胞を作り、直径4〜5cm、厚さ0.1mmのシートに加工した。一例として、血管が詰まり心臓の一部が壊死する虚血性心筋症の患者の心臓表面に3枚を貼付した。術後の経過は順調で、ガンの有無や治療効果を確かめたという。移植したシートは自ら拍動して、心臓の機能を助けると共

に、心筋再生促進成分を放出し、弱った心臓の改善に期待出来ると言う。5年以内の実用化が待たれる画期的なiPS細胞を使った世界初の治療である。安全性や有効性を調べる治験であり、3年間で計10名の患者に実施する。大阪大学では今回、臨床研究よりも基準が厳格である治験を実行し、実用化への動きを加速させている。

iPS細胞移植は目・角膜・パーキンソン病に続き4種類目である。(02・03)

世相

追儼(ついな) 17.03.2-3

古い宮中の儀式で、大晦日の夜、疫病の鬼を追い払った「鬼儼(おにや)らい」が、後に民間で節分の夜、豆を撒く行事になったのが、「追儼(ついな)」という風習である。

小学一年生の疎開先でのおやつに頂いた杯(さかずき)一杯の炒り豆を、布団の中で大事に、小さな皮も身もよく嚙んで味わった「飢(ひも)じい思い出」から、節分の豆撒きが成人後も出来なかったと投書された田中栄子(81)さん(東京新聞1/29)の記事を見た。

敗色濃厚な昭和20年初冬、縁故と集団の「疎開」が国の施策で強制的に実施され、集団疎開の悲惨さを後日知ったが、子供を残す行為と大人の動員が必須であったのが「疎開」だったのだ。初期は好意的な受け入れ先の寺院・旅館・公共施設も窮迫する戦火に、全部ではないが対応の犠牲は学童だったようだ。

食品ロスが問題になる恵まれた現今、豆を撒けない心境は理解出来ないかも知れないが、世界各地の戦争の悲惨さは弱者に真っ先に

及ぶのだ。

(02・03)

故郷

ねずみ大根 17.03.3-1

子年に因んだ長野・坂城(さかき)の伝統野菜である「ねずみ大根」の紹介記事(日経1/3)を戴いた。下膨れした形と長い根っこが「ねずみ」のように見える事が名前の由来とか。

長野県北部にある坂城町は、千曲川と戸倉・上山田温泉にも程近い地域で古くから受け継がれてきたのが「ねずみ大根」である。大きさは普通の大根



きさは普通の大根に對し、2〜300gと可成り小さい。太さ7cm位(写真)。形だけでなく、その味わいに特徴がある。辛さが可成り強く、松尾芭

蕉も「更級紀行」の中で「身にしてみても大根辛し 秋の風」と詠んでいるが、漬けた大根・おろし大根や、蕎麦の薬味として食し、強烈に辛く、身体の芯から暖まり、発汗作用があり、寒いこの地方の珍重品として坂城町では1999年に「振興協議会」を発足、登録品種「からねずみ」として出荷の際、葉を落とし、他の土地で出せない味を確保している「限定野菜」なのだ。一度ご試食をどうぞ！ (02・03)

世相

選択の見出し(20-2)

17.03.3-2

マスコミ界を席卷する300人超の一流ジャーナリストの情報編集の見出しである。

《世界》「壊れ行く日米同盟」、米国に執って「カネ次第」アフガンとイラクからの米軍撤収を急ぐ

トランプは、後事を関係国の自己責任とする方針、同盟の腐食が進む一方。トランプ再選を望まぬプーチン、イラン司令官爆殺に揺れる米露。文在寅が「対北制裁緩和」に邁進、日米韓連携をぶち壊す愚行。《政治》安倍「任期中解散」は消えた、岸田禅譲も黄信号に。2021年10月の可能性大(創価学会最高幹部)。野党共闘「四分五裂」の最悪シナリオ、枝野・玉木で「大同団結」は無理。

「二階の執拗な「岸田叩き」の理由」、宏池会の試練で問われる「宰相の器」。《経済》「Jパワー」「石炭火力依存」は国の恥じ、世界が白眼視する「時代遅れ企業」。「世界経済に「新型肺炎の痛撃」」、中国景気失速と供給不安定は長引く。《社会文化》「新型ウイルスに無防備の日本」、未知の感染症

の恐怖、今後相次ぐ。e.t.c (02・03)

気象

暖冬の戸惑い 17.03.3-3

今年の1月は全国的に暖冬傾向が顕著となり、関東以西(除く沖縄)の月間平均気温は気象庁統計開始(1946年)以降の1月として最高を記録したと発表(02/03)した。

東日本で平年より2.7度、西日本2.8度と高く、最高(1989年1月)を0.5度上回った。

各地点毎では、つくば市2.7度、前橋・水戸市2.6度、全国105地点で観測史上1位(タイを含む)なのだ。異変は、富士市でヒマワリ開花、浜松市は河津桜が花を付け、長野市道の駅でフキノトウが並ぶ、積雪ゼロ。雪や天然氷を利用してきた寒冷地の産業への影響も大だ。

く欲しいのだ。(02・03)

※タイトル「記備談語」について

「記事・備考・談話・語録」の頭文字から「きびだんご」として、健康関連情報や関係団体の新情報、世相のニュースから勝手連的に、日々アンテナを巡らせ、頭の老化防止に努めております。ご笑覧下さい。少しでもお役に立てば幸いです。

薬剤師・指圧師・剣道6段・NAK認定歌謡講師

佐藤 玄祥(博)(土砂)

【註】印刷関係の遅れで、本文記事内容が約1年前の出来事になり、ニュース性が損なわれてしまいましたが、続編を考慮し、お詫びして掲載させて戴きました。

(佐藤)

延期は、ウイルスの人命への影響によるもので、来夏への計画の大幅見直しは、開催国日本の安倍首相として苦汁の決断を表明したのだ。

これを受けてIOCと大会組織委員会は「聖火は日本に留める・東京2020の大会名称は維持する」と共同声明を明示した。一方国連では、G20の首脳に対し、医療制度不十分な途上国への感染拡大の対応を怠れば、パンデミック(世界的大流行)に繋がると警鐘を鳴らし、ヨーロッパでの感染症対策沈静化へ一段の結束が必要で、指導者らの果敢且つ対応の対応をすべきと主張した。米国ジョンス・

の？ (02・03)

社会

東京五輪延期決定 17:03:3-4

3月24日、IOCバツハ会長と安倍首相との電話協議の結果、IOCは臨時理事会を開き、新型コロナウイルスの感染拡大で、東京五輪・パラリンピックの1年延期を正式に決定した。史上初の大会

≪I feel Coke≫

和田 秀敏

いつものように就寝前のひと時
Youtube を検索していると1980
年代のコカ・コーラのコマーシャル
ビデオを見つけた。

「コカ・コーラさわやかテイステイ
ー I feel Coke」

日本が戦後最も輝き無条件に明日
を信じられた時代の映像の若者の笑
顔を眺めているうちに、いつしか最
愛の女房はもはやこの世にはいず、
再び遠い昔に戻れない切なさに大粒
の涙が流れるのを覚えた。

(♪ I feel Coke I feel Coke I
feel Coke)

一・初めてじゃ ないのさあぁ

(♪ I feel Coke)

いつでも いっしょならあ

(♪ I feel Coke)

今なあにかぁ 感じてる

コーカコーラ

さわやかテイステイ

I feel Coke

二・もういいぢや たあしかあめて

えええ (♪ I feel Coke)

今かあら 学びにいい

(♪ I feel Coke)

毎日が 新しい コーカコーラ

さわやか テイステイ

I feel Coke

これは1987年からテレビで放
送されたコカ・コーラ社のコマーシ
ヤルソングで、作曲は元ブルーコメ
ッツの井上大輔さん、日本歌謡大賞
を受賞した「ブルーシャトウ」やシャ
ネルズの「ランナウェイ」、フィンガ
ーファイブの「学園天国」などの名曲
を多数書いている。

当時はよくも悪くもバブル景気に

突入しようとしたところで、日本人が
これほど高景気を謳歌し、胸を張つ
て過ごした時代は後にも先にも無か
ったろう。GDPも国民一人あたりの
国民所得も米国に次ぐ第二位であ
った。一方当時の世界情勢に目を向
けてみると、西側諸国と対立してい
たソビエト連邦はアフガニスタン侵
攻による弊害の影響で、改革派のミ
ハイル・ゴルバチョフが登場する。片
やアメリカ合衆国は住宅金融に破綻
の兆しが出て国内経済は低迷し、失
業者が増え記録的財政赤字につなが
りつつあった。

こうした世界情勢の中で社会が安
定し空前の好景気に見舞われた日本
は日経平均株価は史上最高の高値3
8957円44銭を付けるなど、有
り余る金で海外の資産買いあさった。
著名などころでは三菱地所によるロ
ックフェラー・センターを所有する
ロックフェラーグループの買収、ソ

ニーによるコロムビア映画買収などである。のちにジャパン・バッシングや貿易摩擦を起こしたものの「ジャパン・アズ・ナンバーワン」と持ち上げられ、世界の頂点にあるものと錯覚し酔いしれていた。たとえバブルが破綻するまでの数年間であつたかもしれないが日本人がこれまで自信をもつて世界を席卷したことは無い。

もちろん地上げなどの負の側面も多々あつたが、それでも間もなく起こるバブル崩壊など眼中になく、今日の日本を考えると誰も信じられないようなバラ色の世界であつた。

『I feel Coke』は佐藤竹善さんの甘い歌声をバックに当時では珍しい日本人モデルを中心に映像とコラボするコマーシャルで、当時のシックなファッションもかっこいいし、画面で躍動するモデルさんに憧れた。またモデルさんは若いにも関わらず洗練された大人の雰囲気幼稚さは

みじんもなく、その時代の若い世代には本当に衝撃的であつた。その中心に当時のコマーシャルの女王、松本孝美さんがおり今でもその笑顔に心を奪われる。

このYouTube に寄せられたコメントのいくつかを列挙してみよう。

○最高に楽しい時代なんだってこのCMだけで伝わる

○このころの若い人たちは大人っぽくて男も女もカッコよかった

○もう一度こないかなこの時代

○本当に弾ける若さ。日本全体が元気いっぱいだった

○無条件に明日を信じられた笑顔の時代

○将来にさほど不安をかんじてなかったなあ。この頃は

○涙出るくらいさわやか

○翳りなく眩しく輝いている。幼稚なタレントもいなくて知的だ

○若くてもみんな大人っぽかったね。

清潔でエレガントで素敵です

○映像見ていたら懐かしさと眩しさで胸が苦しくなる

○本当に良い時代でしたね。見ているだけで涙が溢れそうになりました

た
○公衆電話・・・スマホより断然サマになっている

○なんか浮かれていた日本でしただけ、おそろか、希望に溢れた時代でしたよね

このコマーシャルに批判がなかったわけではない。ほかでもない『I feel Coke』が英語をなしてはいないというものである。日本ではほとんど知る人も少ないが、昨年から今年初めまで唯一無二の存在として世界中を狂乱乱舞させた日本のヘビーメタルグループ BABYMETAL が海外公演のイントロでの掛け声は、

Don't think, feel
である。このフレイズはブルース・リ

ーが映画「燃えよドラゴン」で言ったセリフとしても有名である。考えるより感じろ、頭で考えているばかりでなく自分の気持ちに従って行動しなさいということであろう。

『I feel Coke』

まさにこの時代にふさわしい時代を代表するコマースヤルソング、掛け声ではなからうか。

タイムマシンに乗れるか

橋本 英明

タイムマシンで過去に遡り、小学生の自分に会ってみたいとか、若い人なら30年後の自分がどうなっているのかを知りたいというような事を考える人もいるでしょう。

しかし残念ながら、その可能性は低いと見なされる根拠が四つあります。

1) 「後からの光は、前の光に追いつけない事」

過去に遡るとすれば、それは既に出発した光を追いかける事になります。

昔の自分とは、光の記憶です。その時代の光景を見る事は、その時代の光を今の光で追いかける事になります。しかし自然界には、光速よりも速いものは存在しないとされています。つまり後の光は、前の光に追いつけないのです。

2) 「乗員の生命が維持できない事」

速度を光速に近付けるために、ロケットの加速度は限りなく増加されますが、それに従い、ロケットの質量も増加して行きます。これは、特殊相対性理論の有名な式、 $E=mc^2$ に基づきます。(Eを高くすると、MがCの二乗倍にもなる。)

計算によると、1トンのロケットの質量はスピードが光速の90%まで加速された場合、2・3トンに。99%では、7トンになってしまうそうです。(「相対性理論を楽しむ本」佐藤勝彦著、PHP文庫)

ロケットと乗員の質量が増加して行くと、60 kgの体重の人は400 kg位になってしまいます。尤もここまで増える前に亡くなっているでしょうが……。という訳で、昔の自分に出会う事ができたとしても、それを知ることができない状態になっているのです。

3) 「昔の光が拡散してしまっている事」

最近の量子宇宙論によりますと、宇宙には上下、左右の別が無い。(これを等方性と言います。) また濃淡、寒暖、軽重の区別も無い。(「等質性」さらには、宇宙には中心も境界も

存在しないとされています。結局宇宙では何処にいても変わらない、このように宇宙を混沌と見なす原理を「宇宙原理」と称するそうです。

よく宇宙の果てを目指して飛んで行くと、元に戻って来てしまうという言い方がされますが、このような原理と関係しています。

それでも、一方では宇宙の解明を計数的に行った結果があります。それによりますと、宇宙は、ダークマター73%、ダークエネルギー23%、物質2~3%と言うような要素に配分されます。

しかし、太陽、恒星、銀河、星雲などの物質でさえも、拡大無辺な宇宙では、無に等しい存在と見なされてしまうそうです。

さらに言えば、これらの要素は集積せず、散逸しているからです。

このような宇宙の混沌を考えますと、昔の光景がそのままの状態が保

たれたままで遠ざかっているとは考えにくく、昔の光は散乱してしまっている事でしょう。

昔の光、今いずこ？ マシンは、何処へ向かえば良いのが判らないのです。

4 「ワープによる破壊」

近道でタイムマシンがワープできたとしても、一旦、ブラックホールなどで時空概念が失われてしまうと、元通りになつてホワイトホールを出て来られるかの保障がありません。

因果律など物事の道理は、時空概念によつて成り立っているからです。したがつて、その場面に到達した場合、今の容姿でいるというのは、地球上での思い込みに過ぎないのです。

これらの根拠から、映画「Back To The Future」のようなマシンでのタイムトラベルは、不可能である事

が判ります。

しかし、私達は既に日頃から、気軽にタイムトラベルに出掛けているのです。例えば夢の中、飲酒の酩酊、薬物、或いはアルバムやビデオ、映画などによつて過去の出来事を思い出したり、未来を想像したりしています。これはある意味で、時間を超越しているのです。

「時間を遡る」とか、「時間の流れ」などという言い方をしますが、これは時間という川があると見なされている証拠です。

しかし、特殊相対性理論が証明したように、時間は自然界に独立して存在している概念ではありません。時間という客観的な川は、存在していないのです。時間は、私達個々の脳神経組織に由来する私的な概念です。同窓会やタイムカプセル、アルバムを見るなどという方法がロケット代わりのマシンとなるのです。

式場隆三郎著『二笑亭綺譚』 新装版の刊行

―木村莊八の“幻”の挿絵
が媒介するもの

山田 真理子

本年二月、二十七年ぶりに、精神科医・式場隆三郎（一八九八～一九六五）の代表作『二笑亭綺譚』が、本人が終生願っていた木村莊八の“幻”の挿絵と、五十嵐太郎氏の解説を加えた新装版として中西出版より刊行となった。本書の編集担当として、この機会に隆三郎ゆかりの『医家芸術』において作品の紹介と若干の私見を述べさせていただければと思う。

一、二笑亭と『二笑亭綺譚』

二笑亭とは、昭和初年、東京深川において元足袋職人で地主として生活していた渡辺金蔵（一八七七～一九

四二／作中では「赤木城吉」という仮名使用）が、精神疾患を抱えながらもおよそ十年の間芸術的な素養を発揮させ、自らが大工に指示したり自分で造作したり、意のままに建築した個人宅である。昇れない梯子、奥行きのない押し入れ、洋風呂と五右衛門風呂の連結、関東大震災後に建てたバラックを内包するなど、“奇妙な”構造を有していた。

二笑亭は当時「狂人の化物屋敷」と猟奇的に報道されていたが、隆三郎はこれを精神病理学的・芸術的に重要な存在と捉え、「医学的に、彼ののこした大作を分析し、その永い心労が決して無意味におわらなかつたことを世に伝えたい」と『二笑亭綺譚』にまとめ、一九三七年（昭和十二）に『中央公論』（十一、十二月号）に発表した。「私は畏怖し、驚嘆する。だれも実行できない夢と意欲を、悠々とやりとげた逞しい力に圧倒されそ

うだ」、「二笑亭を」グロテスクや、出鱈目の構造物としてこれを見る人は、最も浅い理解者である。そういう要素を取り除いてしまったあとに残る問題が、作者の根深い意志に触れるのだ」と、作者の心に寄り添い丹念に建物を観察し「奇妙な美しさ」を詳述している。本作は大きな反響を呼び、二年後には柳宗悦（一八八九～一九六二）の跋文、谷口吉郎（一九〇四～一九七九）のエッセイ、寿岳文章（一九〇〇～一九九二）の英文解説が付された単行本が出版された。一九三八年（昭和十三）に取り壊された二笑亭を唯一詳細に記録した書として、また隆三郎の代表作としてその後度々復刊され、主として美術史的・建築史的観点から検討されてきた。服部正氏により『アウトサイダー・アート』の先駆的な評価書と位置付けられている。

二、新装版刊行の経緯

新装版の刊行は、画家・木村莊八（一八九三～一九五八）の『幻』の挿絵が見つかったことに端を発する。この挿絵は、本作が戦後に建設社から出版されるにあたり隆三郎が依頼して描いてもらったもので、不運にも出版社の都合でお蔵入りとなり、近年まで半世紀以上行方不明となっていた。これが二〇一五年（平成二十七）の市川市文学ミュージアムの企画展調査の際に式場家で見つかり、その後、当時の出版計画を詳細に伝



二笑亭の外観

える資料も出てきたため、計画を実現させるべく新装版の刊行に着手した次第である。幸いにも中西出版にお引き受けいただき、当時の計画を最大限実現させることを第一に編集し、構想が不明な一部は中西出版・岸上祐史氏のアイデアに導かれながら編者とデザイナーで補作した。



新装版の表紙



木村莊八画「和洋合体風呂」

三、木村莊八の挿絵への熱情―「瀬東綺譚」へのオマージュ

隆三郎は生前、莊八の挿絵を用いて本作を刊行することを熱望していた。しかし、挿絵は相変わらず行方不明で莊八も早くに亡くなったため、最晩年の『決定版 二笑亭綺譚』には莊八の画風を継ぐ三井永一（一九二〇～二〇一三）に挿絵を依頼したほどであった。隆三郎が莊八の挿絵にこれほど強い思いを寄せていたのは、

間違はなく、莊八が挿絵を描いた永井荷風（一八七九～一九五九）の小説「澤東綺譚」（一九三七年発表）へのオマージュであろう。隆三郎が同作を意識していたことは序文に記されており、改めて両作品を読み比べたところ多くの共通項が浮かび上がった。

「澤東綺譚」は、小説家・大江匡と玉ノ井の娼婦・お雪との出会い、その交情の叙述がベースとなっている作品である。作中で大江は「失踪（しつそう）」と題する小説の腹案を練るが、大筋―教師の職にあつた気の弱い主人公・種田は退職金を手にした日、悉く反りが合わない家族の元を去り、女給の元に身を寄せる―は定まったものの、結末を考えあぐねている。しばらくして大江はふと、家族を棄てた主人公・種田が世を忍ぶ場所を玉ノ井附近に決め、描写の精細を極める

ため附近を散策していた。そこで夕立の手引きのもと偶然出会ったのがお雪である。大江は、「失踪」の実地観察をすべく、また嫌いなラジオの音から逃走すべく、銀座丸ノ内のような首都枢要の市街に対する嫌悪から、毎夜のようにお雪の元に通ひ詰めた。

お雪さんは南北の狂言を演じる俳優よりも、蘭蝶を語る鶴賀なにがしよりも、過去を呼返す力においては一層巧妙なる無言の芸術家であつた。わたくしはお雪さんが飯櫃を抱きかかえるようにして飯をよそい、さらさら音を立てて茶漬を掻込む姿を、あまり明くない電燈の光と、絶えざる溝蚊の声の中にじっと眺めやる時、青春のころ狎れ囁しんだ女たちの姿やその住居のさまをありありと目の前に思浮べ

る。

：端無くも銀座あたりの女給と窓の女「お雪」とを比較して、わたくしは後者のなお愛すべく、そしてなお共に人情を語る事ができるもののように感じた：（後略）。――「澤東綺譚」

大江にとつてお雪は、過ぎ去つた良き時代に生きる女たちが持つていた美を今尚有する「ミューズ」であつた。

四、隆三郎が捉えた「澤東綺譚」の本質

隆三郎は「澤東綺譚」の本質を、侘しい場末の裏町に生き世間から汚らしい存在とみなされる娼婦のお雪が秘める美しさの提示、すなわち「世間に背を向けられた存在に内在する美の提示」と捉えたのではない

だろうか。そして、「二笑亭綺譚」において、小説家・大江に自らを重ね合わせ、大江が娼婦のお雪を観察し、汚らわしさの中に古き良き時代の美を見出したように、同様に日陰で生きる赤木を具に観察し、奇怪で不調和な空間の中にある作者の「不屈の意志」から発する美に光を当てた。

隆三郎の「あの家には人間生活を反省させる鏡がたくさんある」というメタファーは、「澤東綺譚」中の大江の「お雪さんは：過去を呼返す力においては一層巧妙なる無言の芸術家であった」という一節への繋がりを感じさせる。「二笑亭・お雪は両者にとつてまるでかけがえのないものを浮かび上がらせる装置のようである。



二笑亭の内部

五、二笑亭への眼差し―「民藝」の思想の影響

最後に、今述べてきたことと関わる重要な点、本作と民藝運動との関係述べたい。民藝運動とは一九二六年（大正十五）に柳宗悦らにより発表された『日本民藝美術館設立趣意書』を起点として始まった文化運動で、無名の職人たちがつくった日用雑器に美を見出し「民藝」（＝「民衆的工藝」）と名付け、新しい美の価値観を提示したものである。隆三郎は、

宗悦に随伴し早い段階から民藝運動に関わり、折しも「二笑亭綺譚」の執筆の頃は隆三郎が民藝運動同人たちとの関係性を強め、運動に本格参入していく時期と重なっている。

隆三郎は二笑亭を柳が提唱する民藝美論が検討すべき資料とし、一部の器物が「民藝」たることを述べる。しかし、調和の点からいったら無数の錯誤があり用途も死んでおり、「用と美をかねた工芸的の王国に近づきながら一歩手前で顛落した部分が多い」と捉える。したがって隆三郎にとつて二笑亭は「民藝」のものではない。

しかし、隆三郎が二笑亭に世間から顧みられなかった美を見出し社会に問う姿は、宗悦が従来、「見捨てられてきた」無名の職人たちの手になる実用品がもつ美に心を寄せ、社会にその重要性を訴えかける姿そのものである。「二笑亭綺譚」は、隆三郎

が恩師である宗悦の眼差しを踏襲したものと位置付けられるのではない。服部正・藤原貞朗氏によると、『二笑亭綺譚』執筆前、隆三郎は患者の創作物をあくまでも精神医学の材料としか見ておらず、初めて芸術的関心で捉えたものが二笑亭であったという。隆三郎にそうさせたのは、宗悦の思想や感性に触れたことが大きかったのではない。

『幻』の木村荘八の挿絵は、『二笑亭綺譚』の中にある詩情豊かな『澤東綺譚』の世界、『民藝』の思想の存在を指し示してくれたように思う。『二笑亭綺譚』は、隆三郎が先人たちのかけがえのない存在に向けた眼差しから学んだものを受け継ぎ、新たな形で示した『実践』の書であった。

(やまだ・まりこ、本書編集担当、医療法人式場病院職員)

参考文献：服部正『アウトサイダー・アート』光文社、二〇〇三年九月／

永井荷風『澤東綺譚』(岩波文庫) 岩波書店、二〇二〇年四月／服部正・藤原貞朗『山下清と昭和の美術』名古屋大学出版会、二〇一四年二月。



式場隆三郎 1937年

式場隆三郎：一八九八年(明治三十二)生まれ。新潟県五泉市出身。新潟医学専門学校(現・新潟大学医学部)を卒業後、新潟脳病院、静岡脳病院等を経て一九三六年(昭和十二)、千葉県市川市に国府台病院(現・式場病院)を開院。ゴッホ研究、民藝運動や山下清の後援活動等に従事。日本医家芸術クラブ初代委員長。

書籍情報

『二笑亭綺譚』

著者 式場隆三郎、柳宗悦、谷口吉郎、五十嵐太郎

挿絵 木村荘八

発行所 中西出版

発行日 二〇二〇年二月二十四日

定価 三〇〇〇円＋税

(A B版、一三七頁)

【お知らせ】

練馬区立美術館で式場隆三郎「脳室反射鏡」展が開催されています。よろしければお誘い合わせの上お出かけくださいませ。

◇会場 練馬区立美術館

◇会期 十二月六日(日) まで

◇時間 十時〜十八時(入館は十七時半まで)

◇休館日 月曜日

◇入館料 一般一〇〇〇円、高年生および六十五〜七十四歳の方八〇〇円、中学生以下および七十五歳以上無料

特集

私の好きな一冊の本

フロイト中山元訳

『人はなぜ戦争をするのか、エロスとタナトス』

光文社古典新訳文庫二〇〇八年二月

中野 弘一

本書の三番目の論文である「喪とメランコリー」は心療内科での私の臨床の一つの拠り所になっている重要な論文である。神経症の理論の始まりがフロイトの「ヒステリー研究」であるならば、抑うつ反応の原点は「喪とメランコリー」である。

私が医者になり、心身医学を専攻し学び始めて三年経った頃である。心療内科の重鎮による治療法の底本

が医歯薬出版から刊行されていた。赤木稔先生による「行動療法と心身症」一九七一年、杉田峰康先生による「交流分析と心身症」一九七三年そして佐々木雄二先生による「自律訓練法と心身症」一九七六年である。この三冊を熟読して、自分なりに受容・支持・保証を軸にした簡易精神療法を治療に応用していた。しかし心療内科における治療の壁は厚く、先輩たちのガイドに従っても如何ともしなかった。

治療の先が見えなくなった時、後に東大心療内科の教授となられる久保木富房先生(当時助手)に相談すると、慶応大学で大学の枠を超えた精神分析の勉強会が始まったので参加してはと勧められた。こうして私は心身症治療の突破口を探しに本格的な精神療法の一つである精神分析入門することになった。最初はメンンガー著小此木啓吾・岩崎徹也訳「精神

分析技法論」一九六九年を読み進んだ。外国語で教科書を読んでいるような感じであった。次に日本教文社版小此木先生訳の「改訂版症例の研究」一九六九年や人文書院版の「ヒステリー研究」一九七七年などを読み進みながら、精神分析的なケースの扱い方やフロイト的な見立てを習った。どれを読んでもフロイトの論文は難解で、読みにくかった。周辺の精神分析関係の著作を指定されるままに毎週一冊ずつ読み進んだ。翻訳で読み解く外国の専門書は特有の読みにくさは感じたが、難解が学ぶ前提でもあった。

小此木先生が中心になって手ほどきをして下さった毎週二時間ずつの勉強会には三十人位の受講生が参加していた。後に教授として大学で教鞭をとられ、今や大重鎮となられた藤山直樹さん、深津千賀子さんそして中村留貴子さんも同期の受講生で

あつた。また精神分析の第一人者であつた小此木先生は一般向きの啓もう書も数多く著されていた。中でも一九七九年中公新書の一冊として出版された「対象喪失」は専門書と言つてもいい内容であつた名著である。

この中公新書の「対象喪失」の主題となつてゐる「喪の仕事」は一九一七年にフロイトが書いた本書で取り上げている「喪とメランコリー」をベースとしている。いわゆるうつ病と反応としてのうつ状態を区別して理解することを言及した論文である。私は人文書院版で三十年以上前に勉強会で接していた論文である。その後も重要論文であるので引用の度に再読していた。十数年前私はこの論文を学生講義のために古典新訳で確認のために手に取つて仰天した。まづ目に入ってくる活字がどの文庫よりも読み易い。私が手にするテキストや文献は日本語に向かない横書きば

かりなので、この文庫を手に取り、文字を追うとホツとする心地よさがある。どうも縦書きであることだけはなさそうである。

「喪とメランコリー」は光文社古典新訳文庫の比較的初期の出版で二〇〇八年に多くの翻訳書を手掛けておられた中山元氏の新訳で取り上げられてゐる。古典新訳のスタートが二〇〇六年であるので、本書は早い時期に刊行されている。古典新訳文庫はといえばドストエフスキー著「カラマーゾフの兄弟」が亀山郁夫先生の訳で、累積百万部を突破するほど爆発的に受け入れられたことで有名な文庫である。なお古典新訳文庫のフロイトの著作は、この外には、本書に先立ち二〇〇七年に刊行された「幻想の未来文化への不満」、続いて二〇一一年に「ドストエフスキーと父親殺し」不気味なもの、そして今年になつて「モーゼと一神教」

が出版されている。更なるフロイト関連書籍の刊行が楽しみである。

しかも「喪とメランコリー」では翻訳の中村氏がフロイトの論文にはない小見出しまで付けてくれており、これも難解なフロイト論文を読み易くすることに貢献していると思う。何より古典新訳文庫は一般読者を対象にしているので、読み易さに配慮されていることはありがたい。

この文庫の発刊に尽力したのは文庫の後付けに発行者として名前が記されている駒井稔さん(当時編集長)である。刊行に至るご苦労や継続的に刊行していくためにかかれた汗については、駒井稔さんの著した「いま息をしている言葉で」而立書房二〇一八年に詳しい。新しい歴史をつくるという事は並大抵のことではできないことがわかる。

古典新訳文庫は現在も毎月刊行されている。関西弁で語り掛ける唯円

の「歎異抄」二〇〇九年やEテレの「100分名著」でも取り上げられたコッローディの「ピノッキオの冒険」二〇一六年は私のお気に入りである。ステイホームの今こそ、息をしている言葉で、古典を新訳文庫で楽しんでいただきたい。

表紙の言葉

『小地蔵』

東京都杉並区 木村 典子

世田谷の浄真寺（九品仏）の紅葉は、京都のような雰囲気があり、見事です。

参道の入り口付近に、小地蔵たちがたたずんでいます。

可愛らしい姿に、心が和みました。

各自の表情を少しずつ変えて、微笑ませてみました。

【第67回医家美術展出品】

愛知で医芸コンサート開催

第一回愛知医芸コンサート

ドン・マンジオーネ・ディ・

アイチ弦楽四重奏団による

ドヴォルザークの弦楽四重奏曲

「アメリカ」

安井廣迪

本年(2020)7月19日(日)、

名古屋で初めての試みとして、弦楽器を弾くドクターの方々に弦楽四重奏団の結成をお願いし、演奏会を開催いたしました。中心になって推進していただいたのは、ヴァイオリンを弾かれる広瀬クリニックの木許泉先生で、このコンサートでは第2ヴァイオリンを担当。第1ヴァイオリンは名古屋市立大学大学院教授の野尻俊輔先生、ヴィオラは名古屋大学

の酒井崇先生、チェロは高橋医院の高橋亮太郎先生という、いずれも各楽器のヴェテランにお集まりいただき、今回の演奏会となりました。

曲目は、私(安井)のリクエストで、ドヴォルザークの弦楽四重奏曲第12番「アメリカ」。演奏者の皆さんはこの曲を演奏するには、何回もリハーサルがいる、というのを、強引に1か月余の練習期間で、しかもたった1回のリハーサルで本番に臨んでいただきました。

第1ヴァイオリンの野尻先生は、選ばれてベルリンフィルのアマチュアオーケストラ(BEフィル)に出演するぐらいの技量の持ち主なのに、「この曲は、ほとんど聴いたことはないし、もちろん弾いたことはない。だいたい弦楽四重奏曲など、これまでやったことはない」ということで、断られそうだったのを、木許先生が強引に引き込んでくれました。



第2ヴァイオリン
木許泉先生



第1ヴァイオリン
野尻俊輔先生



チェロ・高橋亮太郎先生



ヴィオラ・酒井崇先生

ヴィオラの酒井先生は、木許先生ご夫妻のオーケストラ仲間で、もちろん腕前は保証付き。木許先生の言では、抜群の人柄の良さのゆえに入っていたいたとのことでした。

チェロの高橋先生は、落ち着いた演奏姿が絵になる方で、冷静沈着な弓運びが人目を惹き、リハーサル途中には、メンバーにいくつもの建設的な提案をされ、演奏の方向性を決める役割を担っていただきました。

演奏会場は、池下にある素敵なイタリアン・レストラン「ドン・マンジオーネ」。オーナリーの田口玲子さんの、「そういうことなら、ぜひうちのお店をお使いください」というご厚意に甘えて、お



『アメリカ』演奏風景

客さんのいない時間を借り切って、この演奏会となりました。

たった1回のリハーサルしか行わず、はたして大丈夫かという状況でしたが、

期待にたがわず、アンコール2曲を含めて、素晴らしい演奏を披露してくださいました。

なお、このコンサートの模様は、「日本医家芸術クラブ」のホームページ

(<http://www.ika-geijyutsu.jp/>)からYouTubeで配信されています。ぜひご覧ください。



コンサート後、聴衆の皆さんと記念写真

第二回愛知医芸コンサート

ドン・マンジオーネ・ディ・

アイチ弦楽四重奏団による

スメタナの弦楽四重奏曲第一番

「わが生涯より」

本年（2020）7月19日のドヴォルザークのコンサートの成功の後を受けて、今度はスメタナの弦楽四重奏曲第1番「わが生涯より」をやるということになり、11月15日（日）に、やはり池下のイタリアン・レストラン「ドン・マンジオーネ」で、今回はますます状況の悪化するコロナ禍の影響を避けるため、無観客で開催されました。

メンバーは、前回と同じで、以下の通りです。

第1ヴァイオリン…名古屋市立大学
病院内科の野尻俊輔先生

第2ヴァイオリン…広瀬クリニック の木許泉先生

ヴィオラ…名古屋大学精神科の酒井
崇先生

チェロ…高橋医院の高橋亮太郎先生
いずれも各楽器のヴェテランとい
うことで、今回は、コロナ禍の影響を
少しでも避けるために、練習なしの
ぶっつけ本番の演奏会となりました。

結果は、YouTube でお聞きの通り、
とても初めて合わせたとは思えない
仕上がりぶりで、この名曲の形がく
つきりと浮かび上がりました。ただ、
皆さんが一様に「とても弾きにくい」
と感じておられたようで、酒井先生
など、「これではコンチェルトではな
いか!」とつぶやいておられました。
「スメタナはピアノで作曲したの
ではないだろうか。弦楽器が普通に弾
くようにできていない」というのが、
皆さんの一致したご意見でした。

しかし皆さん力演で、第4楽章は、

通常「耳鳴り」と言われる第1ヴァイ
オリンの超高音の後から一転して穏
やかな曲調になりますが、ここから
がこの四重奏団の真骨頂が発揮され、
素晴らしい演奏が聴けます。穏やか
でゆったりとし、間の取り方も素敵
で、弾いている人の心の温かさが聴
き手に伝わり、聴いていて心が豊か
になる思いがします。皆さんの性格
が演奏に出ていると思ったこと
でした。

ということ、今回の演奏会も成
功裏に終了しました。次はぜひお客
さんに入ってもらってという、皆さ
んの希望もあり、コロナ禍の終焉を
願うばかりです。

なお、このコンサートの模様は、
「日本医家芸術クラブ」のホームペ
ージ

(<http://www.ika-gei-jyutsu.jp/>)
からYouTube で配信されています。
ぜひご覧ください。



コンサート終了後



『スメタナ』演奏風景

医芸俳壇



東京 福神規子

濃紅葉やまぼろしに舞ふ祇王祇女

落葉して御廟を蔵す雑木山

竹下駄の白緒まぶしき庵の冬

霜濡れの庭のくさぐさ去来庵

何一つ影だに持たず冬の蝶

医芸歌壇



世の移ろひ

東京 林 宏 匡

「医家芸術」隆盛なりしを懐かしむコロナ禍に脅ゆるこの時世なれ
父子二代会員たりし「医家芸術」血肉分けたる思ひにて読む

この年の医芸歌壇は二人のみ世の移ろひはしみじみ寂し

医の道は日進月歩^{あかへ}赤目して変異ウイルス次々^あ生るる

マスク掛け距離を保ちて有識者議論交わせど凡夫の集い

伯耆富士

東京 林 宏 匡

伯耆富士白雲かかる山谷を車窓に見つつ若き日を愛しむ^を

トンネルを幾度抜けて十月の日野の川面の細波を追ふ^ふ

青鬼の像が見下ろす路の辺に伯耆町なる看板旧りて

岩石の多き川原に撫子の揺るる幻ひかるさざ波

川岸に白鷺一羽息^{やす}むさへ心寂しくなりにけるかも

城

東京 小松 安彦

来し方に旅をするべく久々に新幹線の「のぞみ」に乗りぬ

小田原に熱海掛川次次に天守閣見て振り返る過去

科学館瞬時によぎるのぞみ号声の聞こえる「いっぱい遊んだね」

浜松を通りすぎたり浜名湖の见えてきたればしやぐ子の声

本二冊写真一枚持ち帰るつひに開けたりタイムカプセル

新型コロナ

東京 横田 英夫

新型コロナウィルス蔓延す吾に遠きか近きや否や

入港のクルーズ船に驚きぬ水際対策意表を突かる

雛の客一人も見えぬ雛祭り新型コロナの薄暗き影

案じいし受診抑制更にまた診療拒否も現実となる

マスク以外に防備持たざる一老医われは果たして何をなすべき

俳壇・柳壇・歌壇の原稿を募集します

ぜひ、ご投稿ください。

テーマは特にありません。次号分は2月末原稿締め切りとなります。

どうぞよろしくお願いいたします。



第31回日本医学会総会

ソーシャルイベントに

参加予定

二〇二三年四月に日本医学会が主催する第31回日本医学会総会が開催される予定です。そのソーシャルイベントに当クラブから、美術部・洋楽部・写真部が参加する予定です。

十月末、第一回ソーシャルイベント委員会が東京都医師会館で開かれ、美術部部长・白矢勝一先生と洋楽部部长・萩野仁志先生がウェブ会議にて参加されました。

過去には二〇一一年のソーシャルイベントに参加するべく準備をしていましたが、同年、東日本大震災があり、大規模なイベントは中止。しかし各所でチャリティーイベントが行われ、当クラブでも、シラヤアーツスペース（東京都小平市）にて、美術部・洋楽部合同でチャリティーイベントを開催し、三十万円を超える義援金が集まりました。（詳しい記事は、『医家芸術 二〇一一年春季号 通巻六〇四号』に掲載。ホームページでご覧ください。）

今回もイベントを成功させるべく、打ち合わせを重ねていきますので、開催の際は、会員のみなさまのご参加・ご協力をお願い申し上げます。イベントの詳しい経過は、随時お伝えしていきます。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



2011年チャリティーイベントの様子

『私の好きな1枚のCD（曲）』

『私の好きな1冊の本』

原稿募集

上記テーマで原稿を随時募集しております。思い出やエピソード、お気に入りの理由など、内容はなんでもOKです。

特に文字制限はございませんので、自由に書いて是非ご投稿ください。

原稿はデータで送ってください。USBやCDで郵送していただいてもかまいませんし、当クラブのメールに添付して送っていただいても大丈夫です。よろしくお願いいたします。

igeiclub@coral.ocn.ne.jp

俳壇・柳壇・歌壇

原稿募集

書いていただける先生がだんだん減ってしまい、コーナーが寂しくなってきました。是非お気軽にご投稿ください。5句をひとまとめとして掲載させていただきます。ご投稿のお名前はペンネームでもかまいませんので、その際は本名とペンネームをどちらも記載し送ってください。本誌にはペンネームで掲載いたします。（校正のご連絡をする際に本名が必要になります。）郵送でもFAXでもメールでもかまいません。どうぞよろしくお願いいたします。

FAX : 042-344-0879

igeiclub@coral.ocn.ne.jp